

岸和田市障害福祉計画・障害児福祉計画 策定のためのアンケート調査結果の概要

I 調査の概要

この調査は、「岸和田市第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画」の策定にあたり、基礎資料として、また、今後岸和田市が障害福祉施策を進める上で参考とさせていただくために、障害のある人の生活の様子や福祉サービスの利用状況、生活支援に対するご意見などをお聞かせいただくため、アンケート調査を実施しました。

調査対象、調査期間、調査方法は次表のとおりです。

■調査設計

調査名 項目	障害児福祉計画策定のための アンケート調査（18歳未満対象）	障害福祉計画策定のための アンケート調査（18歳以上対象）
調査対象	平成29年4月1日現在の年齢で抽出 ●身体障害者手帳所持者 60人 ●療育手帳所持者 95人 ●精神障害者保健福祉手帳所持者 15人 計 170人	平成29年4月1日現在の年齢で抽出 ●身体障害者手帳所持者 1,689人 ●療育手帳所持者 240人 ●精神障害者保健福祉手帳所持者 300人 ●自立支援医療（精神通院） 70人 計 2,299人
調査期間	原則、平成29年8月18日（金）から9月5日（火）とし、その後9月25日（月）まで回収しました。	
調査方法	両調査ともに、郵送により配布・回収しました。	

両調査の配布・回収状況は、以下のとおりです。

■調査対象別 配布・回収状況

項目 調査対象	配布数 (件)	不達数 (件)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)	前回調査 回収率(%)
18歳未満対象	170	0	65	38.2%	51.8
18歳以上対象	2,299	20	1,160	50.4%	

注) 有効回収率は、配布数から不達数を引いた数を母数としています。

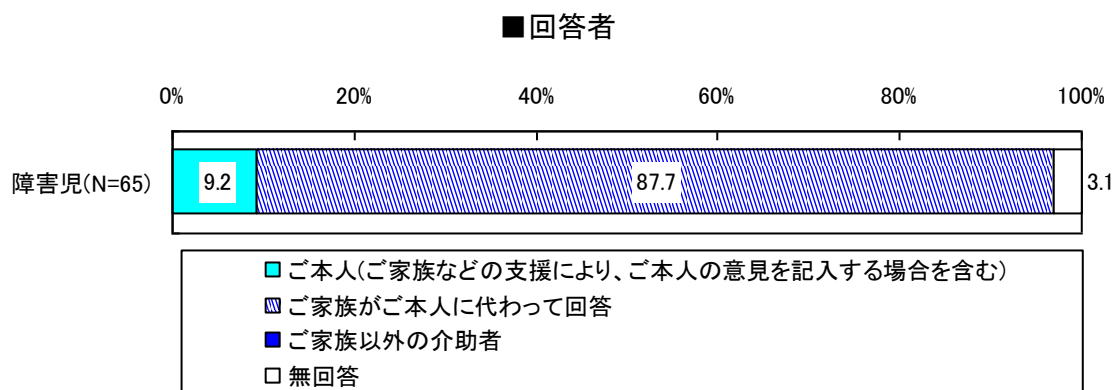
Ⅱ 18歳未満対象調査結果の概要

1 調査対象者や家族のことについて

- 回答者は、「ご本人（ご家族などの支援により、ご本人の意見を記入する場合を含む）」が9.2%、「ご家族がご本人に代わって回答」が87.7%となっています。
- 年齢は2歳以上からの回答があり、「就学前」が10.8%、「小学生」が35.4%、「中学生」が29.2%、「高校生等」が24.6%で、「小学生」が最も多くなっています。
- 性別は、「女性」が41.5%、「男性」が56.9%で、「男性」が高くなっています。
- 小学校区は、「城内」及び「中央」がそれぞれ10.8%で最も高く、その他の小学校区は10%を割っています。
- 現在の暮らしは、「ご家族と暮らしている」が98.5%、「障害児入所施設で暮らしている」が1.5%となっています。
- ご家族と暮らしている児童の場合、家族形態では「核家族（親子）」が68.8%で最も高く、「ひとり親」が14.1%、「三世代等」が9.4%などとなっています。

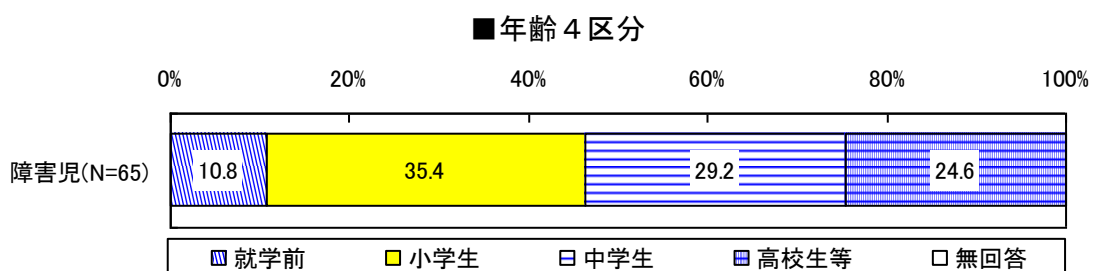
① 回答者

問1 このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。（1つだけ○）



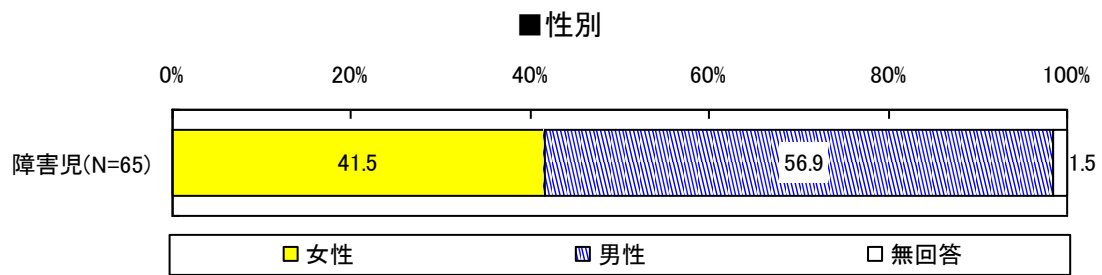
② 年齢

問2 アンケートの宛名のあなたの年齢をお答えください。（平成29年4月1日現在）



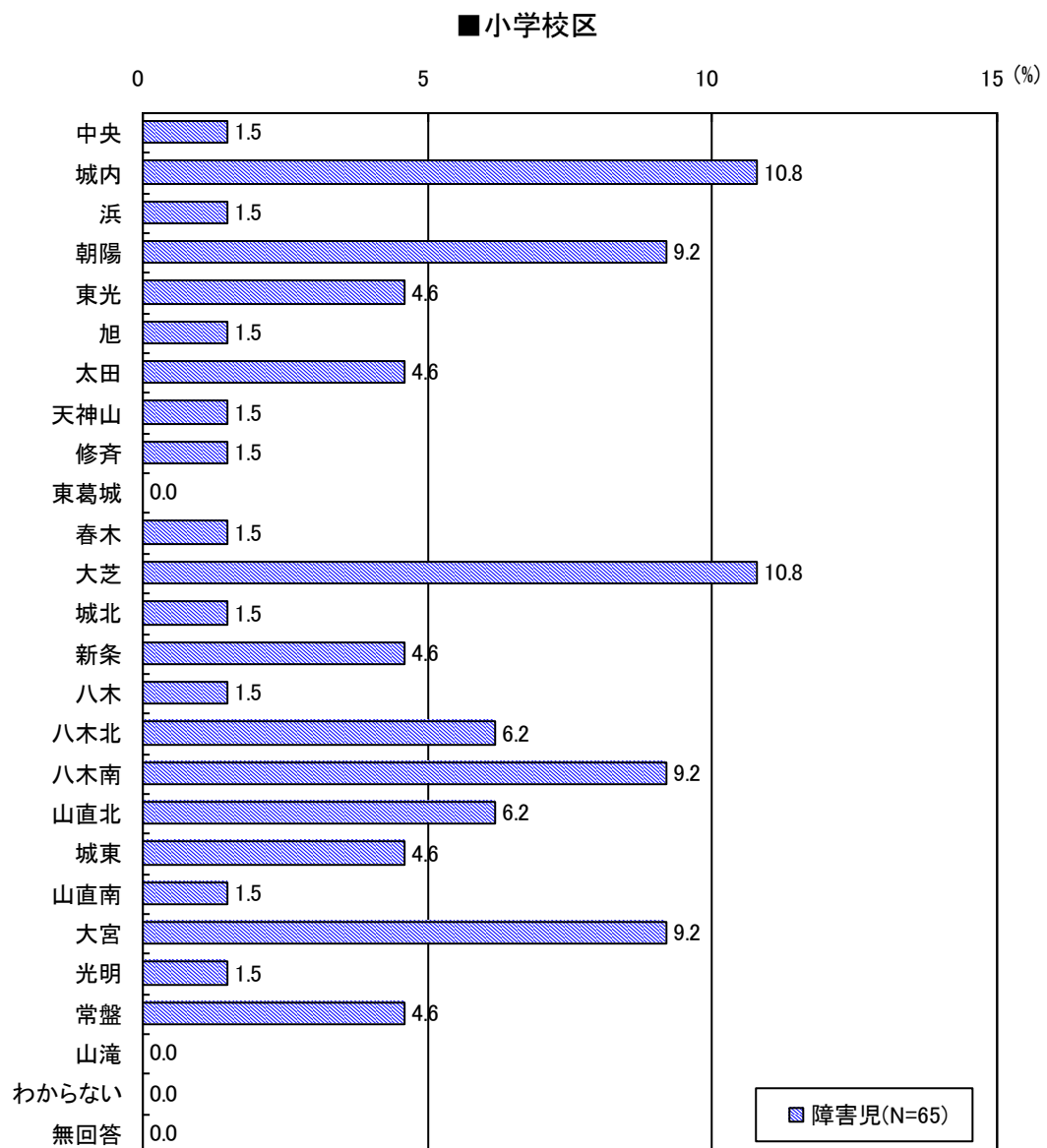
③ 性別

問3 アンケートの宛名のあなたの性別をお答えください。(どちらかに○)



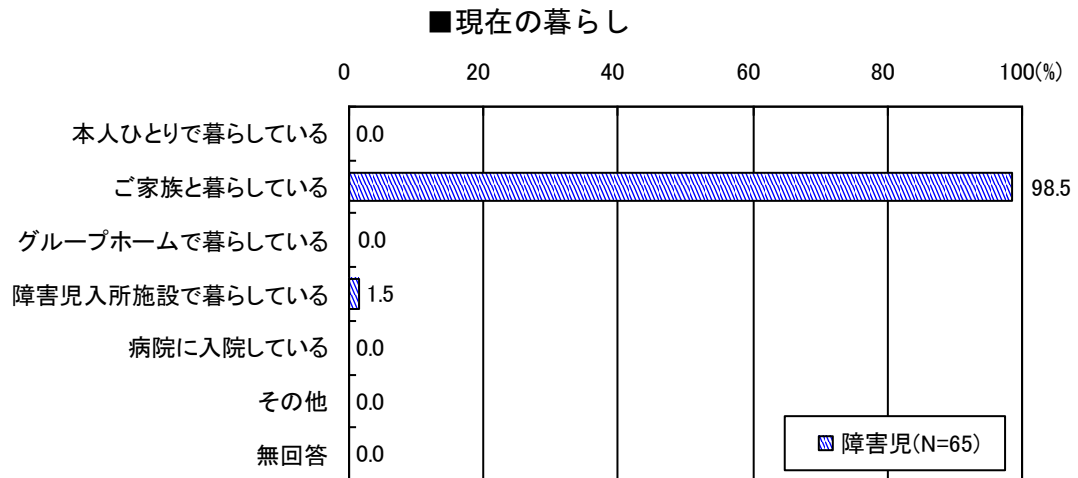
④ 居住小学校区

問4 アンケートの宛名のあなたがお住まいの小学校区はどこですか。(1つだけ○)

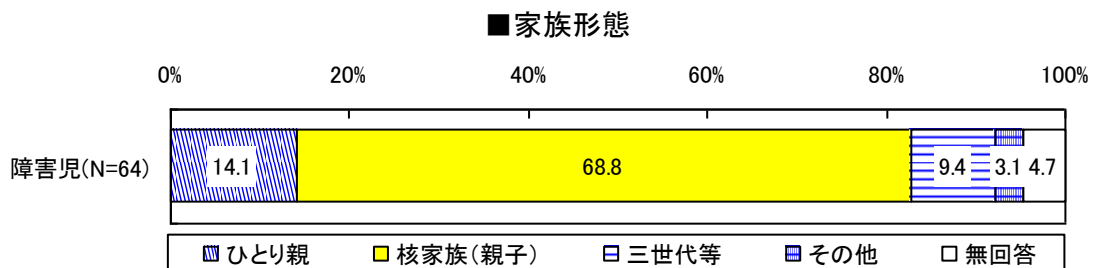
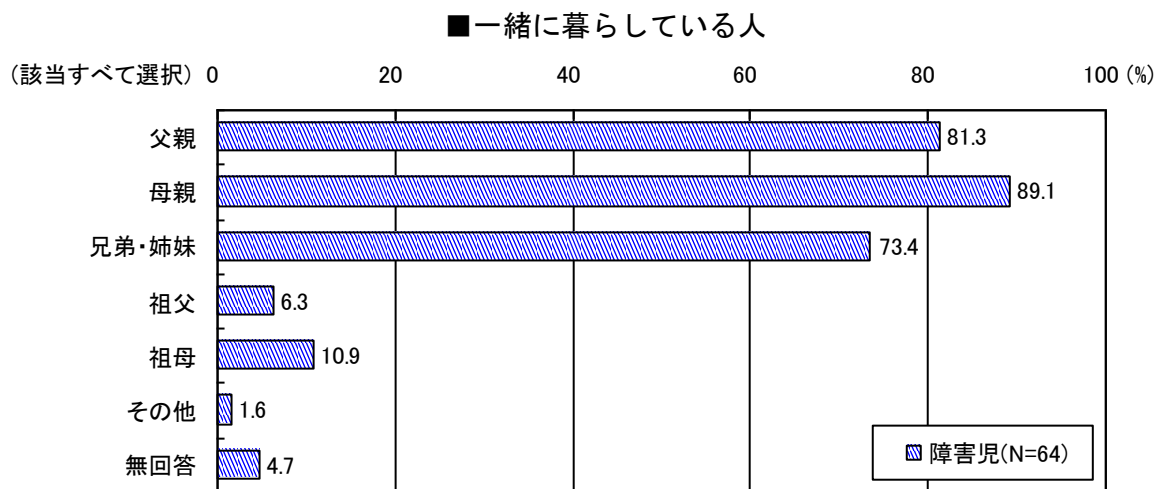


⑤ 現在の暮らし

問5 現在、アンケートの宛名のあなたは、どのように暮らしていますか。
(1つだけ○)



問5-① 「2. ご家族と暮らしている」とお答えの方におたずねします。一緒に暮らしている人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)



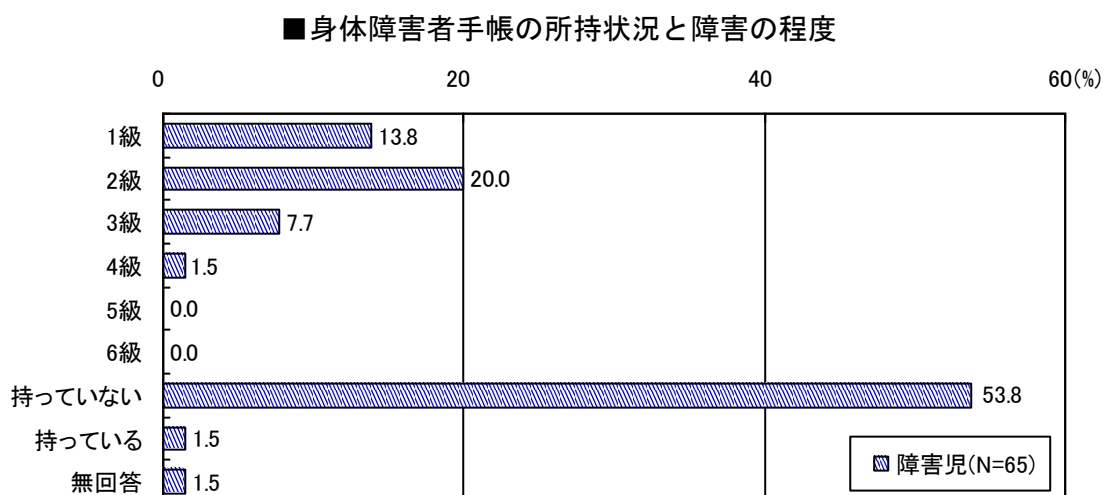
2 障害の状況について

(1) 障害者手帳所持の状況

- 身体障害者手帳所持児童は、「持っていない」の53.8%と無回答の1.5%を除いた44.7%となっています。身体障害者手帳所持児童の障害の程度は、「1級」(13.8%)及び「2級」(20.0%)の重度が33.8%となっています。
- 身体障害者手帳所持児童の障害の内容は、「肢体不自由(体幹)」が21.4%で最も高く、次いで「肢体不自由(脳原性)」及び「その他」(各17.9%)、「肢体不自由(下肢)」(14.3%)、「聴覚・平衡機能障害」(10.7%)、「肢体不自由(上肢)」及び「内部障害」(各7.1%)となっています。「視覚障害」及び「音声・言語・そしゃく機能障害」は該当なしとなっています。「その他」は複数の障害の記載となっています。
- 療育手帳所持児童は、「持っていない」の21.5%と無回答の3.1%を除いた75.4%となっています。療育手帳所持児童の障害の程度は、重度の「A判定」が32.3%で最も高く、「B1判定」が13.8%、「B2判定」が29.2%となっています。
- 精神障害者保健福祉手帳所持児童は、「持っていない」の80.0%と無回答の6.2%を除いた13.8%となっています。精神障害者保健福祉手帳所持児童の障害の程度は、重度の「1級」は該当がなく、「2級」が4.6%、「3級」が9.2%となっています。
- 手帳の所持状況から障害種別をみると、「身体障害のみ」が13.8%、「知的障害のみ」が43.1%、「精神障害のみ」が9.2%、「重複障害」が33.8%となっています。
- 身体障害者手帳の「1級」及び「2級」と療育手帳の「A判定」の両方の重度心身障害のある児童は23.1%となっています

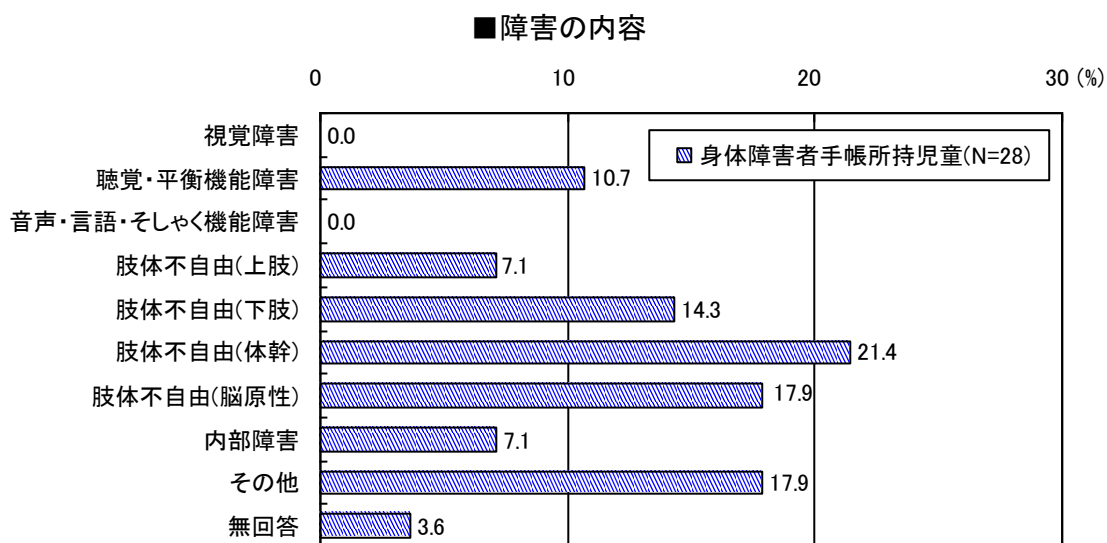
① 身体障害者手帳の所持状況と障害の程度、障害の内容

問6 アンケートの宛名のあなたは、身体障害者手帳をお持ちですか。(1つだけ○)



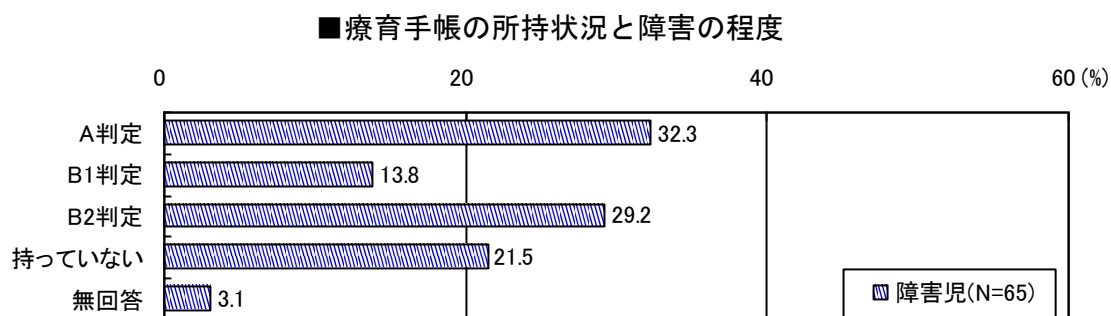
注)「持っている」は、この質問には回答がないものの、次の問7の障害の内容に回答があったため、集計上設定した項目。

問7 身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。主な障害をお答えください。
複数の障害認定を受けている場合は、手帳の等級が最も高い（障害の程度が重い）ものに1つだけ○をつけてください。



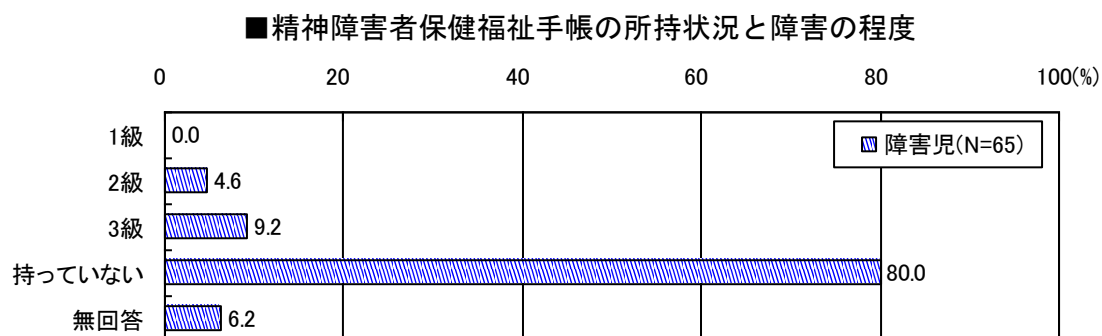
② 療育手帳の所持状況と障害の程度

問8 アンケートの宛名のあなたは、療育手帳をお持ちですか。（1つだけ○）

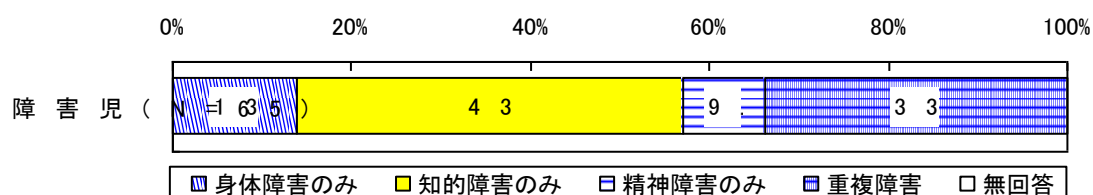


③ 精神障害者保健福祉手帳の所持状況と障害の程度

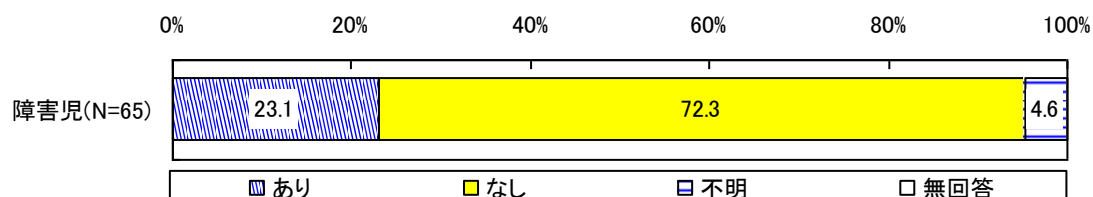
問9 アンケートの宛名のあなたは、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。
（1つだけ○）



④ 障害の種類



⑤ 重度心身障害の有無

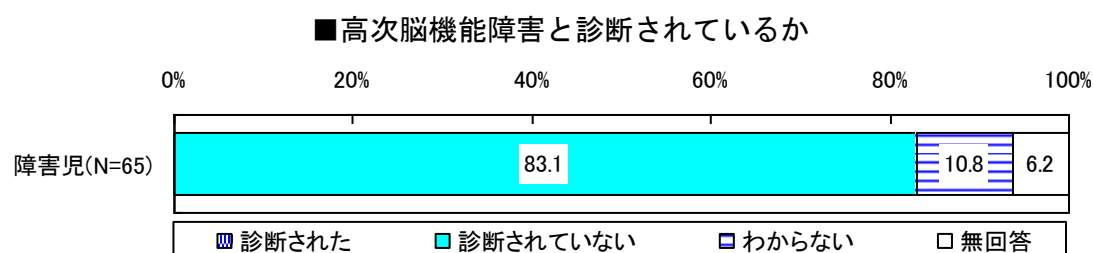


(2) 高次脳機能障害、難病の状況

- 高次脳機能障害として、「診断された」は該当がなく、「診断されていない」が83.1%、「わからない」が10.8%となっています。
- 難病の認定について、「受けている」は9.2%、「受けていない」が81.5%、「わからない」が4.6%となっています。

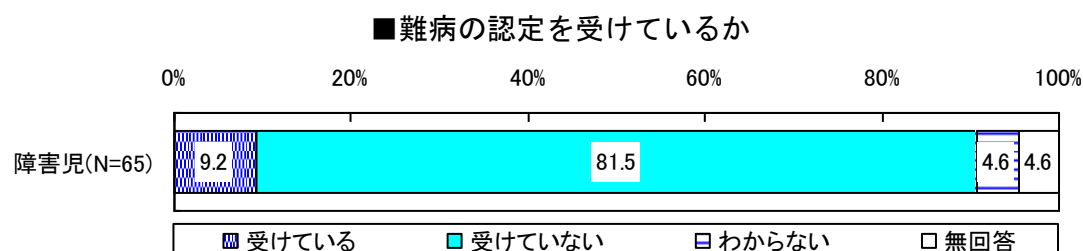
① 高次脳機能障害と診断されているか

問10 アンケートの宛名のあなたは、高次脳機能障害と診断されていますか。
(1つだけ○)



② 難病の認定を受けているか

問11 アンケートの宛名のあなたは、難病の認定を受けていますか。(1つだけ○)

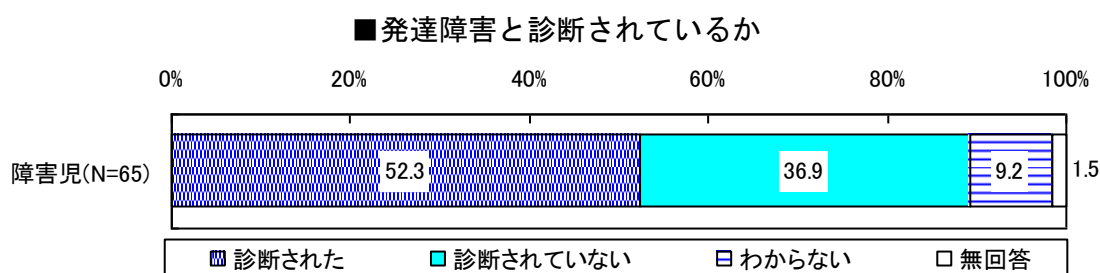


(3) 発達障害の状況

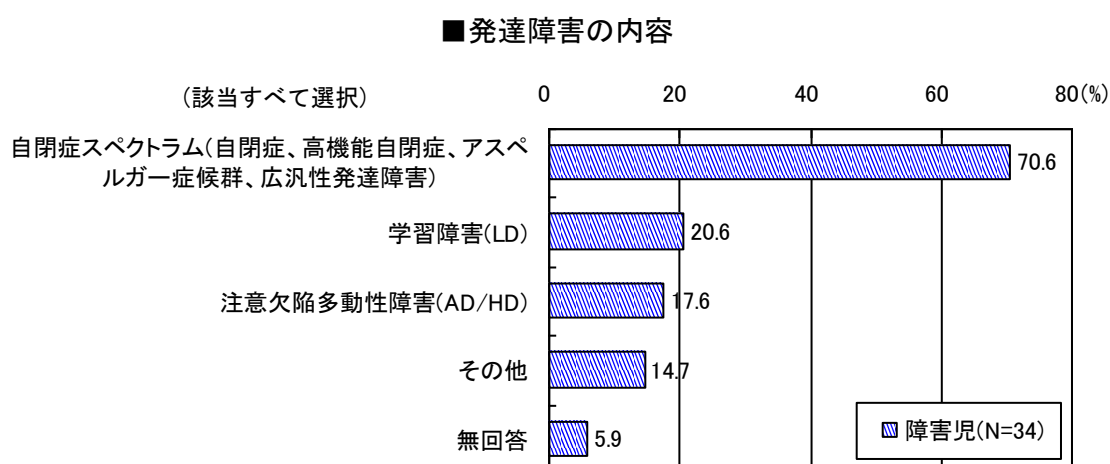
- 発達障害として「診断された」は52.3%で、およそ半数となっていて、「診断されていない」が36.9%、「わからない」が9.2%となっています。
- 診断・判定の内容は、「自閉症スペクトラム（自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害）」が70.6%で最も高く、「学習障害（LD）」が20.6%、「注意欠陥多動性障害（AD／HD）」が17.6%などとなっています。
- 発達障害と「診断された」児童の場合、診断を受けようと思ったきっかけは、「乳幼児健診」が55.9%、「その他」が20.6%、「家族など身近な人が気がついた」が8.8%などとなっています。
- 発達障害と「診断された」児童の場合、診断後の相談先は、「病院などの医療機関」が44.1%、「保健所」が35.3%、「小学校や中学校、高校」及び「その他」がそれぞれ20.6%などとなっています。

① 発達障害と診断されているか

問12 アンケートの宛名のあなたは、発達障害と診断されていますか。（1つだけ○）

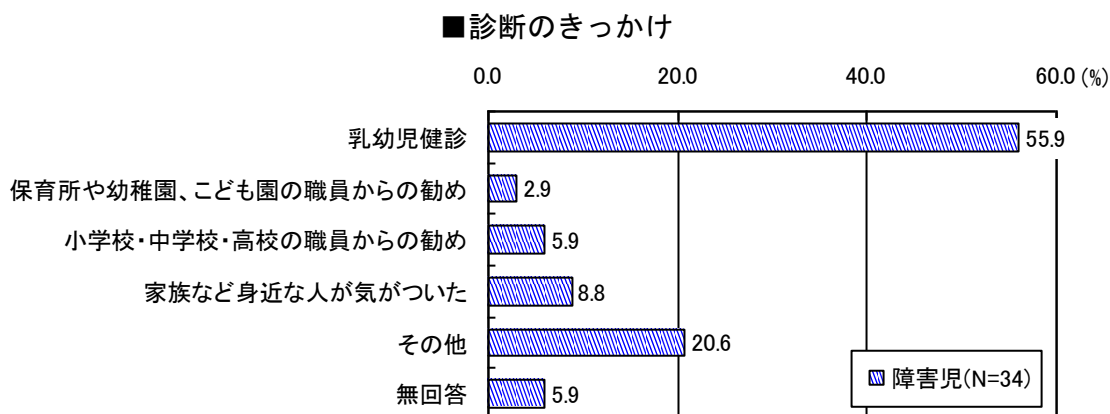


② 診断・判定の内容



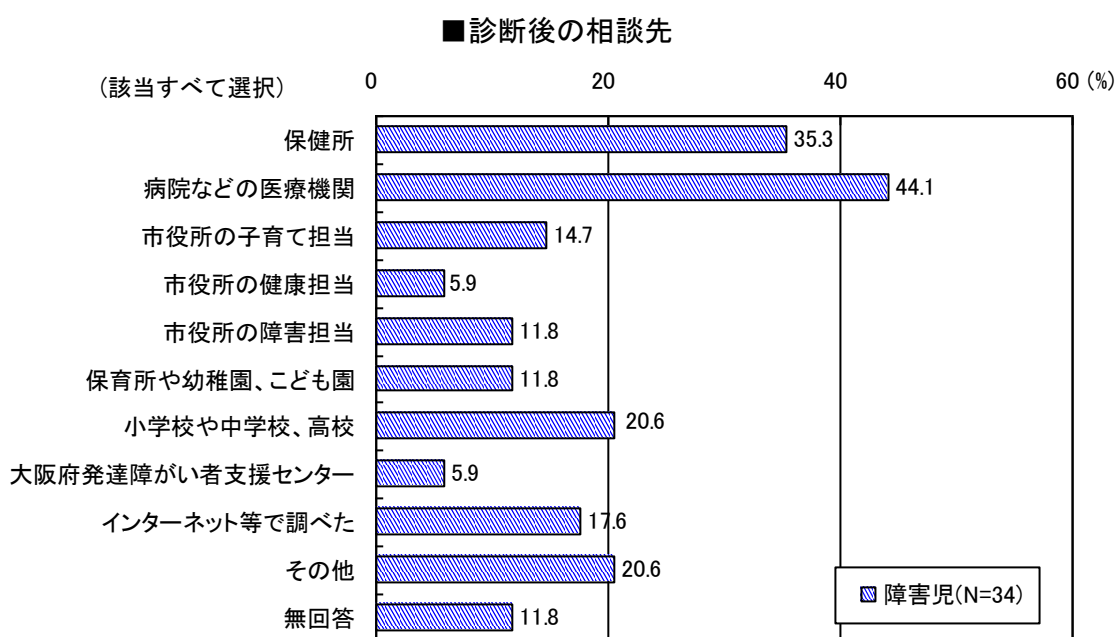
③ 診断のきっかけ

問13 問12で「1. 診断された」とお答えの方におたずねします。あなたは、何をきっかけに診断を受けようと思いましたか。(1つだけ○)



④ 診断後の相談先

問14 問12で「1. 診断された」とお答えの方におたずねします。あなたは、診断を受けた後に、どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

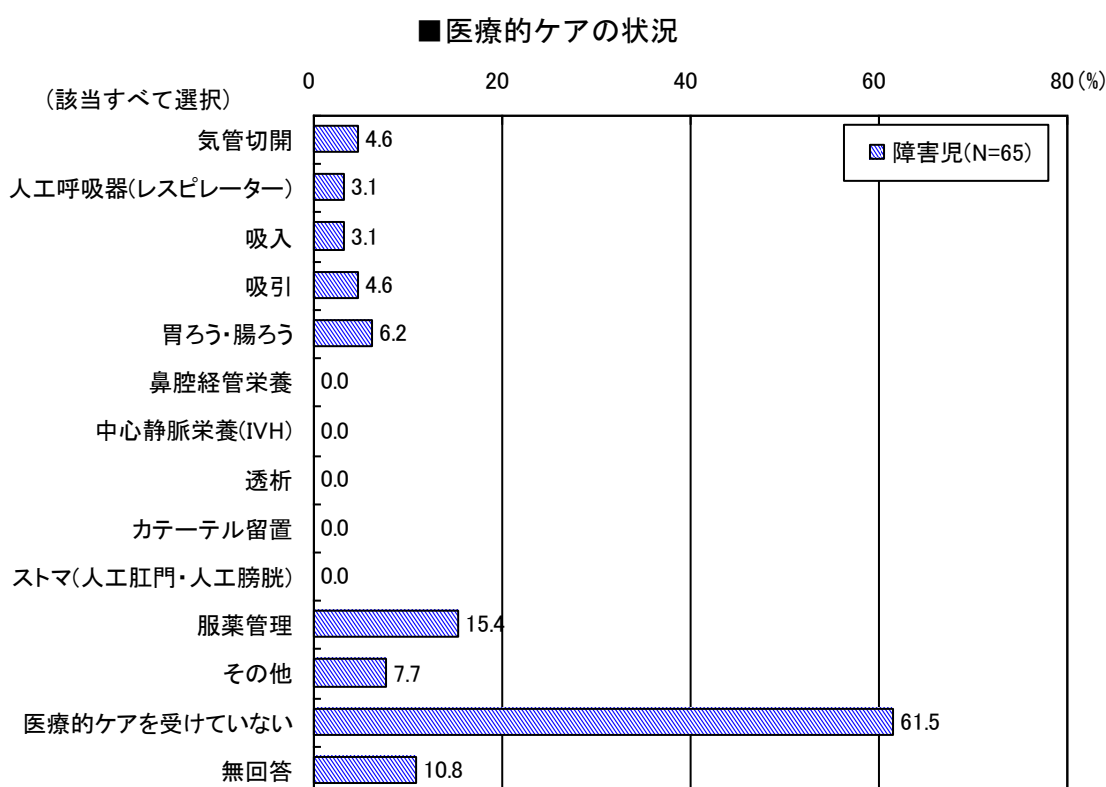


(4) 医療との関係

- 医療的ケアを受けている児童は、「医療的ケアを受けていない」の61.5%と無回答の10.8%を除いた27.7%で、およそ4人に1人となっています。
- 受けているケアで最も高いのが「服薬管理」で15.4%、次いで「その他」が7.7%、「胃ろう・腸ろう」が6.2%で、これ以外は5%を割っています。
- 夜間や休日に急に具合が悪くなったことがある児童は、「夜間や休日に急に具合が悪くなったことはない」の56.9%と無回答の10.8%を除いた32.3%となっています。対応としては、「かかりつけ医にすぐにみてもらった」が16.9%、「救急車を呼んで病院にみてもらった」が9.2%、「その他」が3.1%などとなっています。一方、【我慢した】は「処方された薬などを服用して」が6.2%、「病院や診療所の診察が始まるまで」及び「何もしないで」がそれぞれ4.6%となっています。

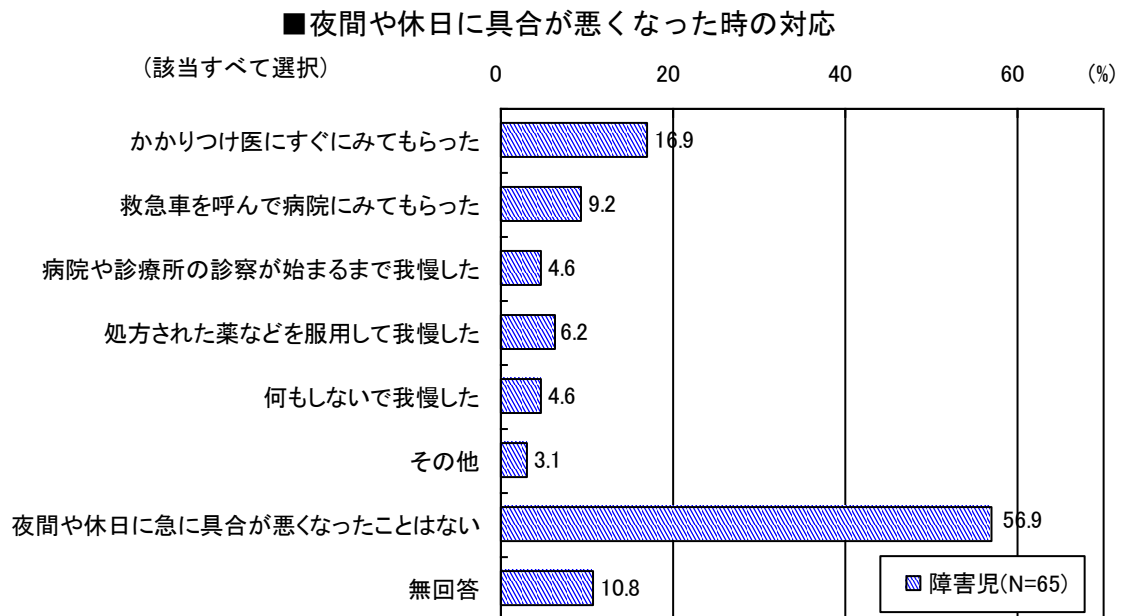
① 医療的ケアの状況

問15 アンケートの宛名のあなたのすべての方におたずねします。現在受けている医療的ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)



② 夜間や休日に具合が悪くなった時の対応

問16 アンケートの宛名のあなたは、ご自身の障害のことで夜間や休日に急に具合が悪くなった時、どのような対応をとりましたか。(あてはまるものすべてに○)

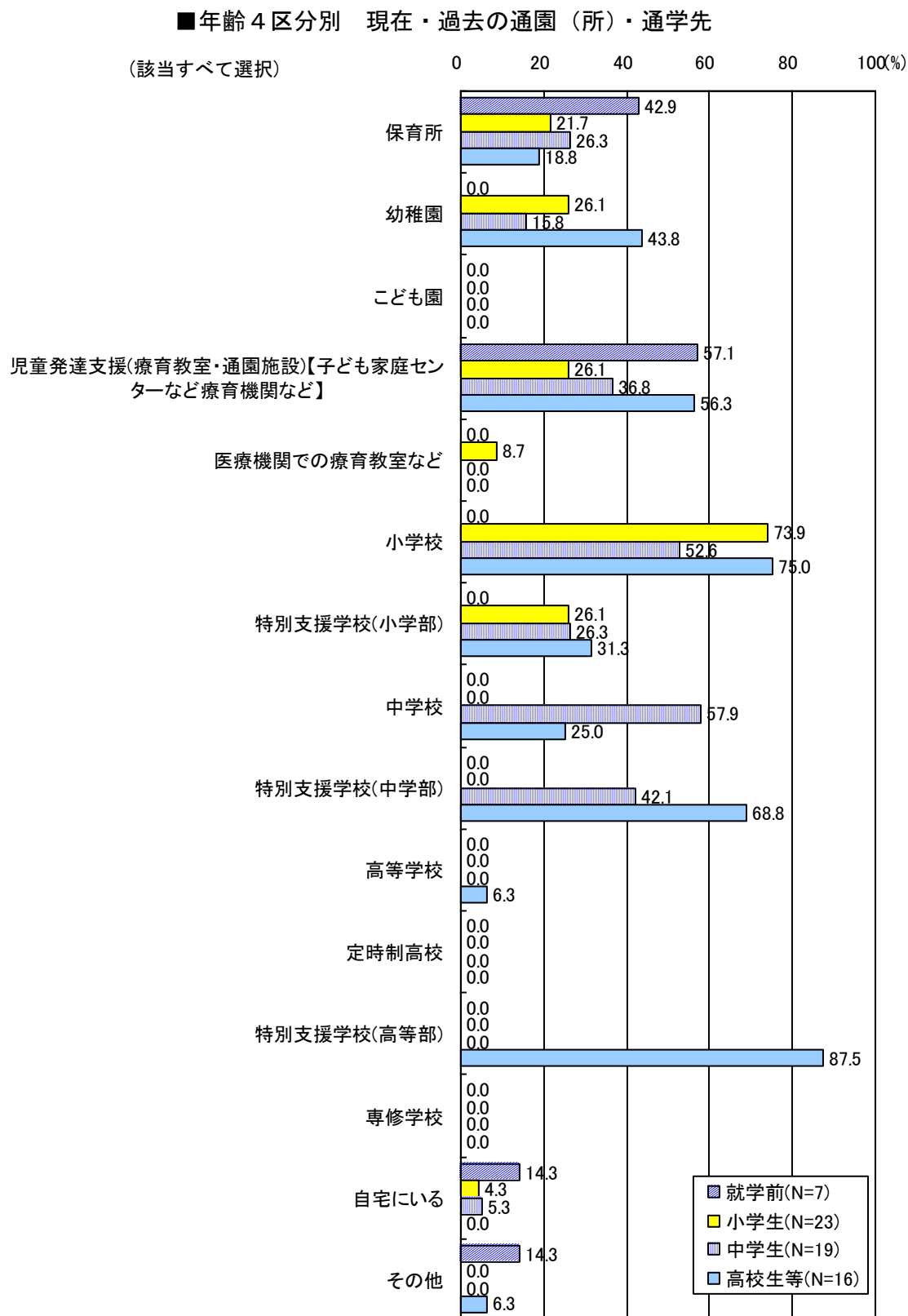


3 育成・教育などについて

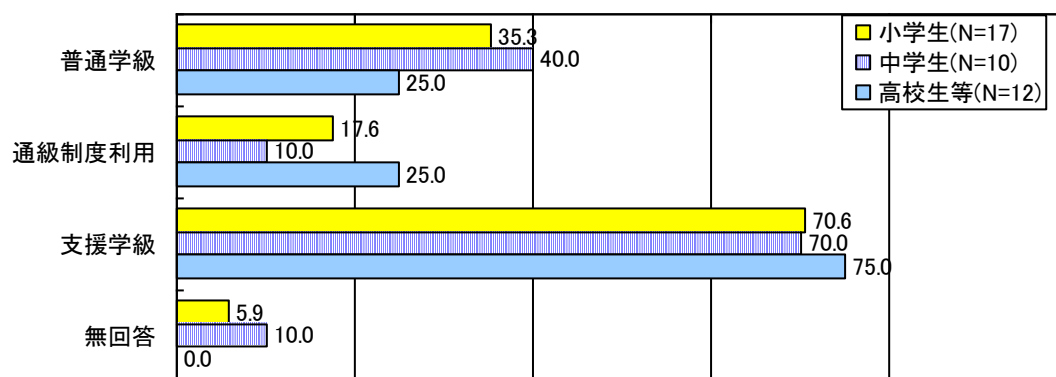
- 就学前の児童では、「児童発達支援」が57.1%、「保育所」が42.9%、「自宅にいる」及び「その他」がそれぞれ14.3%となっています。
- 小学生では、「小学校」が73.9%、「特別支援学校（小学部）」が26.1%となっています。また、「小学校」では「支援学級」が70.6%、「普通学級」が35.3%、「通級制度利用」が17.6%となっています。「特別支援学校（小学部）」では「通学」が83.3%となっています。就学前には、「児童発達支援」の利用が26.1%、「医療機関での療育教室など」が8.7%などとなっています。
- 中学生では、「中学校」が57.9%、「特別支援学校（中学部）」が42.1%となっています。また、小学生の時に「小学校」が52.6%で、「支援学級」が70.0%、「普通学級」が40.0%、「通級制度利用」が10.0%となっています。小学生の時に「特別支援学校（小学部）」の利用は26.3%で、「通学」が80.0%、「訪問」が20.0%となっています。
- 高校生等では、「特別支援学校（高等部）」が87.5%、「高等学校」及び「その他」がそれぞれ6.3%となっています。また、小学生の時に、「小学校」が75.0%で、「支援学級」が75.0%、「普通学級」及び「通級制度利用」がそれぞれ25.0%となっています。小学生の時に「特別支援学校（小学部）」の利用は31.3%で、「通学」が80.0%、無回答が20%となっています。
- 育成・教育に関する支援の希望は、「子どもの持つ能力や障害の状態に適した指導の実施」（73.8%）が高く、次いで「就学・進路相談など相談体制の充実」（64.6%）、「乳幼児期、小学生期、中学生期、中学卒業後の各期の連続性のある支援」（56.9%）などと続きます。
- 休日や放課後の過ごし方としては、「自宅でテレビなどを見て過ごしている」が69.2%で最も高く、次いで「放課後等デイサービスを利用している」（47.7%）、「習い事や趣味を行っている」（32.3%）などが30%を超えます。

① 現在の通園（所）・通学先と過去の通園（所）・通学先

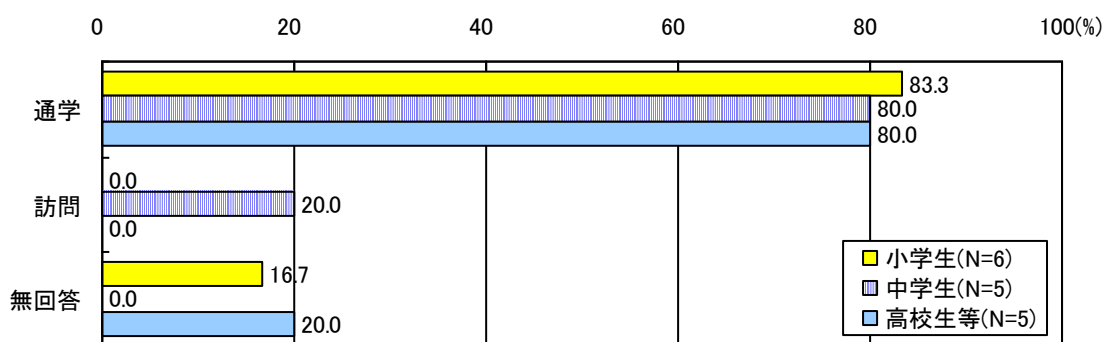
問17 アンケートの宛名のあなたは、現在どこに通っていますか。または過去に通っていましたか。（乳幼児期から現在まで、あてはまるものすべてに○）



■小学生・中学生・高校生等別 現在・過去の小学校で通っていた学級
(該当すべて選択) 0 20 40 60 80 100(%)



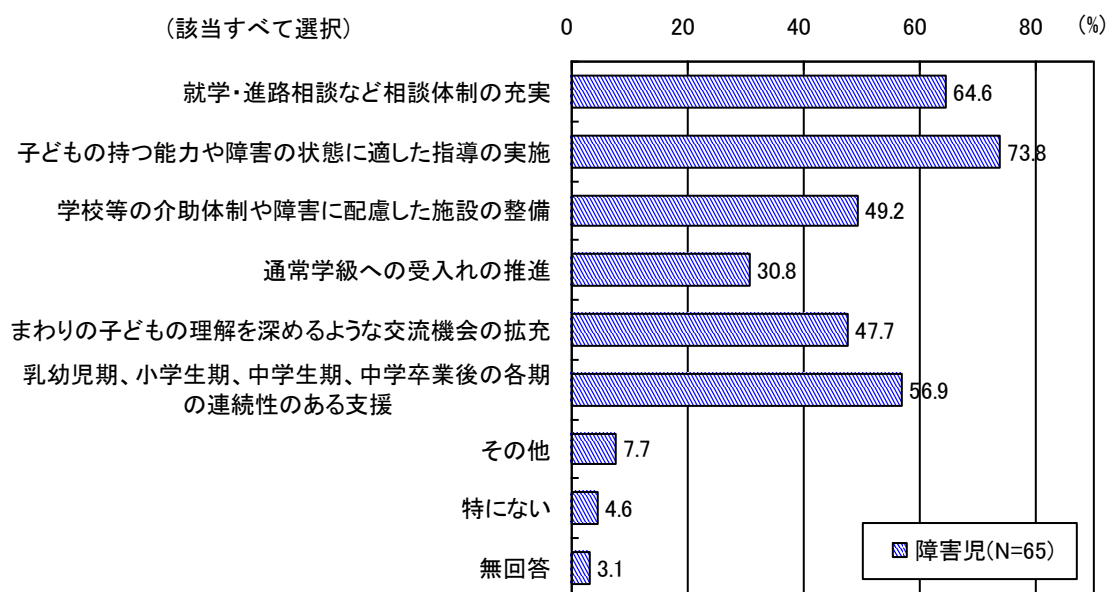
■小学生・中学生・高校生等別 現在・過去の特別支援学校（小学部）の利用状況



② 育成・教育に関する支援の希望

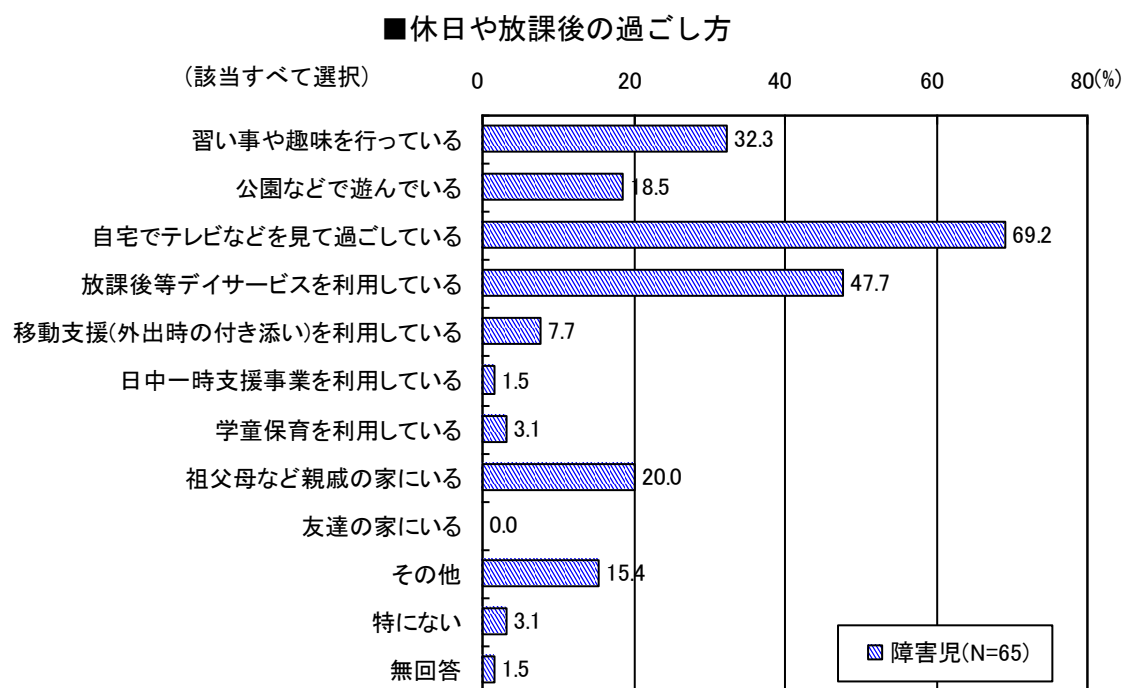
問18 アンケートの宛名のあなたやご家族は、育成・教育に関してどのような支援を希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

■育成・教育に関して希望する支援



③ 休日や放課後の過ごし方

問19 アンケートの宛名のあなたは、休日や放課後をどのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



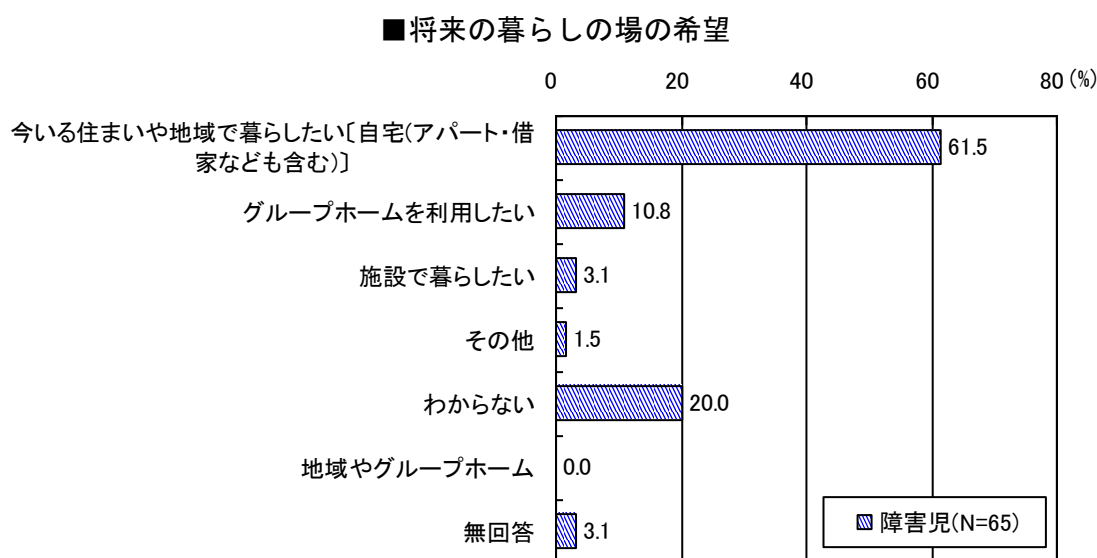
4 将来の暮らしについて

(1) 暮らしの場

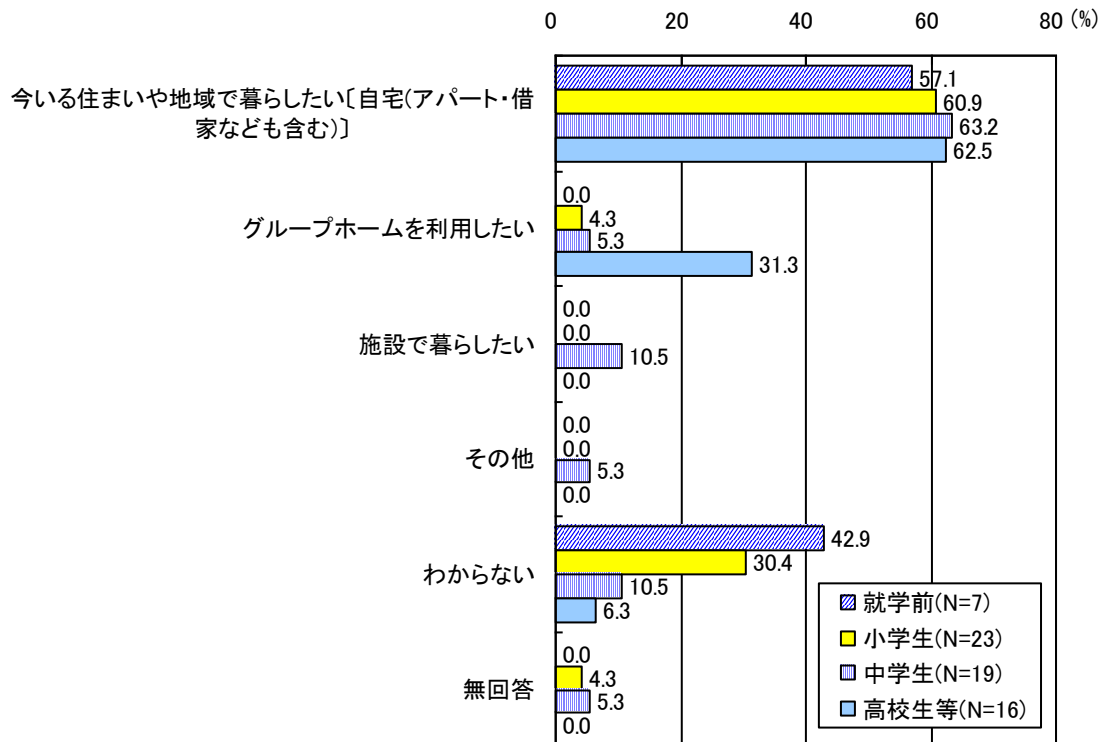
- 将来の暮らしの場の希望は、「今いる住まいや地域で暮らしたい〔自宅(アパート・借家なども含む)〕」が61.5%、「グループホームを利用したい」が10.8%、「施設で暮らしたい」が3.1%、「その他」が1.5%となっています。また、「わからない」が20.0%となっています。
- 年齢4区分別では、「グループホームを利用したい」は、高校生等が31.3%で最も高くなっています。また、「施設で暮らしたい」は中学生のみで、10.5%となっています。
- 在宅を希望する場合の支援としては、「経済的な負担の軽減」が74.5%で最も高く、次いで「コミュニケーションについての支援」及び「相談対応等の充実」がそれぞれ48.9%、「障害のある人が利用しやすい住居の確保」及び「必要な在宅サービスが適切に利用できること」がそれぞれ46.8%、「生活訓練等の充実」が42.6%などが僅差で続きます。
- 「経済的な負担の軽減」については、「医療費」が77.1%で最も高く、次いで「各種税金」が74.3%と僅差で続き、「障害福祉サービス利用料」及び「公共料金(電気・ガス・水道など)」がそれぞれ60.0%、「アパート等を借りる際の費用」が51.4%などとなっています。

① 将来の暮らしの場の希望

問20 アンケートの宛名のあなたは、将来どのように暮らしたいと思いますか。
(1つに○印)



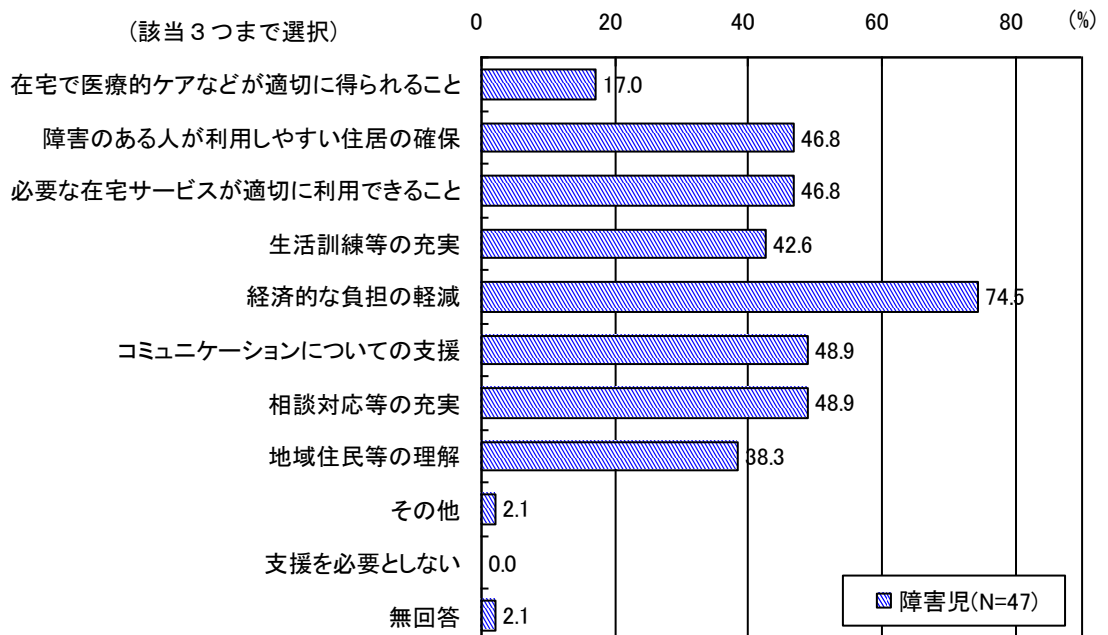
■年齢4区分別 将来の暮らしの場の希望



② 在宅で暮らす場合に必要な支援

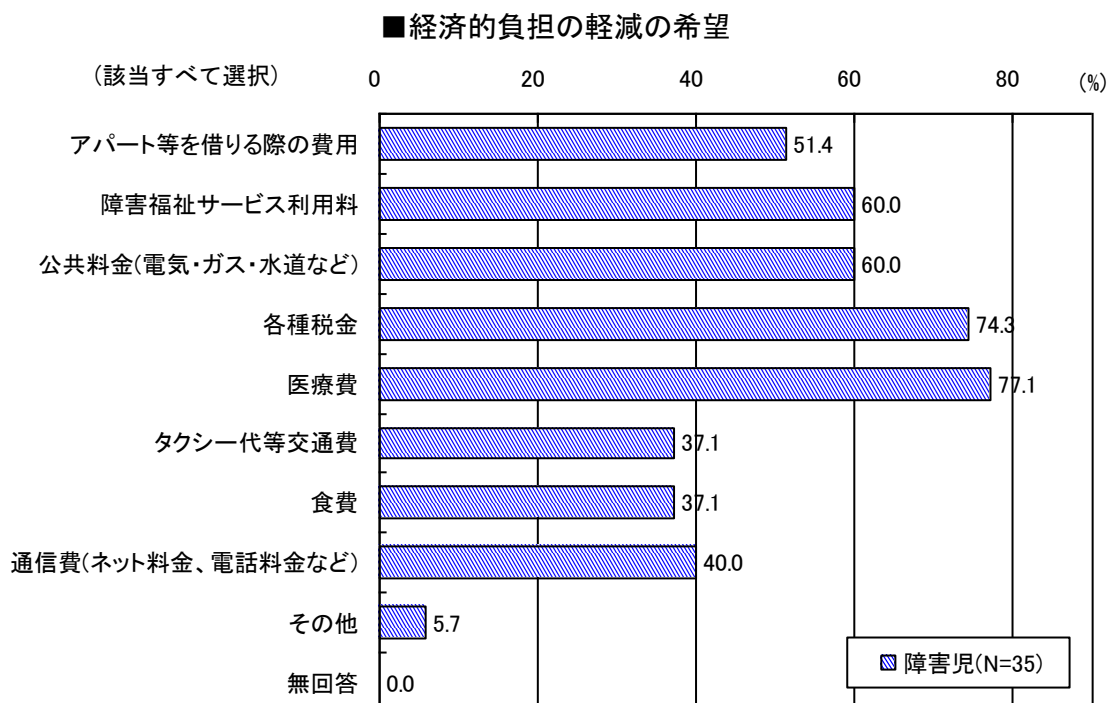
問21 問20で「1. 今いる住まいや地域で暮らしたい〔自宅(アパート・借家なども含む)〕または「2. グループホームを利用したい」とお答えの方におたずねします。在宅で暮らす場合、どのような支援があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

■在宅で暮らす場合に必要な支援



③ 経済的負担の軽減の希望

問22 問21で「5. 経済的な負担の軽減」とお答えの方におたずねします。あなたは、どのような経済的負担の軽減があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○印)

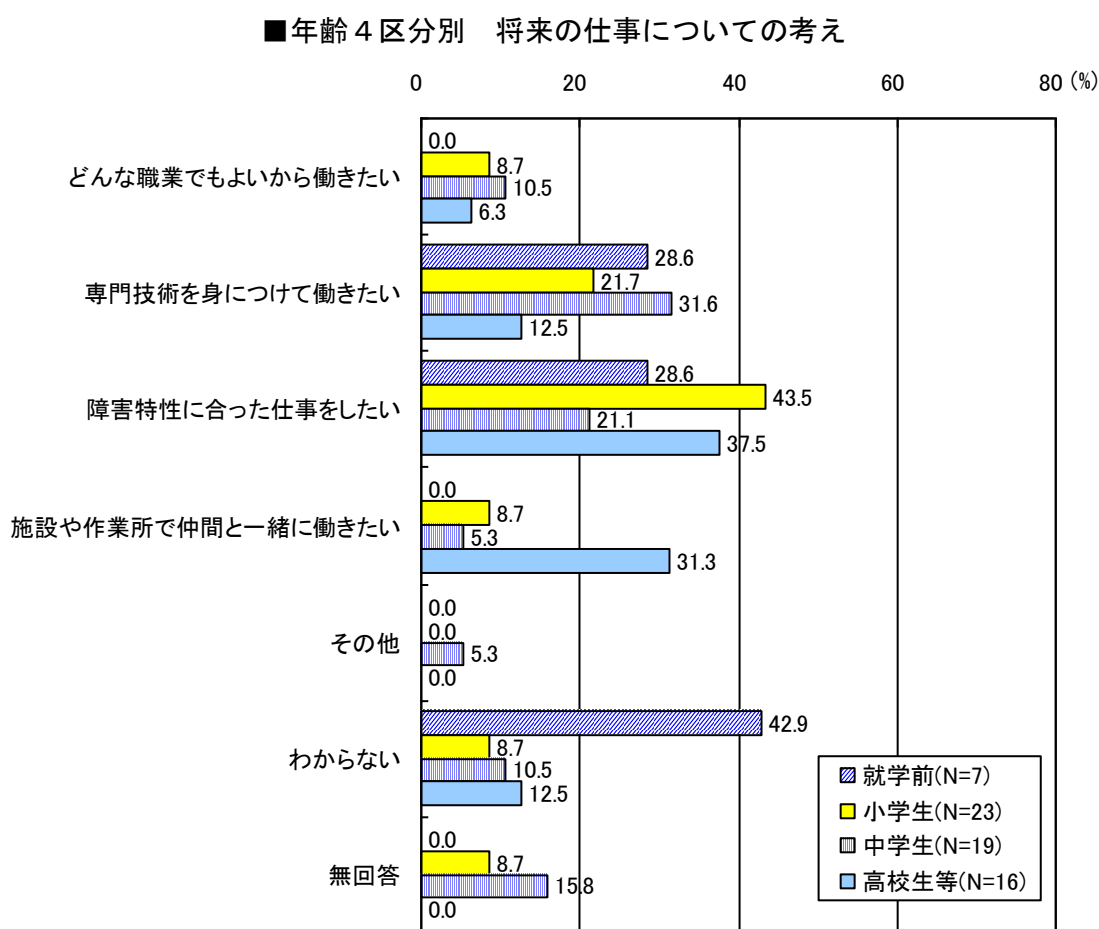
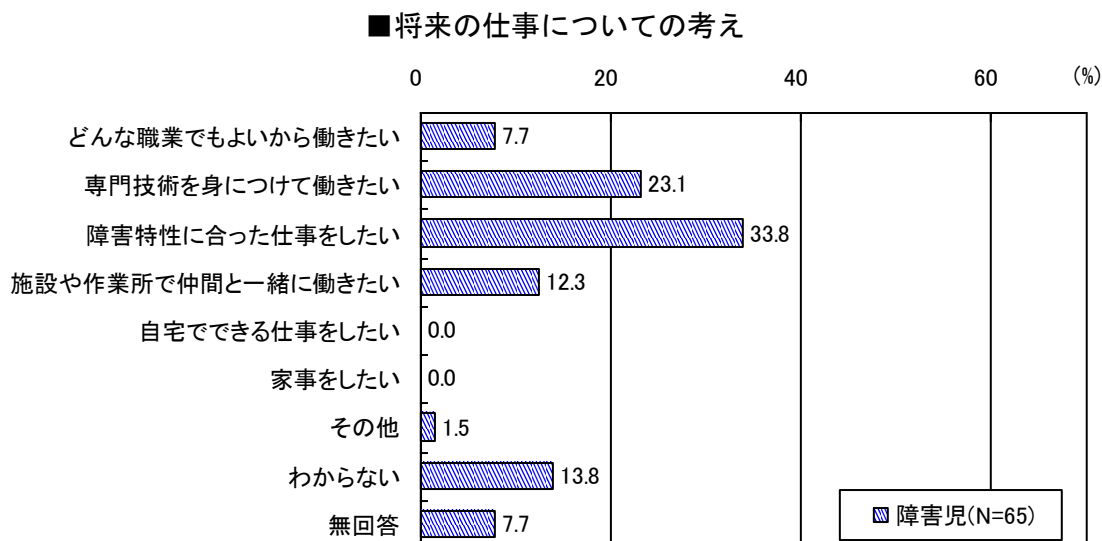


(2) 将来の仕事について

- 将来の仕事については、「障害特性に合った仕事をしたい」が33.8%、「専門技術を身につけて働きたい」が23.1%、「施設や作業所で仲間と一緒に働きたい」が12.3%、「どんな職業でもよいから働きたい」が7.7%で、【就労希望】は合わせて76.9%となっています。また、「その他」が1.5%、「わからない」が13.8%となっています。
- 年齢4区分別では、就学前は「わからない」が42.9%と高く、小学生は「障害特性に合った仕事をしたい」が43.5%、中学生は「専門技術を身につけて働きたい」が31.6%、高校生等は「障害特性に合った仕事をしたい」(37.5%)や「施設や作業所で仲間と一緒に働きたい」(31.3%)がそれぞれ高くなっています。
- 障害のある人の就労支援として必要なことは、「職場に相談・指導してくれる人がいる」が86.2%で最も高く、次いで「職場の人に理解がある」(83.1%)、「障害に合った仕事である」(81.5%)が僅差で続き、「十分な教育訓練期間がある」が55.4%などとなっています。

① 将来の仕事についての考え

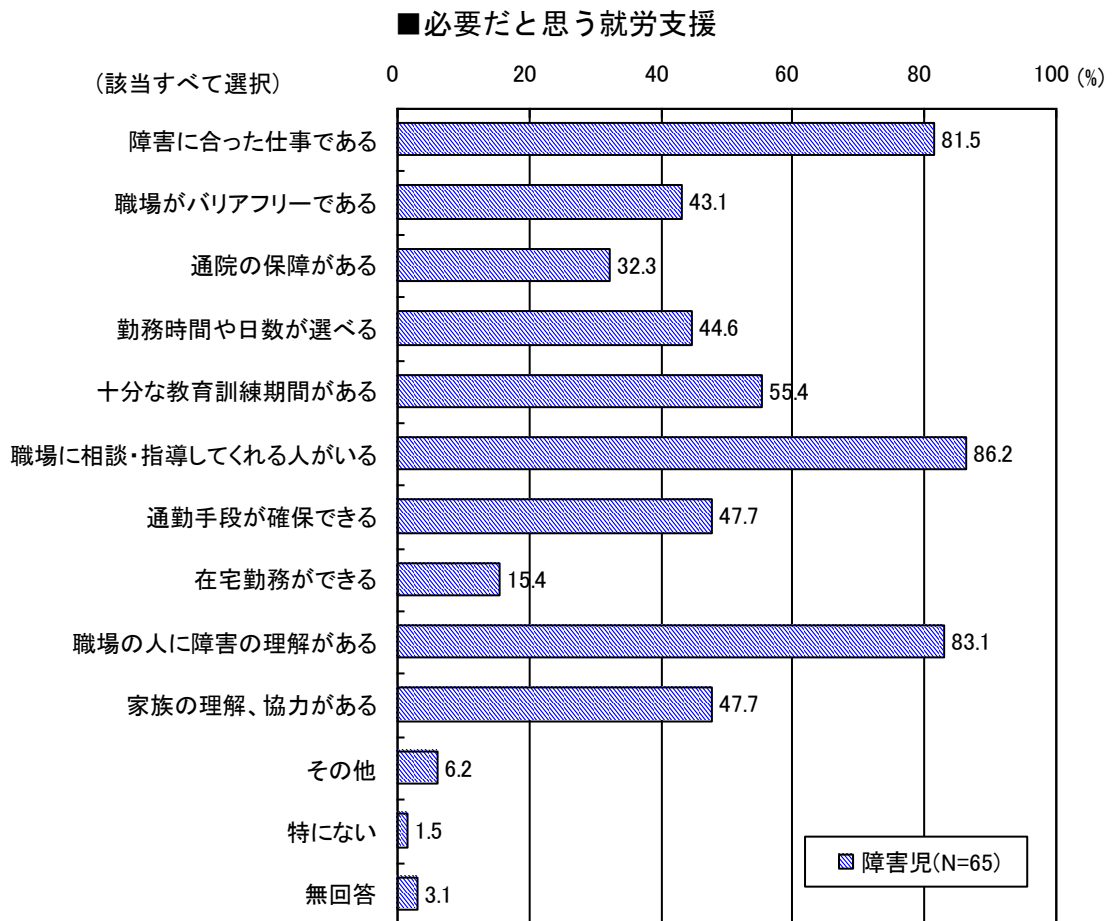
問23 アンケートの宛名のあなたのすべての方におたずねします。あなたは、将来の仕事について、どのようにお考えですか。（1つだけ○）



注)「自宅でできる仕事をしたい」「家事をしたい」は回答がないため省略。

② 障害のある人の就労支援として必要なこと

問24 障害のある人の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)



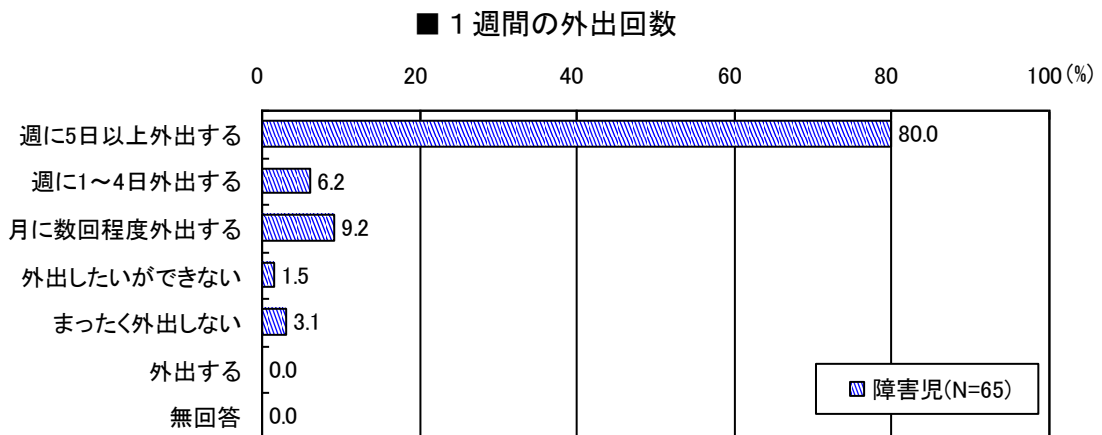
5 地域での生活について

(1) 外出について

- 1週間に外出する頻度は、「週に5日以上外出する」が80.0%、「週に1～4日外出する」が6.2%、「月に数回程度外出する」が9.2%で、通学や通所等があるため、ほとんどの児童が頻繁に外出しています。
- 外出する際の同行者は、「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が88.7%で最も高く、他には「ホームヘルパーなどサービス事業所の人」が33.9%、「友人・知人」が29.0%などとなっています。一方、「一人で外出する」が27.4%となっています。
- 外出の時に困ることは、「特にない」の16.1%と無回答の11.3%を除いた72.6%があげていて、「困った時にどうすればいいのか心配」が40.3%で最も多く、次いで「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」が25.8%、「道路や駅に階段や段差が多い」「切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい」「外出にお金がかかる」がそれぞれ22.6%などとなっています。

① 1週間の外出回数

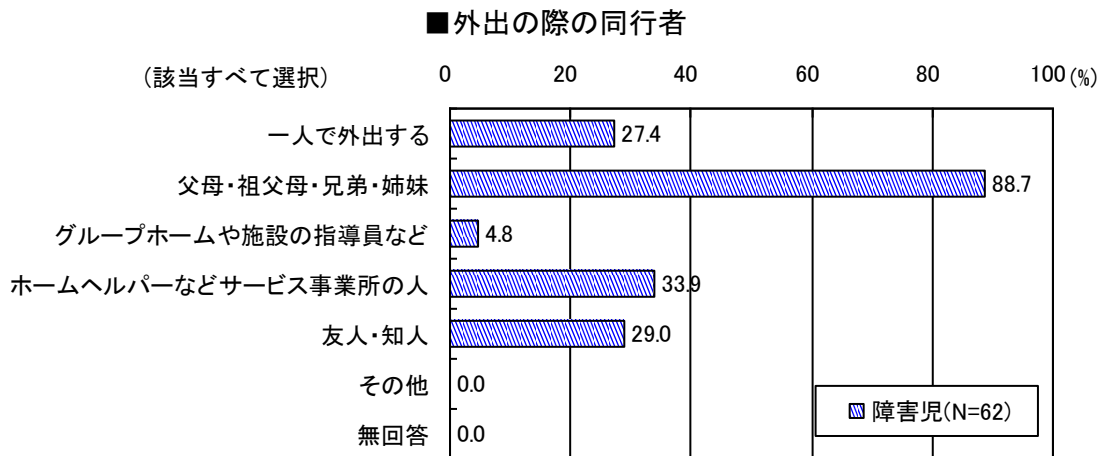
問25 アンケートの宛名のあなたは、通所（園）や通学、通勤なども含め、1週間にどの程度外出しますか。（1つだけ○）



注)「外出する」は、問25に無回答で問26・27に回答した人があつたため、集計上設定した項目。

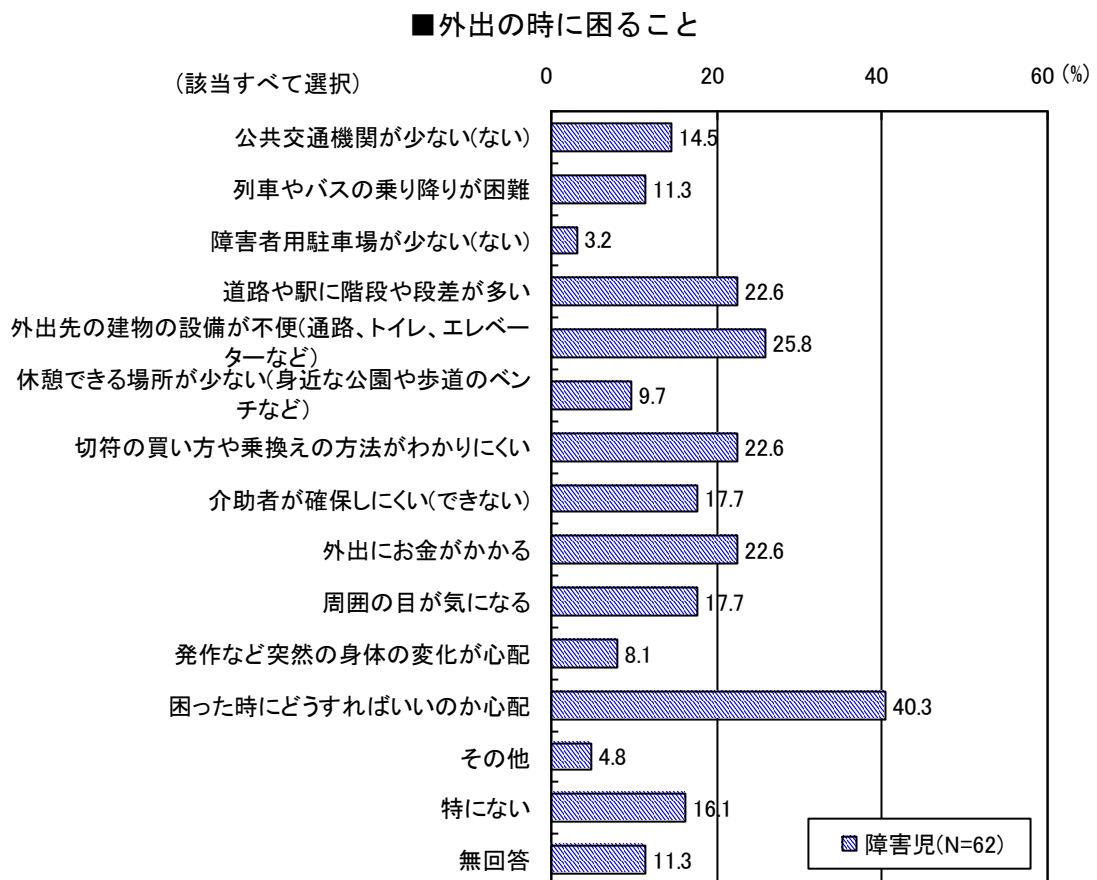
② 外出の際の同行者

問26 問25で「1. 週に5日以上外出する」「2. 週に1～4日外出する」「3. 月に数回程度外出する」とお答えの方におたずねします。あなたは、外出する際に誰と外出しますか。(あてはまるものすべてに○)



③ 外出の時に困ること

問27 問25で「1. 週に5日以上外出する」「2. 週に1～4日外出する」「3. 月に数回程度外出する」とお答えの方におたずねします。あなたが外出の時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

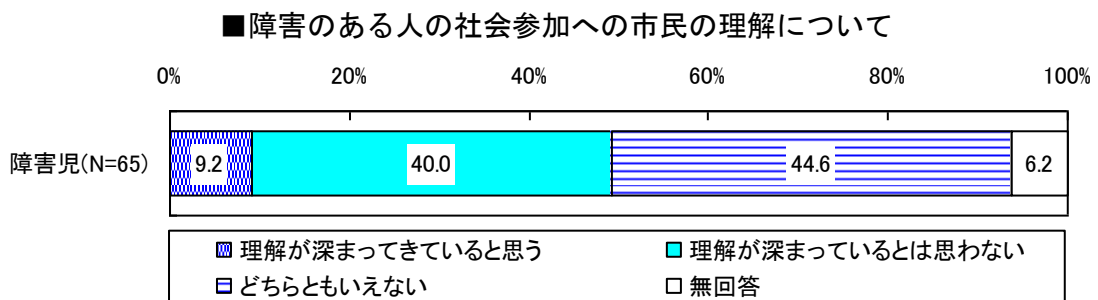


(2) 差別や偏見について

- 障害のある人の社会参加への市民の理解について、「理解が深まってきていると思う」は9.2%で、一方、「理解が深まってきているとは思わない」が40.0%となっています。また、「どちらともいえない」が44.6%となっています。
- 障害があるために差別や嫌な思いをする（した）ことについて、「ある」は36.9%、「少しある」が30.8%、また、この質問には無回答で次の嫌な思いや差別を受けた場面に回答した人は4.6%で、合わせて【ある】は72.3%となっています。一方、「ない」は23.1%となっています。
- 差別や嫌な思いをした場面は、「人間関係」（50.0%）や「街なかでの人の視線」（47.7%）が高く、「教育の場」（38.6%）、「病院や歯科医院での診療時」（27.3%）、「地域の行事や集まり」（25.0%）などと続きます。

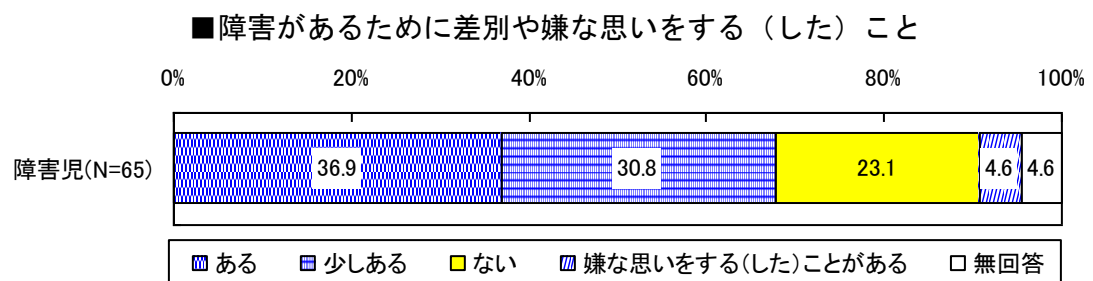
① 障害のある人の社会参加への市民の理解について

問28 アンケートの宛名のすべての方におたずねします。あなたは、障害のある人の地域活動や就職などの社会参加について、市民の理解が深まってきていると思いますか。（1つだけ○）



② 障害があるために差別や嫌な思いをする（した）こと

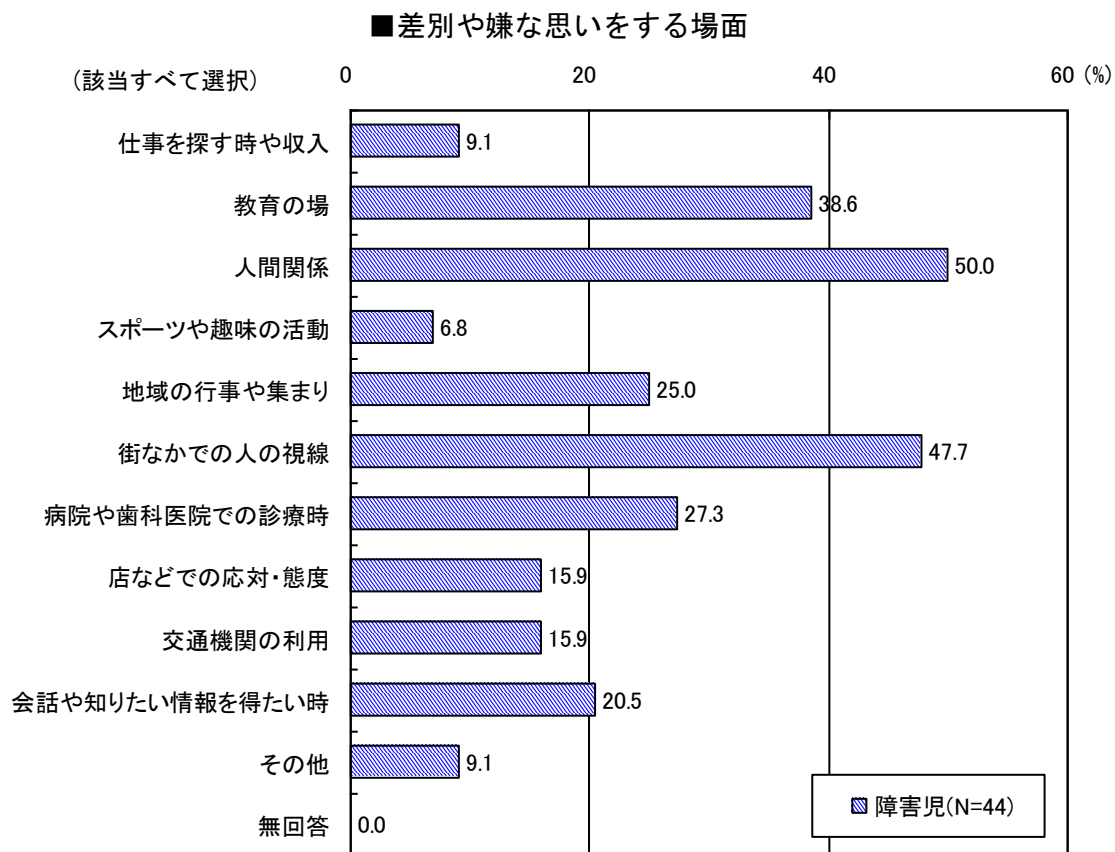
問29 アンケートの宛名のあなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（1つだけ○）



注)「嫌な思いをする(した)ことがある」は、問29に無回答で問30に回答した人のために集計上設定。

③ 差別や嫌な思いをする場面

問30 問29で「1. ある」または「2. 少しある」とお答えの方におたずねします。
どのような場面で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)



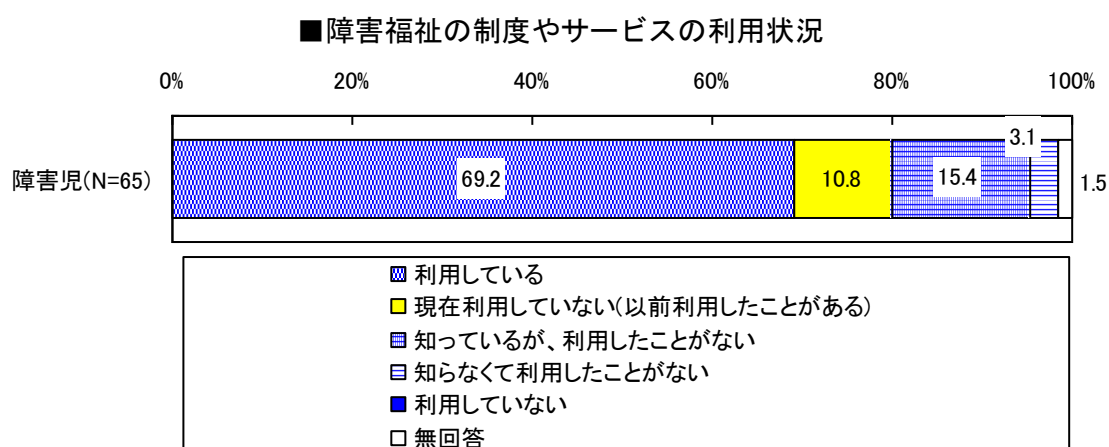
6 障害福祉サービス等の利用について

(1) 障害福祉サービス等の利用状況

- 障害福祉の制度やサービスを「利用している」は69.2%で、一方、【利用していない】は、「現在利用していない（以前利用したことがある）」（10.8%）、「知っているが、利用したことがない」（15.4%）、「知らなくて利用したことがない」（3.1%）を合わせて29.3%となっています。
- 利用者の利用している制度・サービスは、「放課後等デイサービス」が68.9%で最も高く、次いで「各種減免（割引）制度」が53.3%、「医療費の助成」が40.0%、「移動支援（外出の時の支援）」及び「補装具や日常生活用具」がそれぞれ26.7%などとなっています。
- 利用者で制度やサービスに対して不満に思う児童は、「特にない」の22.2%と無回答の8.9%を除いた68.9%で、内容は「利用回数や時間などに制限がある」が42.2%で最も高く、次いで「利用したい日や時間に利用できない」が24.4%、「相談や手続きに時間がかかる」が20.0%などとなっています。
- 制度やサービスの未利用者の理由では、「サービスを利用する必要がない」が52.6%でおよそ半数があげ、これ以外では「サービスに関する情報がない」が15.8%、「利用して嫌な思いをしたから」が10.5%で、これ以外は10%を割っています。

① 障害福祉の制度やサービスの利用状況

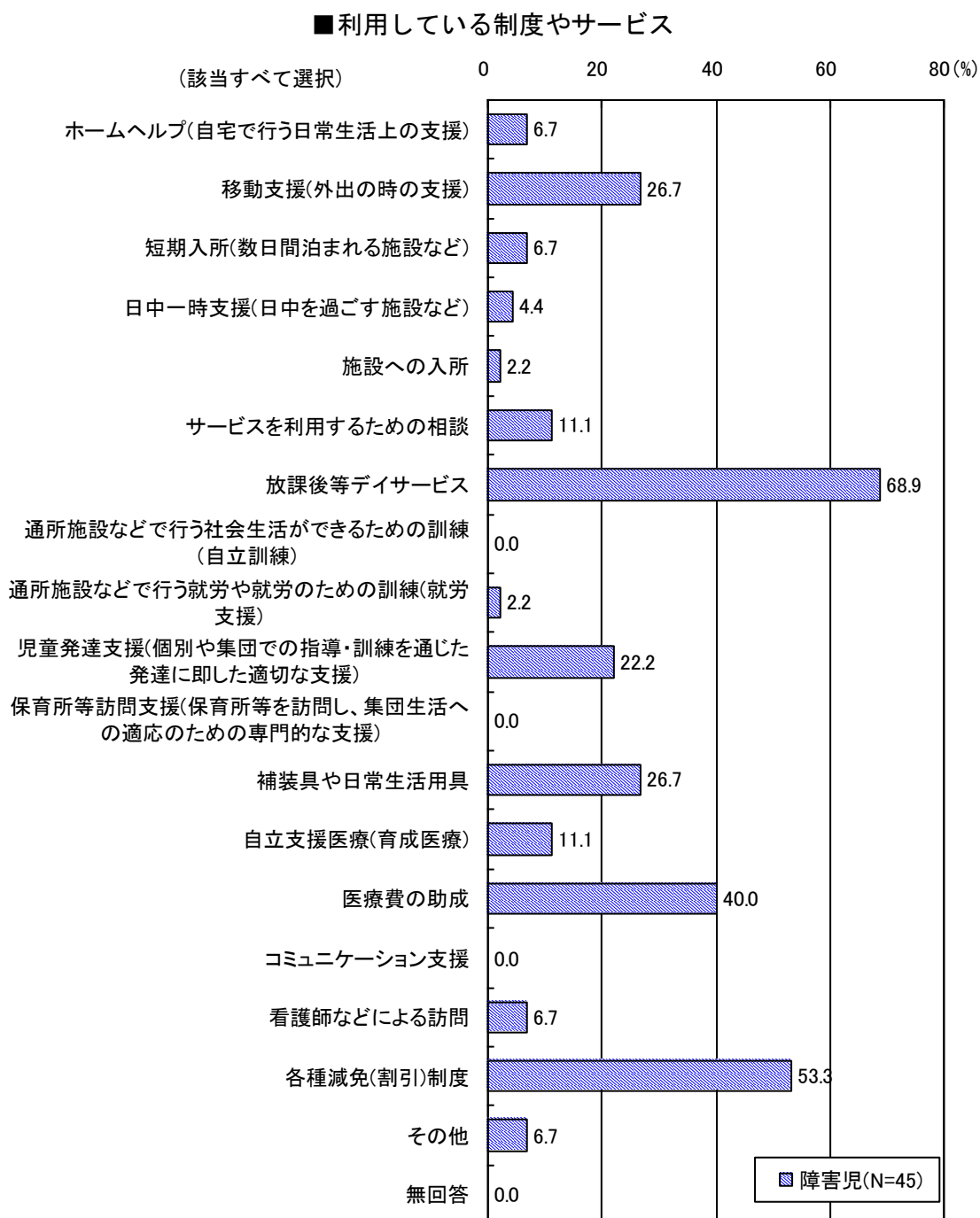
問31 アンケートの宛名のあなたは、障害福祉の制度やサービスを利用していますか。（1つだけ○）



注)「利用していない」は、問31に無回答で問34に回答した人のために集計上設定。

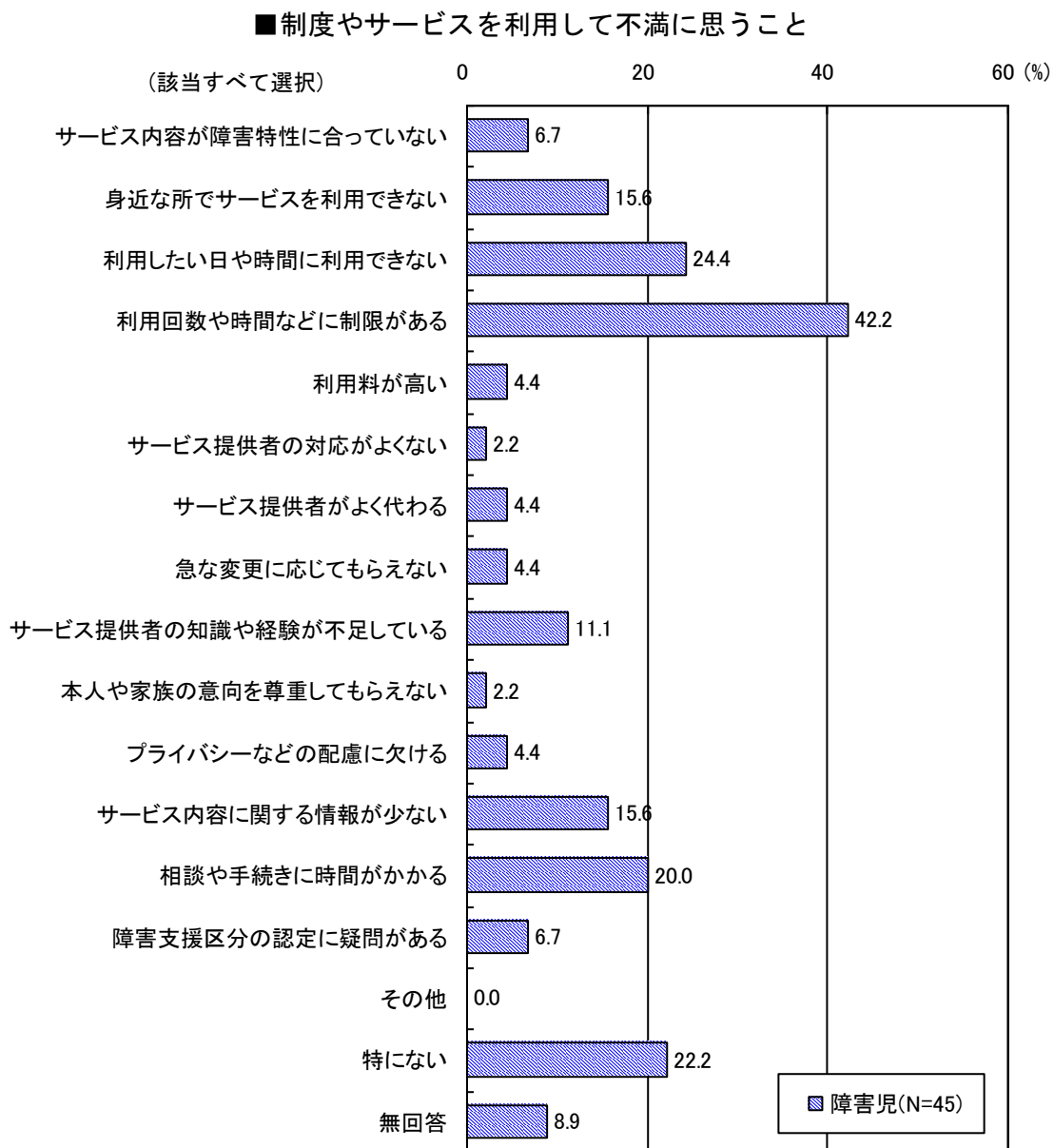
② 利用している制度やサービス

問32 問31で「1. 利用している」とお答えの方におたずねします。利用している制度やサービスは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



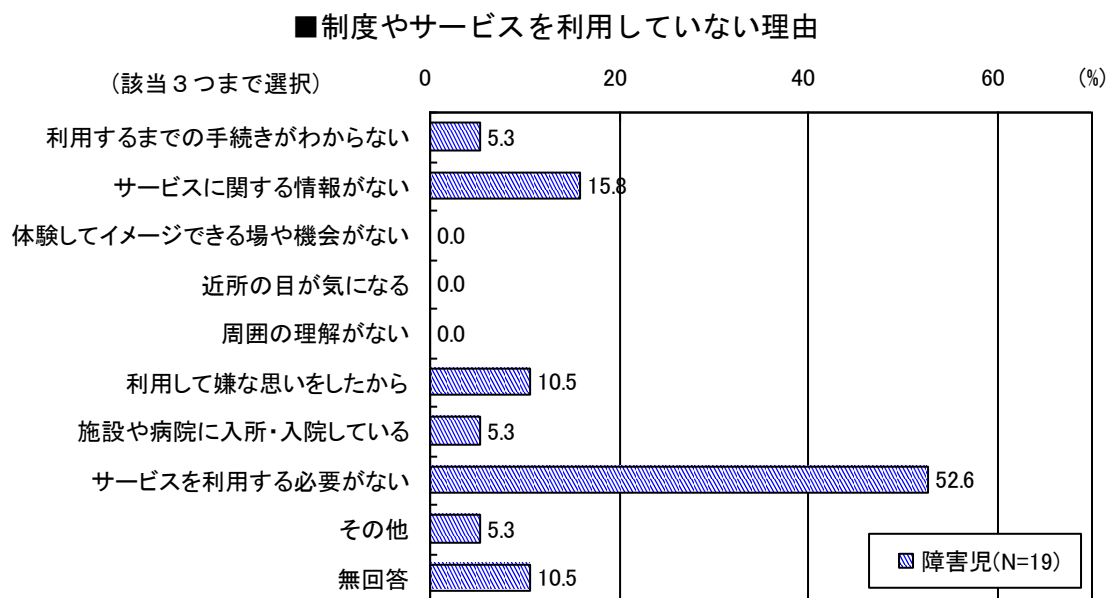
③ 制度やサービスを利用して不満に思うこと

問33 問31で「1. 利用したことがある」とお答えの方におたずねします。制度やサービスを利用して不満に思うことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)



④ 制度やサービスを利用していない理由

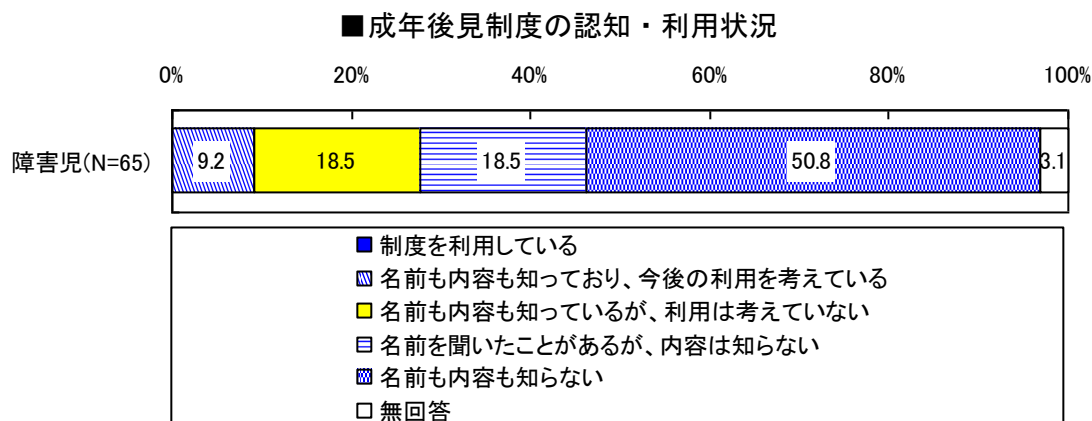
問34 問31で「2. 現在利用していない（以前利用したことがある）」「3. 知っているが、利用したことがない」「4. 知らなくて、利用したことがない」とお答えの方におたずねします。制度やサービスを利用していない理由は何ですか。（主なもの3つまでに○）



(2) 成年後見制度の認知・利用状況

- 成年後見制度について、「制度を利用している」は該当がなく、「名前も内容も知っており、今後の利用を考えている」が9.2%、「名前も内容も知っているが、利用は考えていない」が18.5%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が18.5%で、【名前を知っている】は合わせて46.2%、【内容を知っている】は合わせ27.7%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は50.8%で、およそ半数となっています。

問35 アンケートの宛名のあなたは、成年後見制度をご存じですか。（1つだけ○）

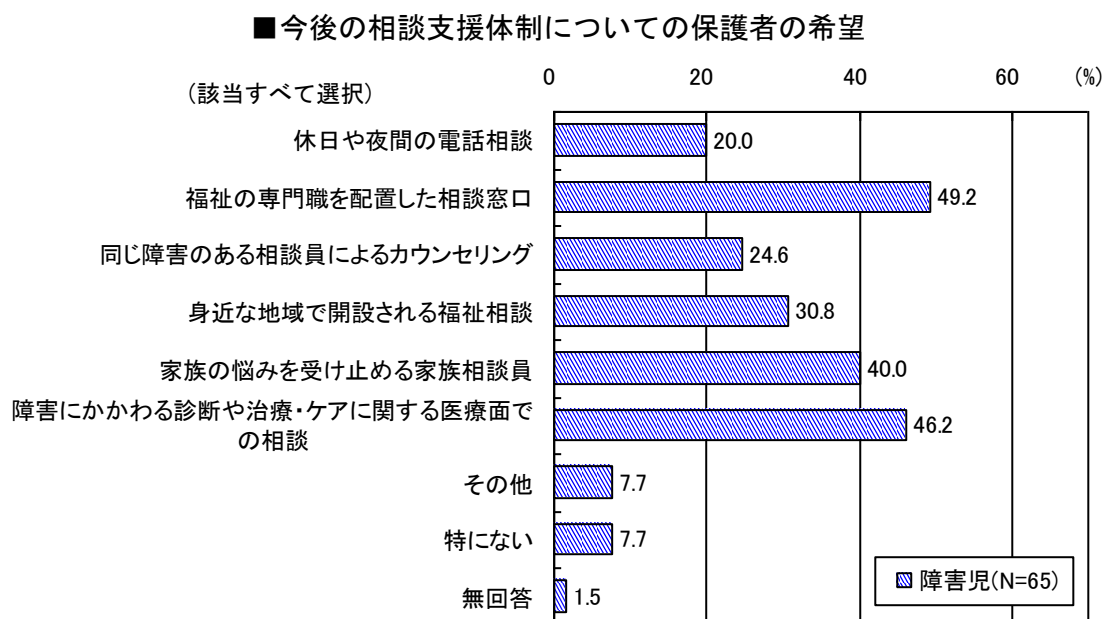


(3) 相談体制についての保護者の希望や子どもについて心配なことなど

- 今後の相談支援体制について保護者が希望することは、「福祉の専門職を配置した相談窓口」が49.2%で最も高く、次いで「障害にかかわる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が46.2%、「家族の悩みを受け止める家族相談員」が40.0%、「身近な地域で開設される福祉相談」が30.8%などとなっています。
- 現在、子どもについて困っていることや心配なことは、「進学や訓練、就職などの進路」(73.8%)や「家族がいなくなった時の生活」(72.3%)が高く、「主な介助者が病気や用事などの時の支援」が49.2%、「災害など緊急時の対応」が47.7%、「趣味や余暇の過ごし方」が40.0%などと続きます。
- 年齢4区分別では、高校生等以外は「進学や訓練、就職などの進路」が最も高く、高校生等は「家族がいなくなった時の生活」が最も高くなっています。また、就学前は「利用できる制度やサービスの内容」が他の年齢区分に比べて特に高くなっています。

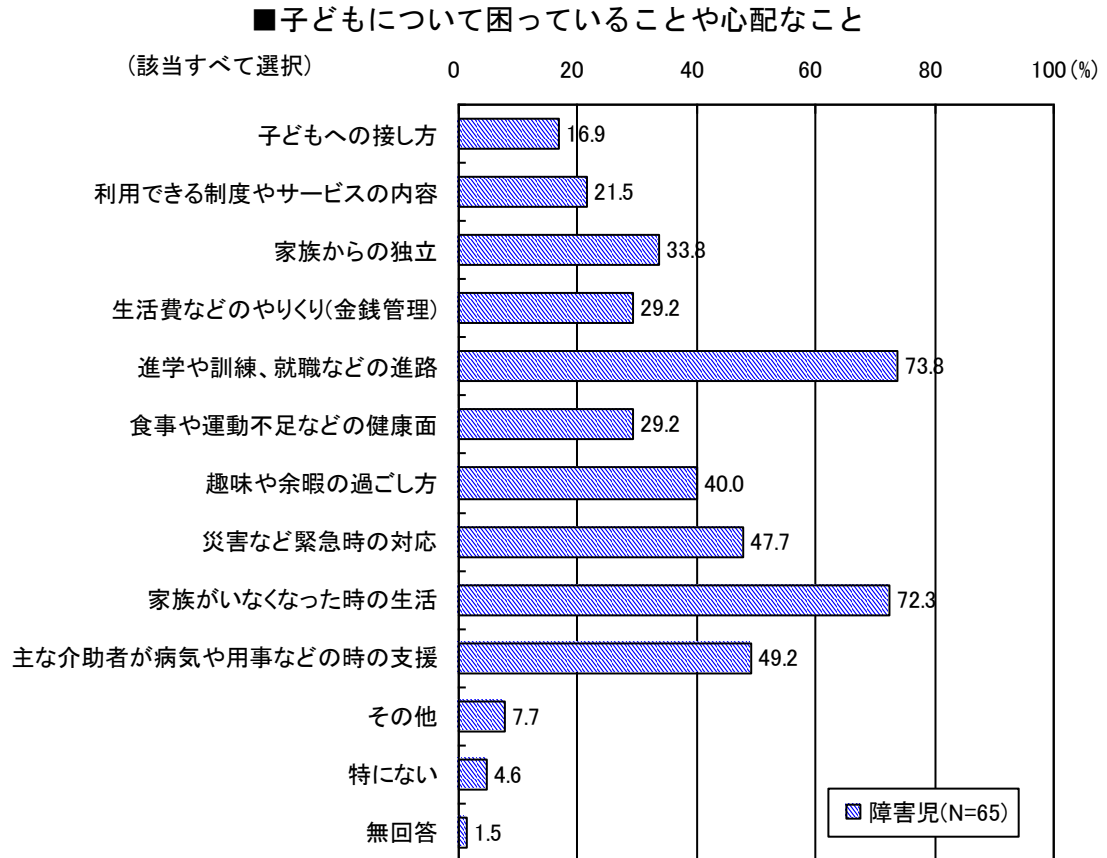
① 今後の相談支援体制についての保護者の希望

問36-① 保護者の方におたずねします。今後の相談支援体制について、どのようなことを希望されますか。(あてはまるものすべてに○)



② 子どもについて困っていることや心配なこと

問36-② 保護者の方におたずねします。現在、お子さんについて困っていることや心配に思っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)



■年齢4区分別 子どもについて困っていることや心配なこと

年 齢 4区分	回答数	子どもへの接し方	利用できる制度やサービスの内容	家族からの独立	(金銭管理) 生活費などのやりくり	進学や訓練・就職などの進路	健康面 食事や運動不足などの	趣味や余暇の過ごし方	災害など緊急時の対応	家族がいなくなった時の生活	主な介助者が病気や用事などの時の支援	その他	特になし	無回答
就 学 前	7	28.6	71.4	42.9	14.3	85.7	57.1	42.9	57.1	71.4	71.4	14.3	0.0	0.0
小 学 生	23	21.7	21.7	39.1	30.4	73.9	34.8	39.1	47.8	65.2	60.9	8.7	4.3	0.0
中 学 生	19	15.8	15.8	26.3	21.1	73.7	21.1	31.6	31.6	68.4	36.8	5.3	5.3	5.3
高校生等	16	6.3	6.3	31.3	43.8	68.8	18.8	50.0	62.5	87.5	37.5	6.3	6.3	0.0

注) 網掛けは50%を超えて高い網目。

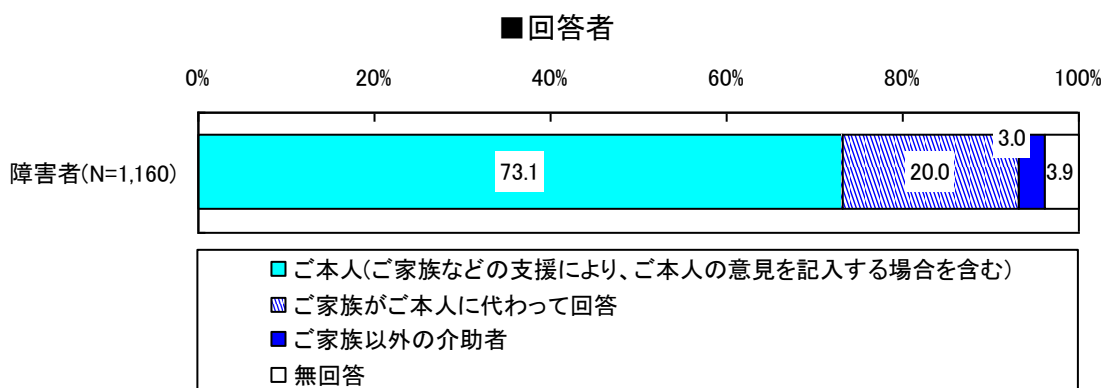
Ⅲ 18歳以上対象調査結果の概要

1 調査対象者や家族のことについて

- 回答者は、「ご本人（ご家族などの支援により、ご本人の意見を記入する場合を含む）」が73.1%、「ご家族がご本人に代わって回答」が20.0%、「ご家族以外の介助者」は3.0%となっています。
- 年齢は「70代」が43.1%で最も高く、「60代」が16.3%、「50代」が13.3%などとなっています。年齢3区分別の構成は、18～39歳の「青年層」が11.2%、40～64歳の「壮年層」が31.2%、65歳以上の「高齢層」が56.3%で、「高齢層」が最も高くなっています
- 性別は、「女性」が50.8%、「男性」が48.7%で、大差ありません。
- 小学校区は、「山直北」（5.7%）、「大芝」（5.6%）、「春木」及び「八木」（各5.5%）、「八木南」（5.4%）、「朝陽」（5.3%）、「常盤」（5.2%）が大差なく、その他の小学校区は5%を割っています。また、「わからない」が5.0%となっています。
- 現在の暮らしは、「ご家族と暮らしている」が70.5%で最も高く、「本人ひとりで暮らしている」が17.8%、「福祉施設で暮らしている」が4.8%、「グループホームで暮らしている」が2.3%、「病院に入院している」が2.2%、「その他」が1.2%（うち、「有料老人ホーム」等施設が0.7%）で、【施設や病院】は合わせて10.0%となっています。
- 家族形態を合わせてみると、「ひとり暮らし」が17.8%、「夫婦のみ」が26.8%、「核家族（親子）」が30.8%、「三世代等」が9.0%、家族同居の「その他」が2.8%、「施設・病院等」が10.0%などとなっています。

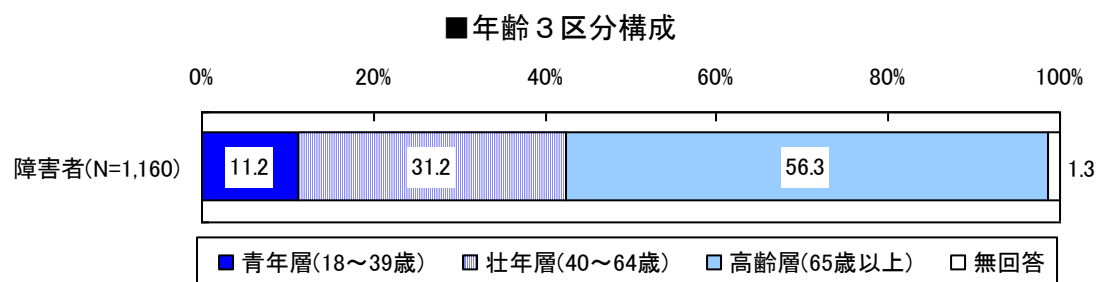
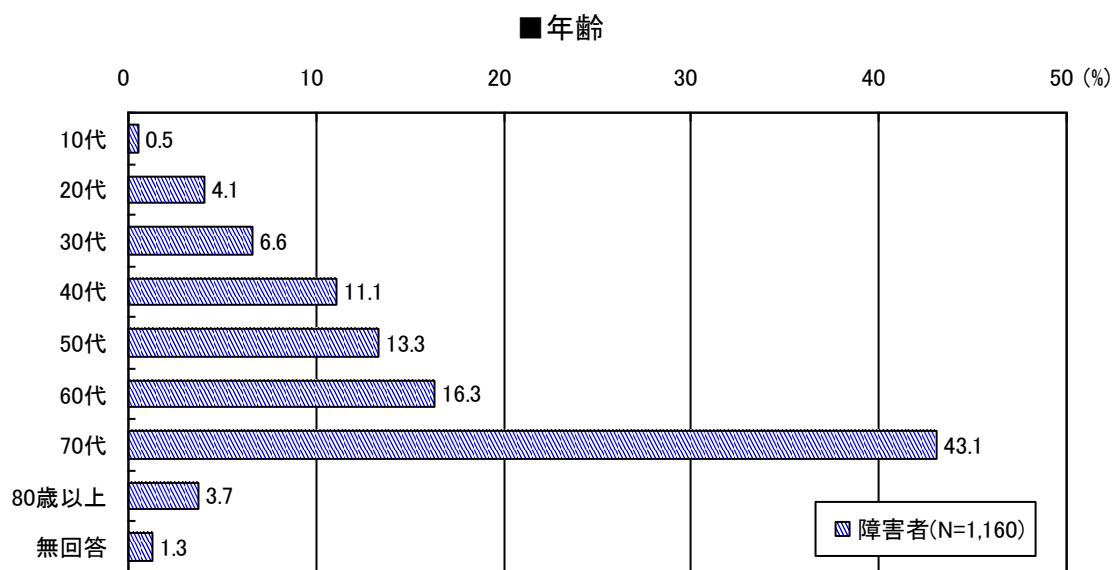
① 回答者

問1 このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。（1つだけ○）



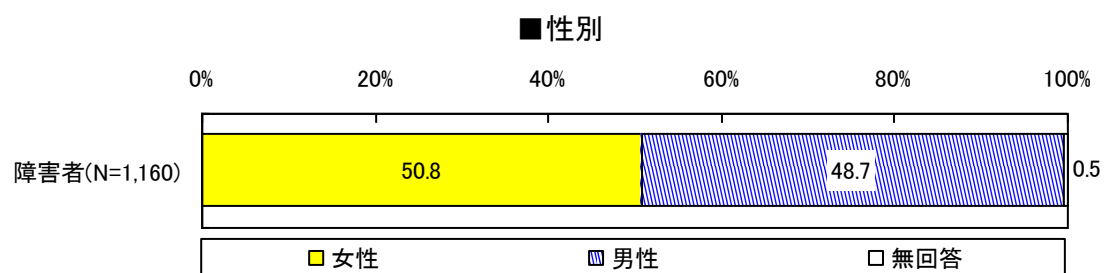
② 年齢

問2 アンケートの宛名のあなたの年齢をお答えください。(平成29年4月1日現在)



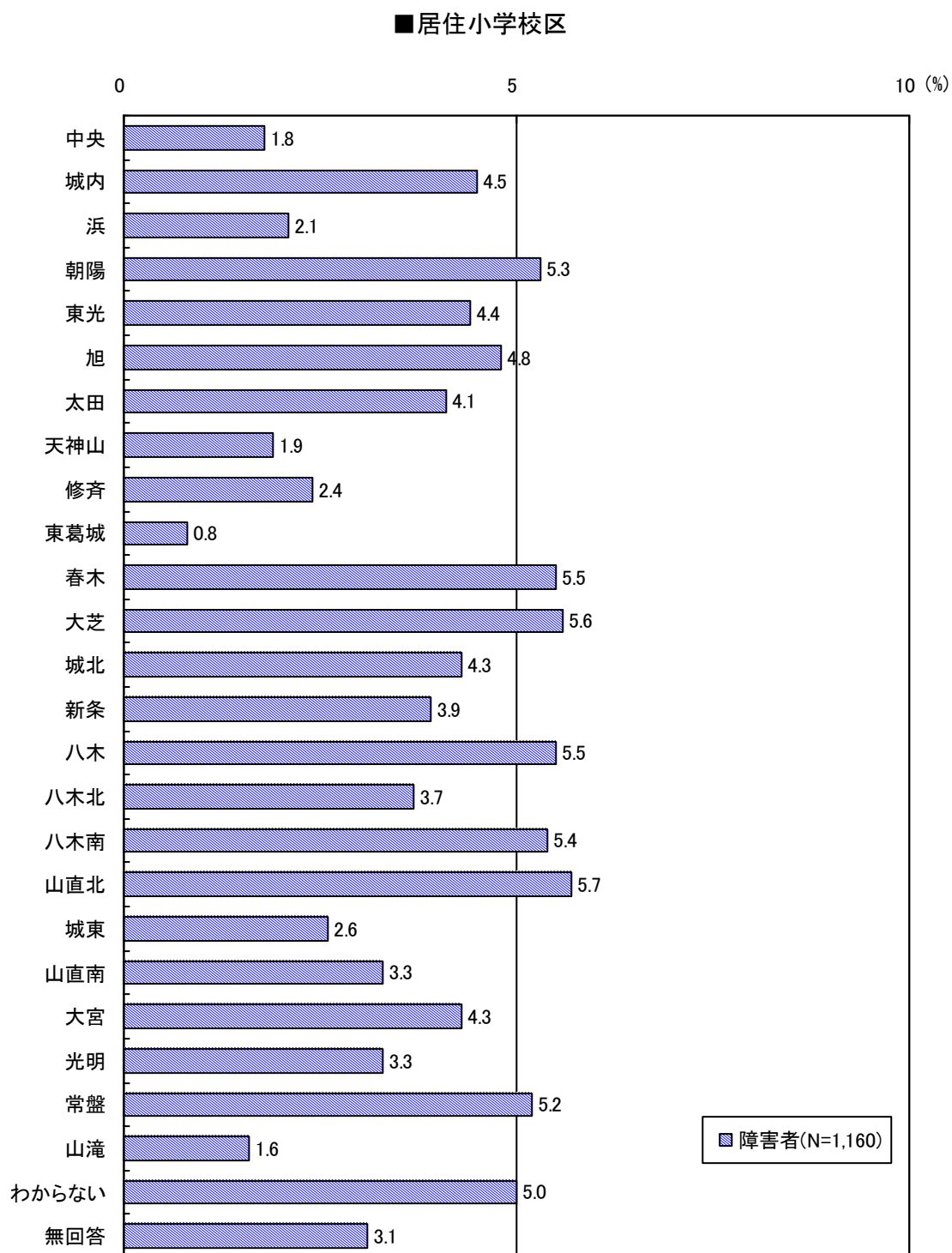
③ 性別

問3 アンケートの宛名のあなたの性別をお答えください。(どちらかに○印)



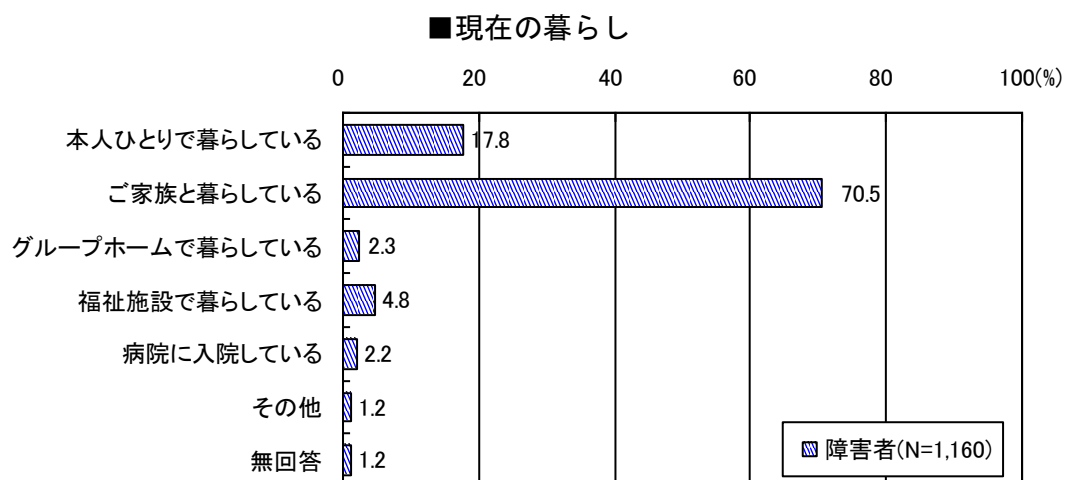
④ 居住小学校区

問4 アンケートの宛名のあなたがお住いの小学校区はどこですか。(1つだけ○)

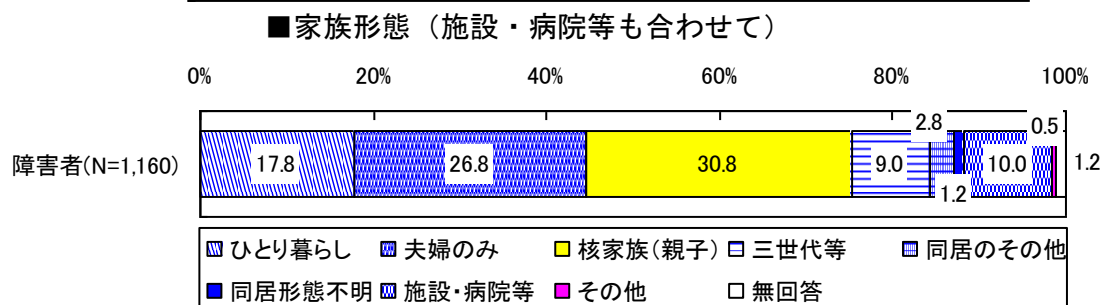
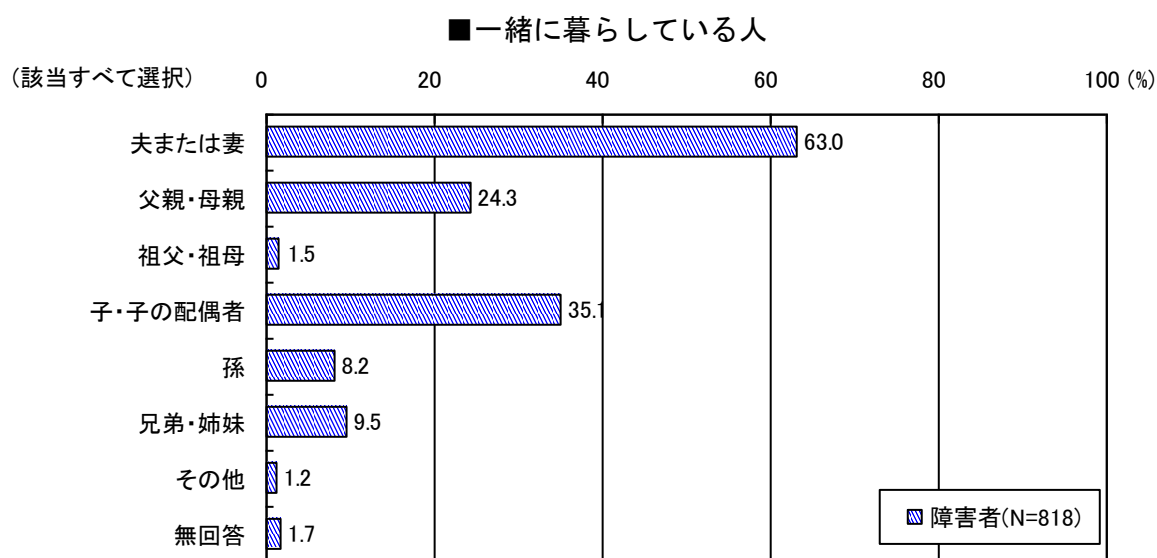


⑤ 現在の暮らし

問5 現在、アンケートの宛名のあなたは、どのように暮らしていますか。
(1つだけ○印)



問5-① 「2. ご家族と暮らしている」とお答えの方におたずねします。一緒に暮らしている人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)



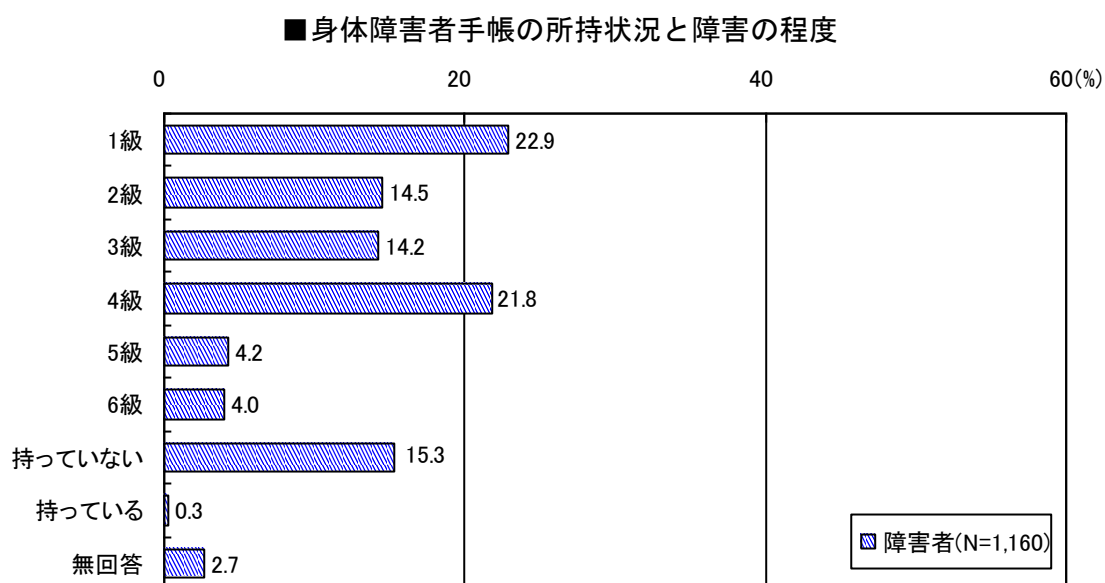
2 障害の状況について

(1) 障害者手帳所持の状況

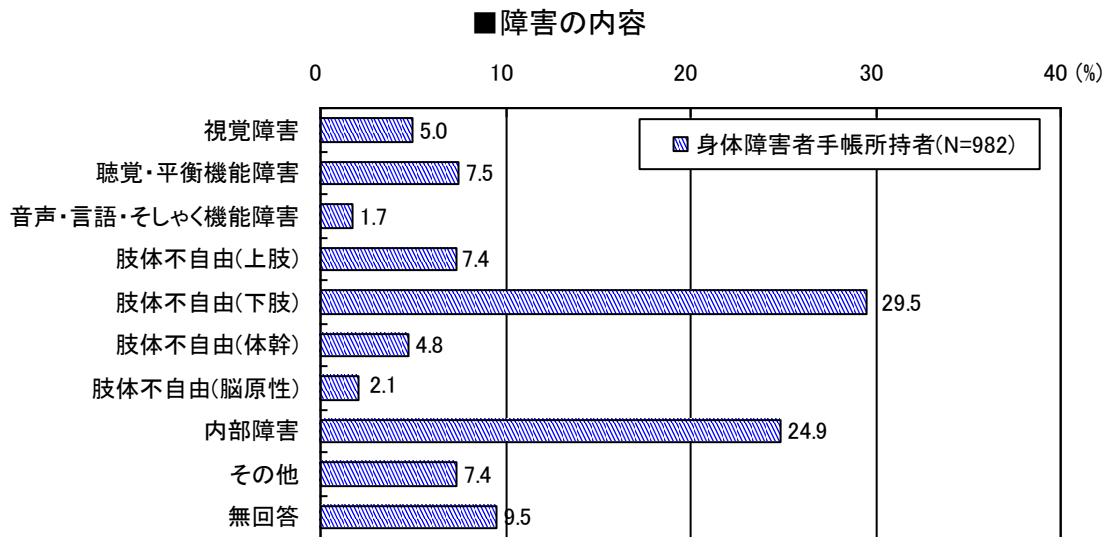
- 身体障害者手帳所持者は、「持っていない」の15.3%と無回答の2.7%を除いた82.0%となっています。身体障害者手帳所持者の障害の程度は、「1級」(22.9%)及び「2級」(14.5%)の重度が37.4%となっています。
- 身体障害者手帳所持者の障害の内容は、「肢体不自由(下肢)」が29.5%で最も高く、次いで「内部障害」(24.9%)、「聴覚・平衡機能障害」(7.5%)、「肢体不自由(上肢)」及び「その他」(各7.4%)などとなっています。「その他」は障害児調査と同様に、複数の障害の記載となっています。
- 療育手帳所持者は、「持っていない」の73.7%と無回答の11.7%を除いた14.6%となっています。療育手帳所持者の障害の程度は、重度の「A判定」が8.2%、「B1判定」及び「B2判定」がそれぞれ3.2%となっています。
- 精神障害者保健福祉手帳所持者は、「持っていない」の77.0%と無回答の9.3%を除いた13.7%となっています。精神障害者保健福祉手帳所持者の障害の程度は、重度の「1級」が1.6%、「2級」が7.8%、「3級」が4.3%となっています。
- 手帳の所持状況から障害種別をみると、「身体障害のみ」が69.8%、「知的障害のみ」が7.2%、「精神障害のみ」が6.6%、「重複障害」が12.7%、「手帳なし」が2.4%、無回答が1.3%となっています。
- 身体障害者手帳の「1級」及び「2級」と療育手帳の「A判定」の重度心身障害のある人は4.1%となっています。

① 身体障害者手帳の所持状況と障害の程度、障害の内容

問6 アンケートの宛名のあなたは、身体障害者手帳をお持ちですか。(1つだけ○)

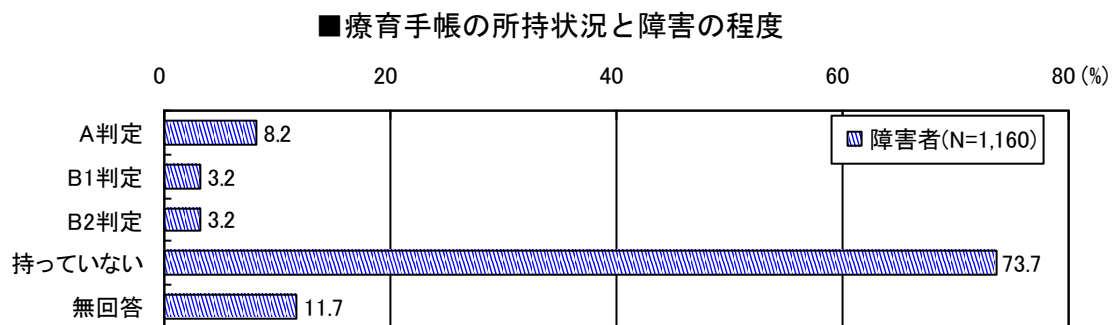


問7 身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。主な障害をお答えください。複数の障害認定を受けている場合は、手帳の等級が最も高い(障害の程度が重い)ものに1つだけ○をつけてください。



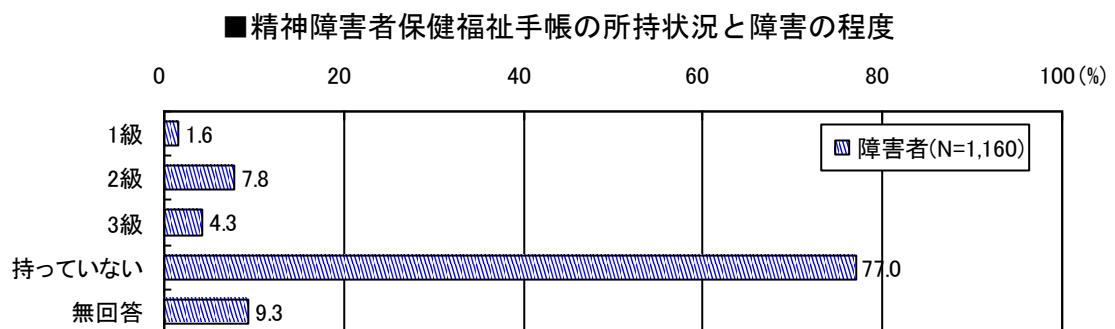
② 療育手帳の所持状況と障害の程度

問 8 アンケートの宛名のあなたは、療育手帳をお持ちですか。(1つだけ○)

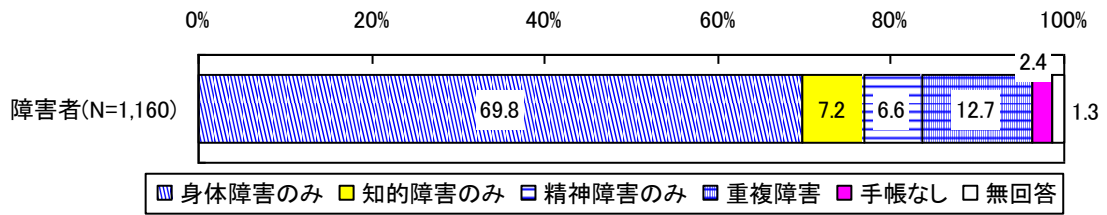


③ 精神障害者保健福祉手帳の所持状況と障害の程度

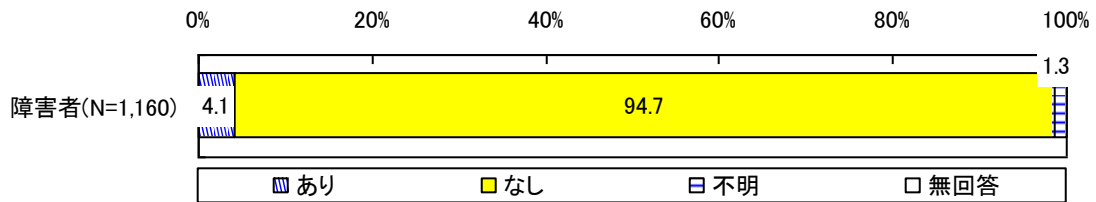
問 9 アンケートの宛名のあなたは、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(1つだけ○)



④ 障害の種類



⑤ 重度心身障害の有無

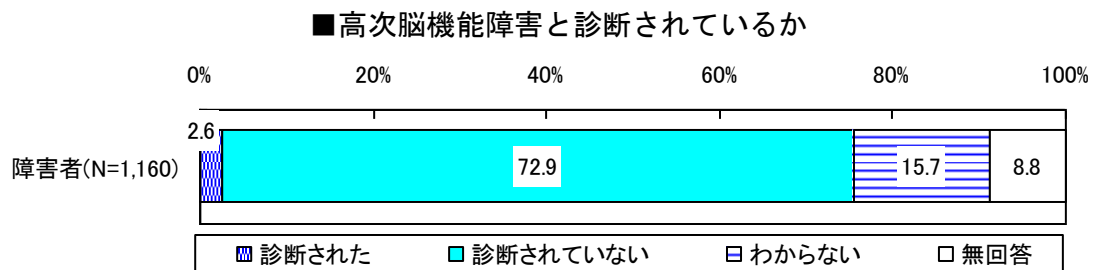


(2) 高次脳機能障害、難病、発達障害の状況

- 高次脳機能障害として、「診断された」は2.6%、「診断されていない」が72.9%、「わからない」が15.7%となっています。
- 難病の認定について、「受けている」は8.2%、「受けていない」が76.0%、「わからない」が7.8%となっています。
- 発達障害として、「診断された」は5.0%、「診断されていない」が76.4%、「わからない」が8.1%となっています。
- 診断・判定の内容は、「自閉症スペクトラム（自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害）」が50.0%、「その他」が32.8%、「学習障害（LD）」及び「注意欠陥多動性障害（AD/HD）」がそれぞれ6.9%となっています。

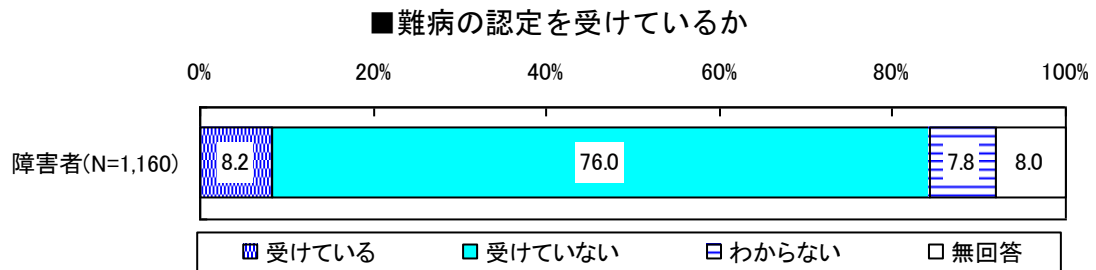
① 高次脳機能障害と診断されているか

問10 アンケートの宛名のあなたは、高次脳機能障害と診断されていますか。
(1つだけ○)



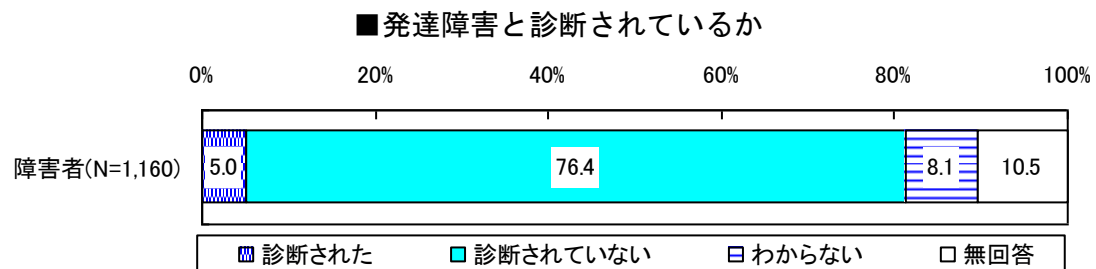
② 難病の認定を受けているか

問11 アンケートの宛名のあなたは、難病の認定を受けていますか。(1つだけ○)

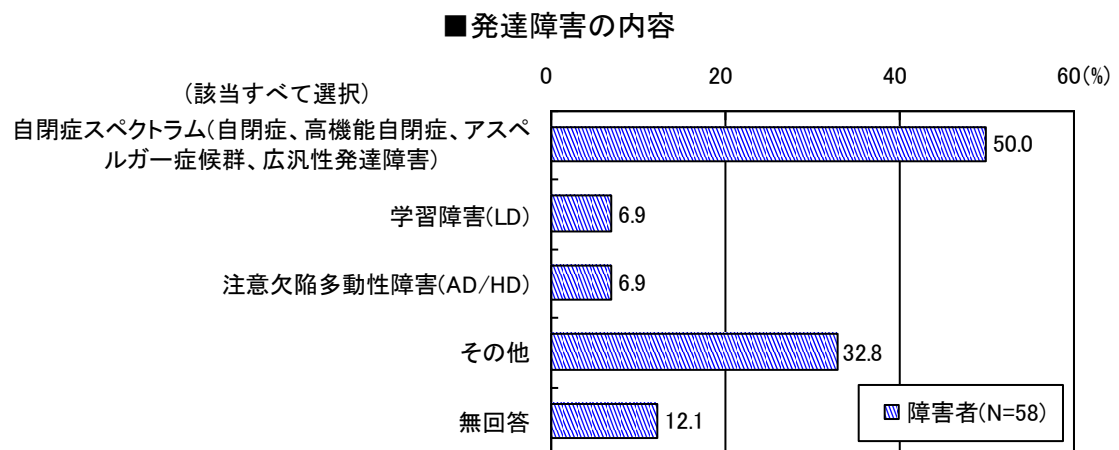


③ 発達障害と診断されているか

問12 アンケートの宛名のあなたは、発達障害と診断されていますか。(1つだけ○)



④ 診断・判定の内容

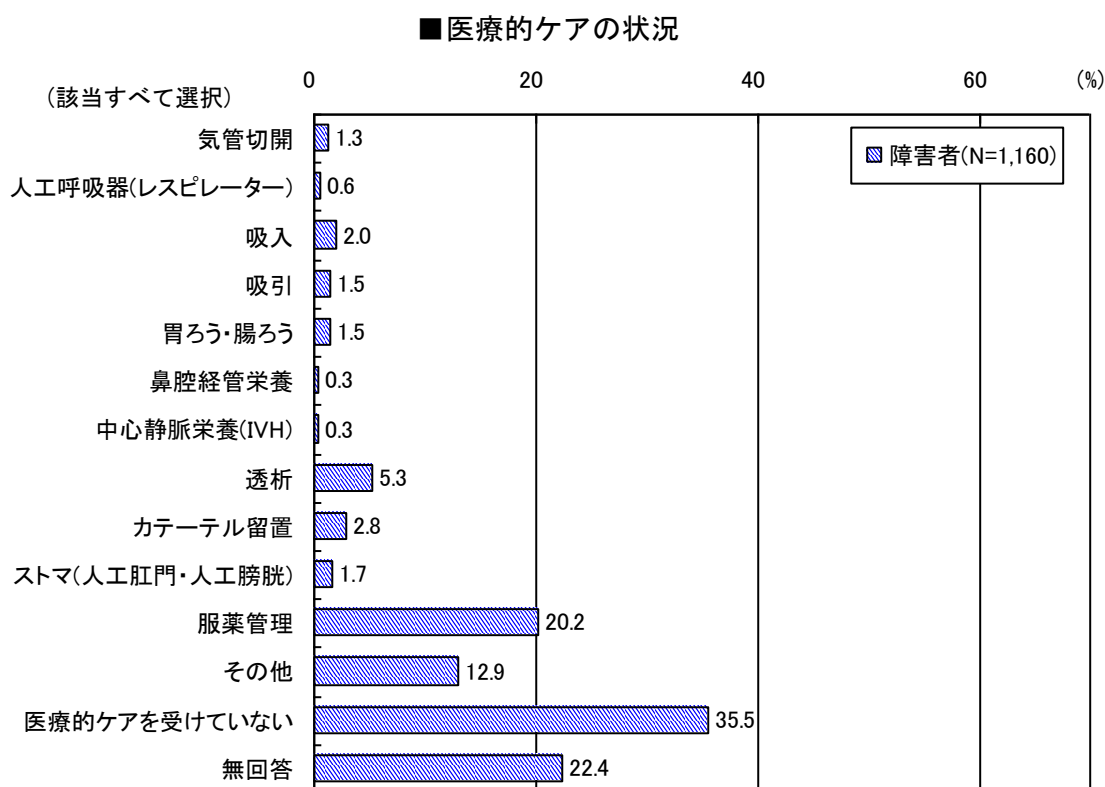


(3) 医療との関係

- 医療的ケアを受けている人は、「医療的ケアを受けていない」の35.5%と無回答の22.4%を除いた42.1%となっています。
- 受けているケアで最も高いのが「服薬管理」で20.2%、次いで「その他」が12.9%、「透析」が5.3%で、これ以外は5%を割っています。
- 夜間や休日に急に具合が悪くなったことがある人は、「夜間や休日に急に具合が悪くなったことはない」の35.3%と無回答の13.0%を除いた51.7%となっています。対応としては、「救急車を呼んで病院にみてもらった」が22.1%で最も高く、「かかりつけ医にすぐにみてもらった」が17.1%、「その他」が4.9%などとなっています。一方、【我慢した】は「処方された薬などを服用して」が11.6%、「病院や診療所の診察が始まるまで」が10.4%、「何もしないで」が4.8%となっています。

① 医療的ケアの状況

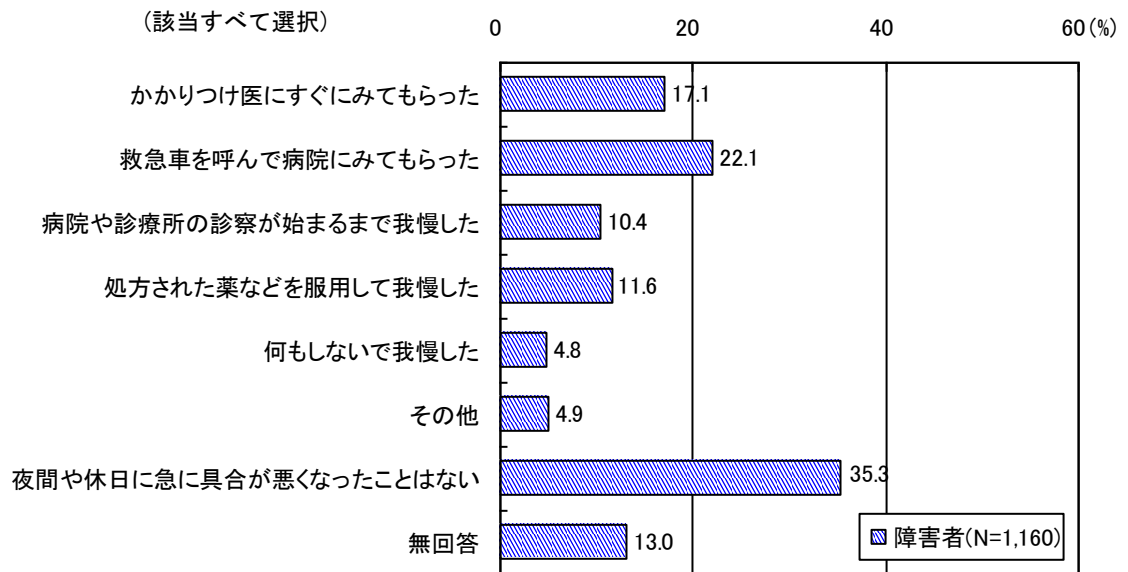
問13 アンケートの宛名のあなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。
(あてはまるものすべてに○)



② 夜間や休日に具合が悪くなった時の対応

問14 アンケートの宛名のあなたは、ご自身の障害のことで夜間や休日に急に具合が悪くなった時、どのような対応をとりましたか。(あてはまるものすべてに○)

■ 夜間や休日に具合が悪くなった時の対応



3 普段の生活について

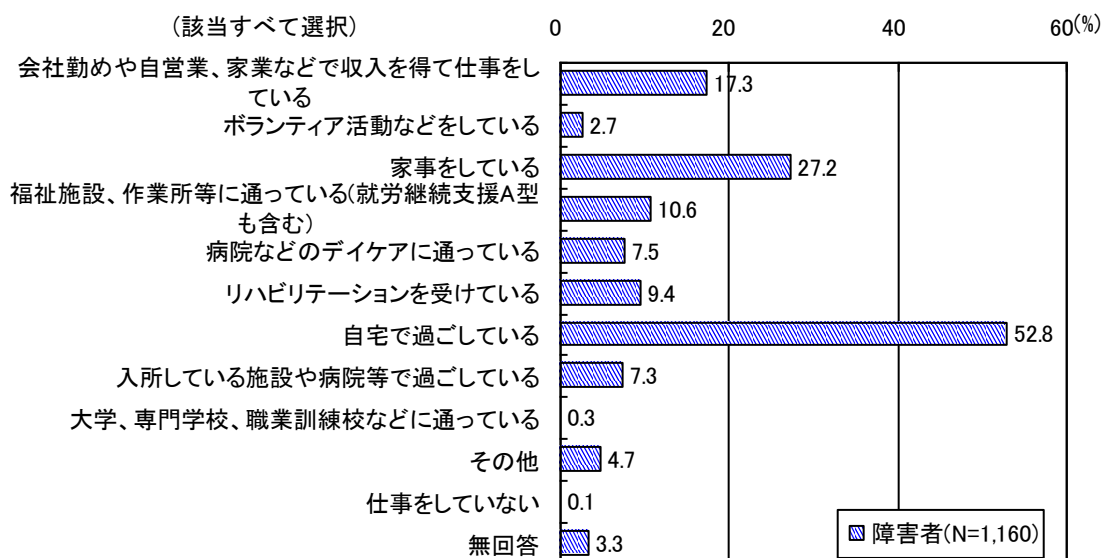
(1) 日中の過ごし方

- 平日の日中の過ごし方としては、「自宅で過ごしている」が52.8%で最も高く、次いで「家事をしている」が27.2%、「会社勤めや自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が17.3%、「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が10.6%などとなっています。
- 「仕事をしている」は、青年層が30.8%、壮年層が30.9%、高齢層が7.0%で、青年層は「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が41.5%で、他の年齢層よりも高くなっています。
- 「仕事をしている」場合の仕事の形態は、「正社員で他の社員と勤務条件等に違いはない」が32.3%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等の非常勤社員、派遣社員」が27.9%、「自営業、農林水産業など」が20.4%、「その他」が10.9%などとなっています。
- 青年層及び壮年層は「正社員で他の社員と勤務条件等に違いはない」が最も高く、それぞれ37.5%、42.0%となっています。また、「正社員で短時間勤務などの障害者配慮がある」を合わせると、【正社員】は青年層が50.0%、壮年層が47.4%となっています。高齢層は「自営業、農林水産業など」が56.5%で最も高くなっています。
- 未就労者が就労していない理由は、「病気や障害があるため」が49.5%、「体力がついていかない」が21.2%、「その他」が19.3%で、これ以外は10%を割っています。
- 未就労者の就労意向では、「仕事をしたい」が21.5%、「仕事をしたくない」が8.4%、「できない」が55.0%と半数を超えています。
- 仕事をするため、またはスキルアップするため、職業訓練を受けたいかどうかでは、「すでに職業訓練を受けている」が3.1%で、「職業訓練を受けたい」は17.6%となっています。
- 障害のある人の就労支援として必要なことは、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が35.8%で最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数等の配慮」（27.1%）、「通勤手段の確保」（27.0%）、「一般の職場で働くことが難しい人を受け入れてくれる施設」（26.4%）などが僅差で続きます。
- 日常生活で困っていることは、「特にない」の17.9%と無回答の8.6%を除いた73.5%があげていて、その中では「自分の健康のこと」が44.5%で最も高く、次いで「老後のこと」（32.5%）、「通院や外出」（23.5%）、「自分や家庭の経済問題」（21.0%）、「介助者の健康や高齢化」（20.3%）などとなっています。
- 平日の夕方、休日などの居場所や活動の場への希望は、「特にない」の39.1%と無回答の12.4%を除いた48.5%があげていて、その中では「友だちと話をしたり、くつろげる場」（26.2%）や「趣味などのサークル活動」（20.5%）、「スポーツ・レクリエーション活動」（15.0%）が高く、これ以外は10%を割っています。

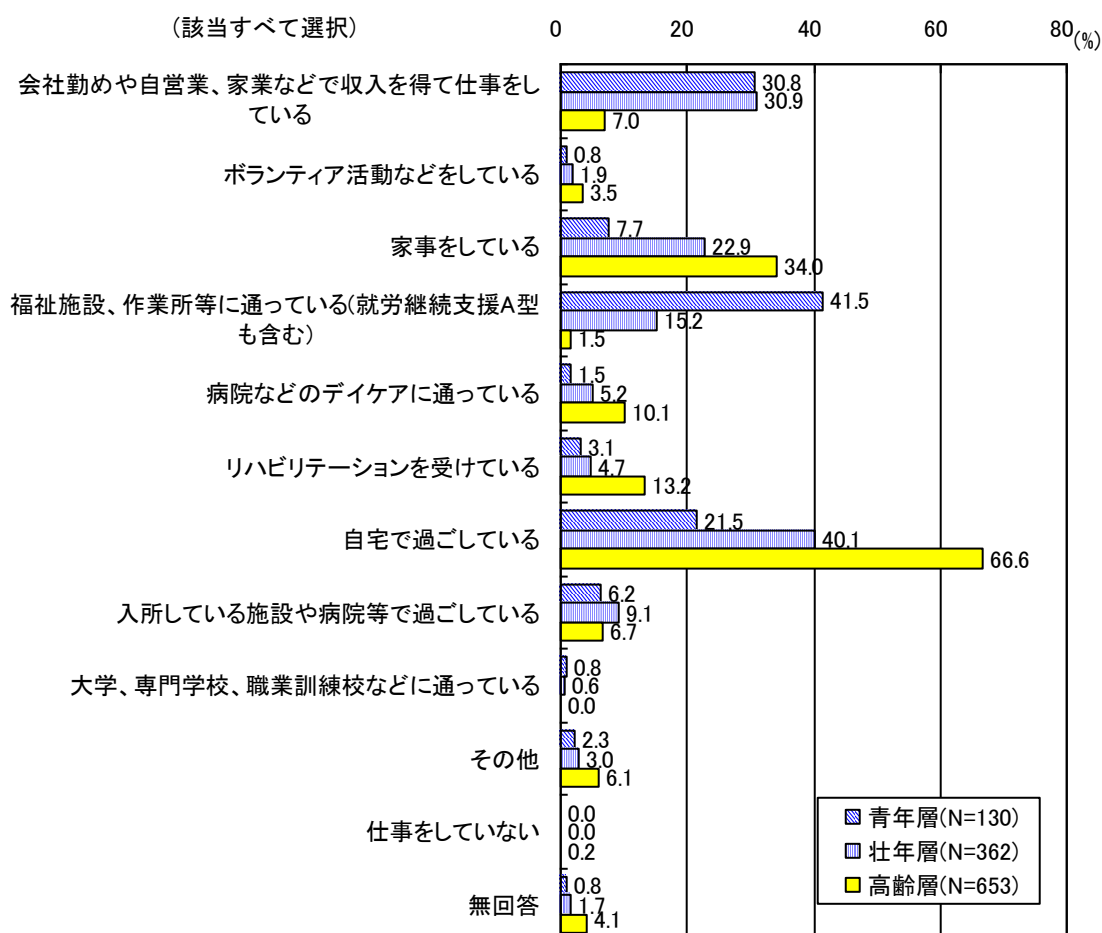
① 平日の日中の過ごし方

問15 アンケートの宛名のあなたは、平日の日中をどのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○印)

■平日の日中の過ごし方



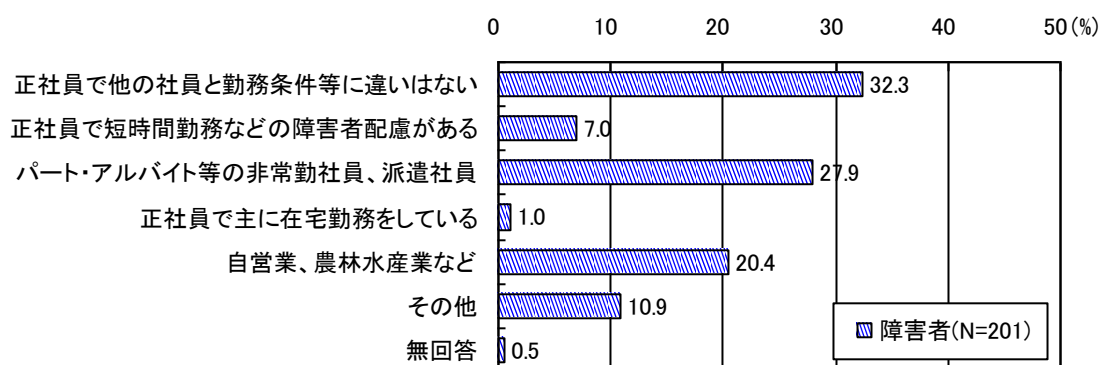
■年齢3区分別 平日の日中の過ごし方



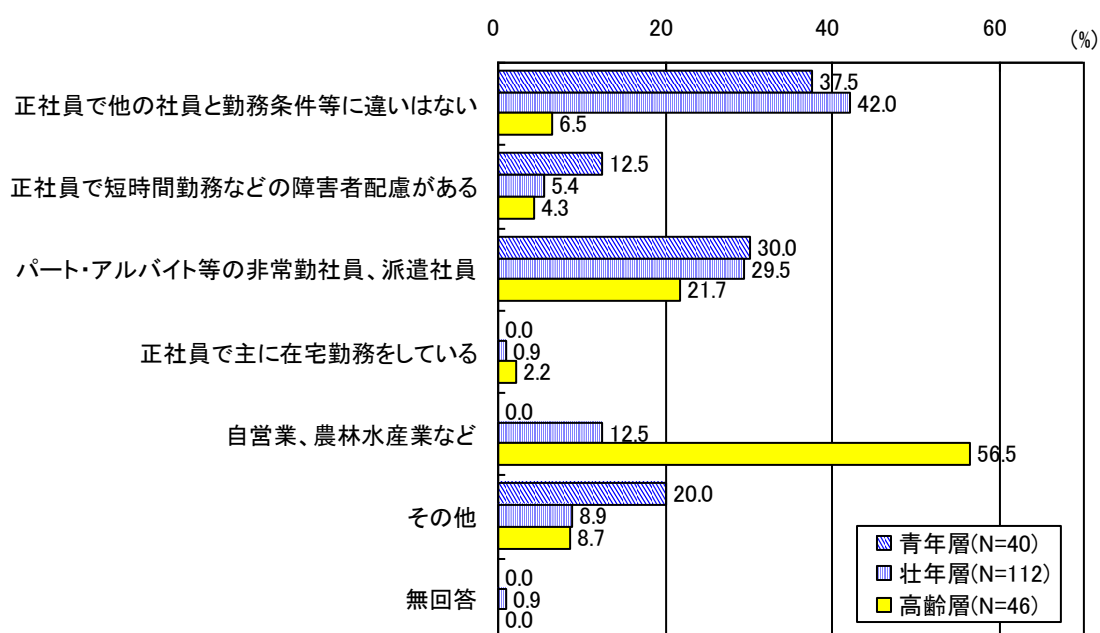
② 仕事の形態

問16 問15で「1. 会社勤めや自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」とお答えの方におたずねします。あなたはどのような形態で働いていますか。
(1つだけ○)

■ 仕事の形態

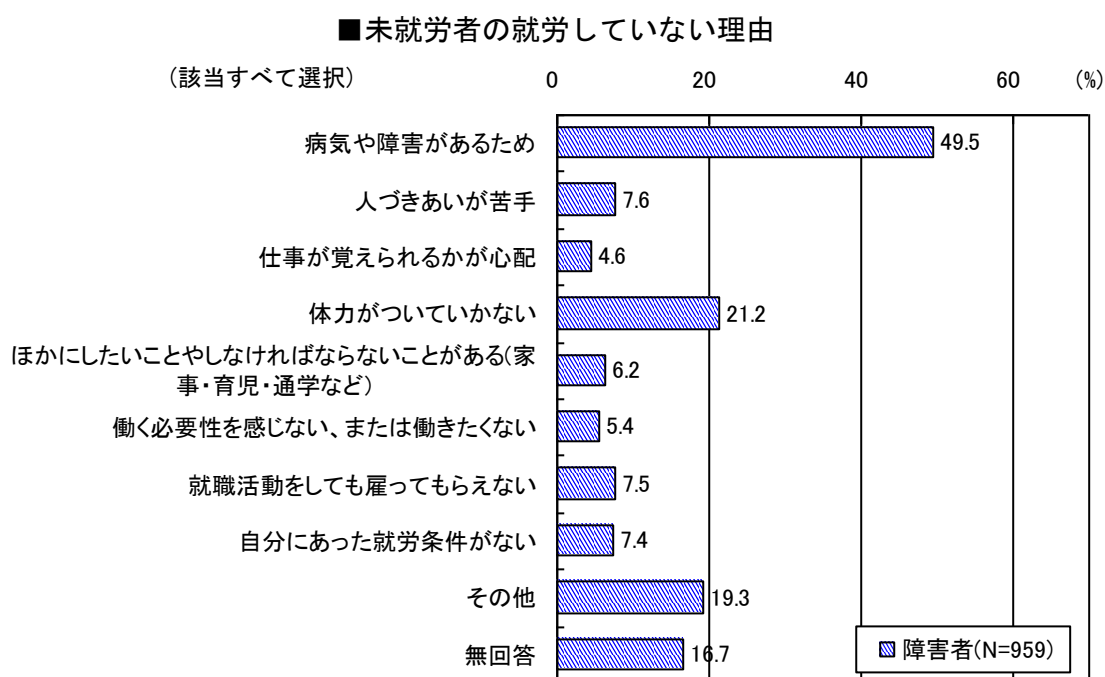


■ 年齢3区分別 仕事の形態



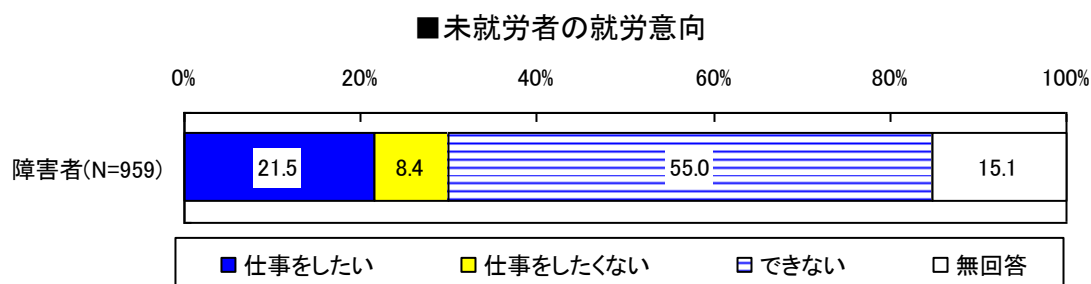
③ 未就労者が就労していない理由

問17 問15で「1. 会社勤めや自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」以外で「2. ボランティア活動などをしている」「3. 家事をしている」「4. 福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」「5. 病院などのデイケアに通っている」「6. リハビリテーションを受けている」「7. 自宅で過ごしている」「8. 入所している施設や病院等で過ごしている」「9. 大学、専門学校、職業訓練校などに通っている」「10. その他」のみをお答えの方におたずねします。あなたが収入を得る仕事をしていないのはどのような理由によりますか。（あてはまるものすべてに○）



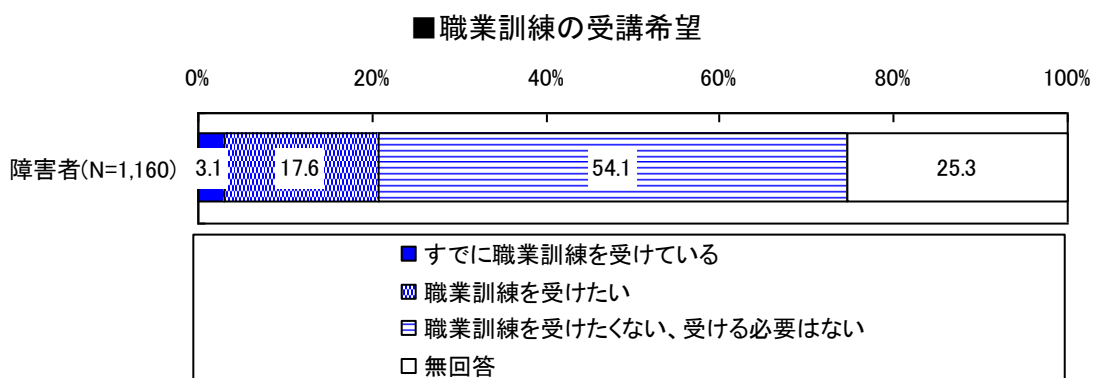
④ 未就労者の就労意向

問18 問15で「1. 会社勤めや自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」以外で「2」～「10」のみをお答えの方におたずねします。あなたは今後収入を得る仕事をしたいと思いますか。（1つだけ○）



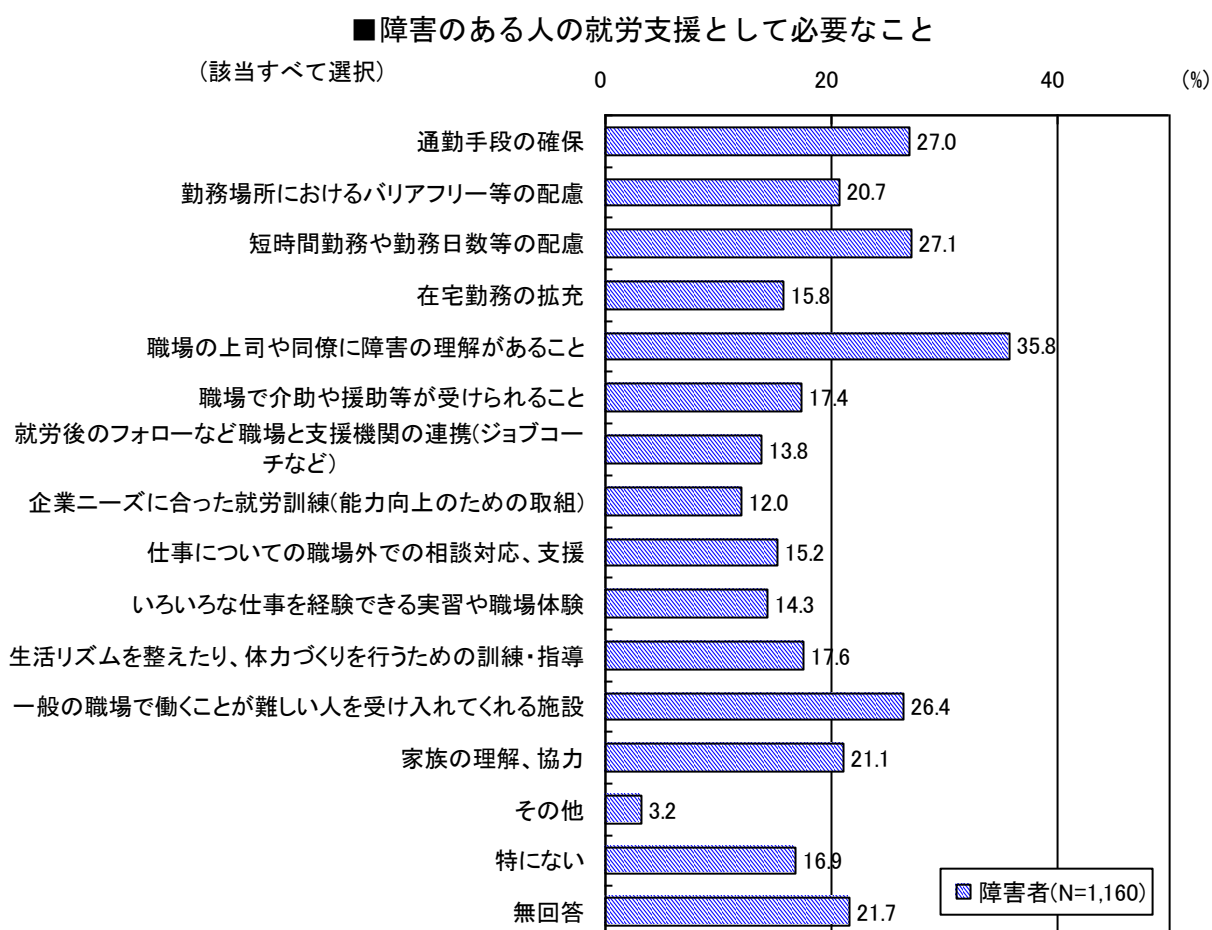
⑤ 職業訓練の受講希望

問19 アンケートの宛名のすべての方におたずねします。仕事をするために、またはスキルアップするために、職業訓練などを受けたいと思いますか。（1つだけ○）



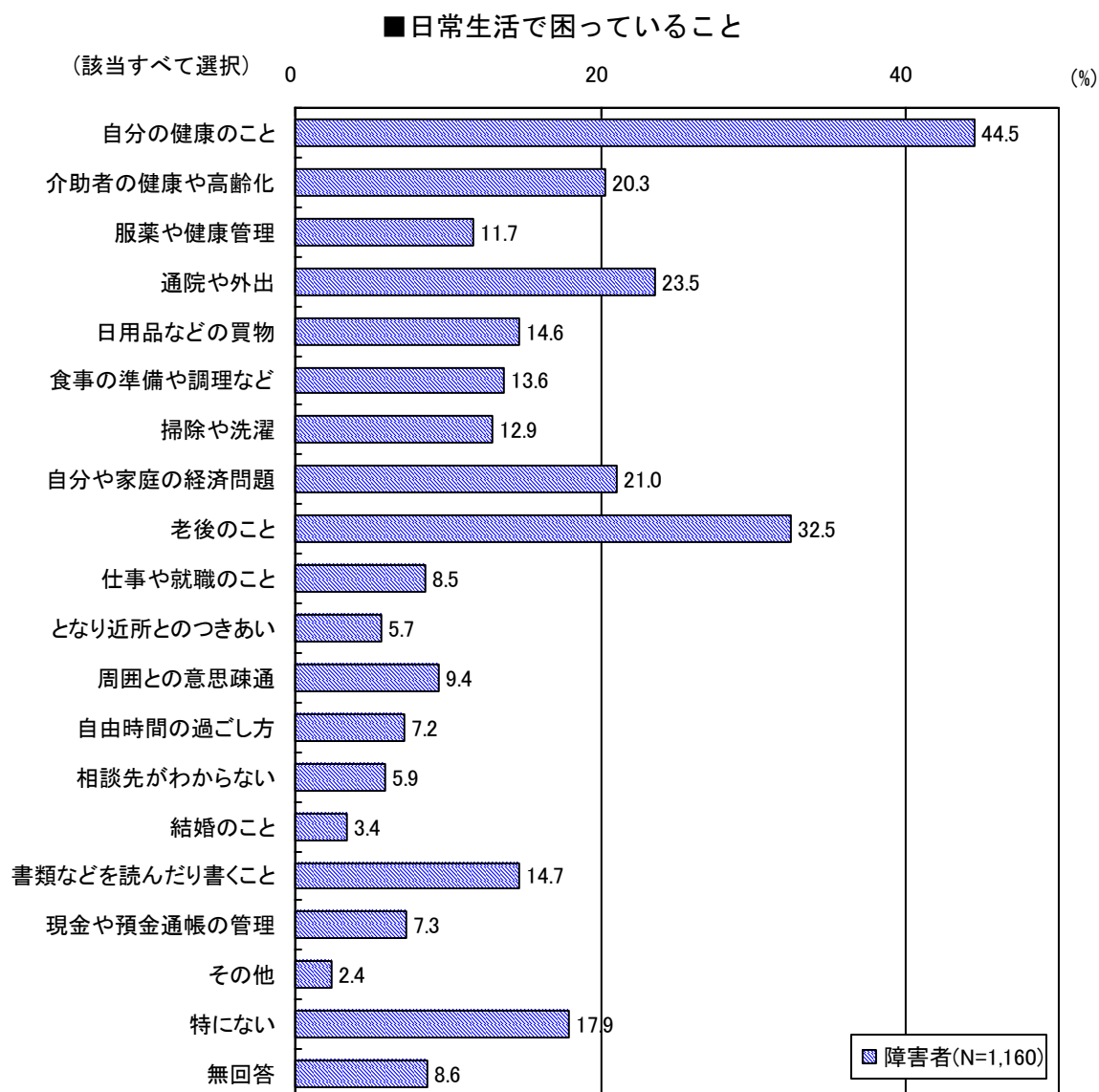
⑥ 障害のある人の就労支援として必要なこと

問20 アンケートの宛名のあなたは、障害のある人の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



⑦ 日常生活で困っていること

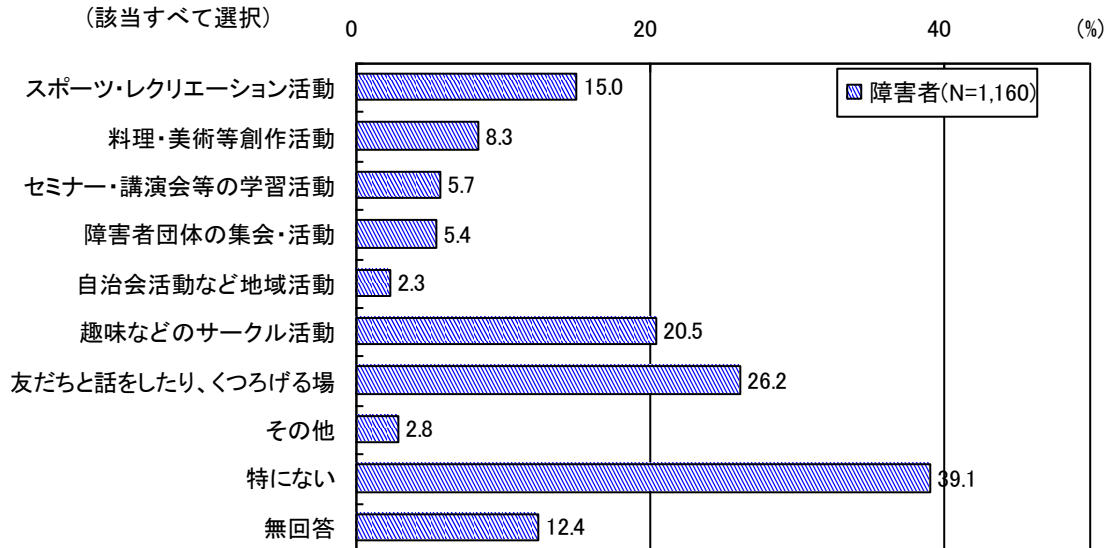
問21 アンケートの宛名のあなたは、日常生活で何か困っていることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)



⑧ 平日の夕方、休日などの居場所や活動の場への希望

問22 アンケートの宛名のあなたは、平日の夕方、休日などの居場所や活動の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

■平日の夕方、休日などの居場所や活動の場への希望



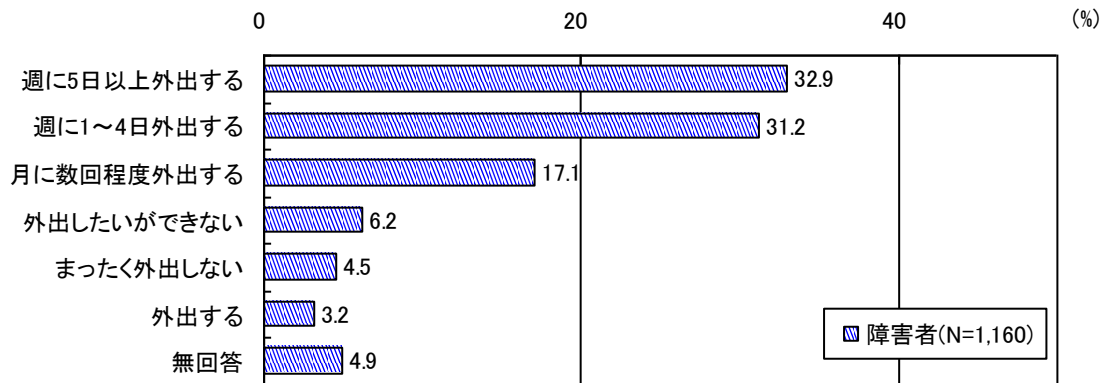
(2) 外出について

- 1週間に外出する頻度は、「週に5日以上外出する」が32.9%、「週に1～4日外出する」が31.2%、「月に数回程度外出する」が17.1%、「外出する」が3.2%で、【外出する】は合わせて84.4%となっています。一方、「外出したいができない」が6.2%、「まったく外出しない」が4.5%となっています。
- 外出する際、「一人で外出する」が61.5%となっています。一方、同行者がいる場合は「夫または妻」が29.8%、「子どもや子どもの配偶者」が15.2%、「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が14.8%、「ホームヘルパーなどサービス事業所の人」が14.2%、「グループホームや施設の指導員など」が5.8%などとなっています。
- 外出の時に困ることは、「特にない」の27.8%と無回答の8.2%を除いた64.0%があげていて、「道路や駅に階段や段差が多い」が24.6%、「休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)」が20.0%、「外出にお金がかかる」が16.9%、「列車やバスの乗り降りが困難」が15.8%などとなっています。

① 1週間の外出回数

問23 アンケートの宛名のあなたは、通学、通勤なども含め、1週間にどの程度外出しますか。(1つだけ○)

■ 1週間の外出回数

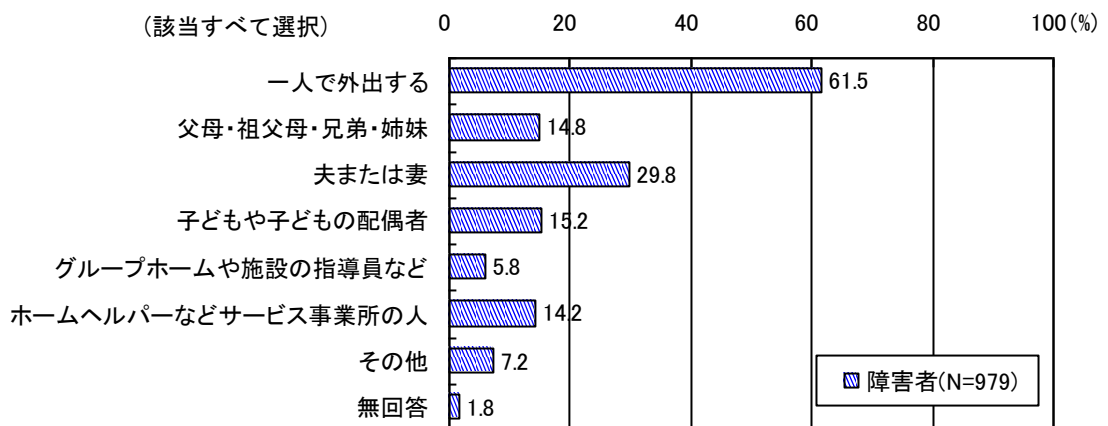


注)「外出する」は、問23に無回答で問24・25に回答した人のために集計上設定。

② 外出の際の同行者

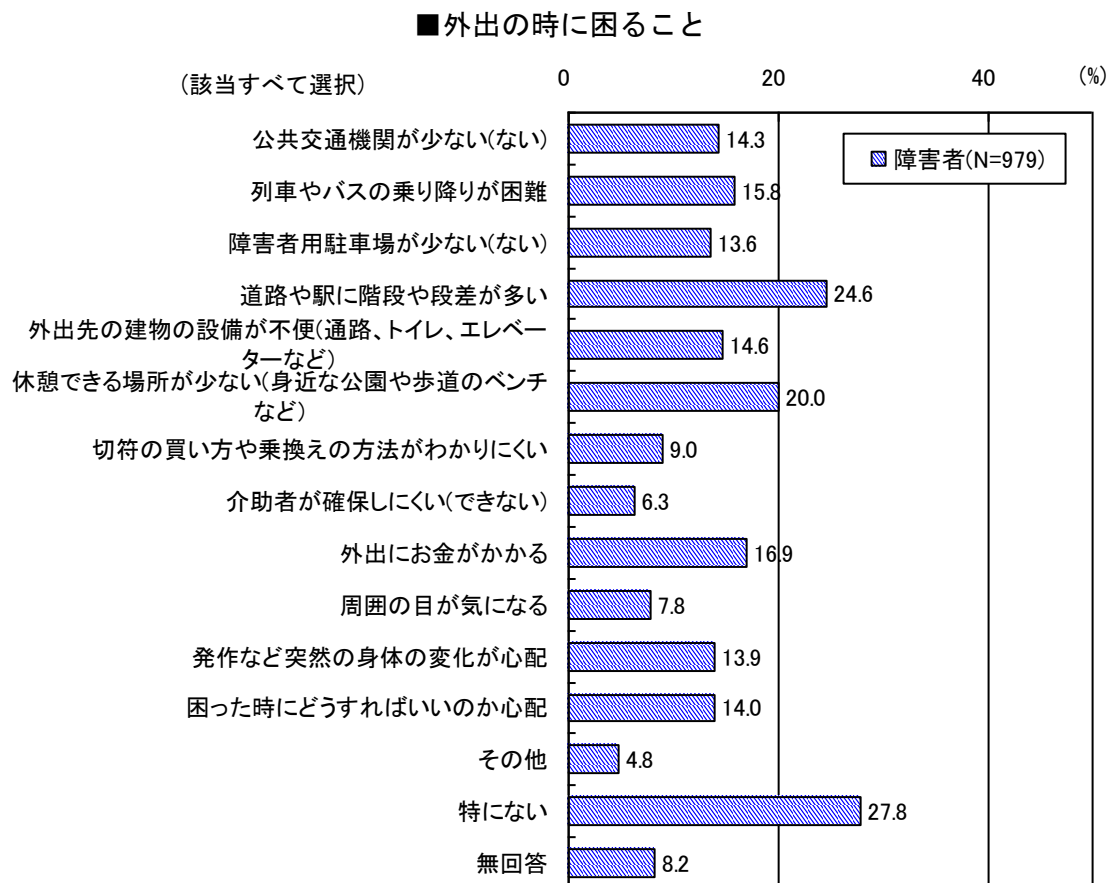
問24 問23で「1. 週に5日以上外出する」「2. 週に1～4日外出する」「3. 月に数回程度外出する」とお答えの方におたずねします。あなたは、外出する際に誰と外出しますか。(あてはまるものすべてに○)

■ 外出の際の同行者



③ 外出の時に困ること

問25 問23で「1. 週に5日以上外出する」「2. 週に1～4日外出する」「3. 月に数回程度外出する」とお答えの方におたずねします。あなたが外出の時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



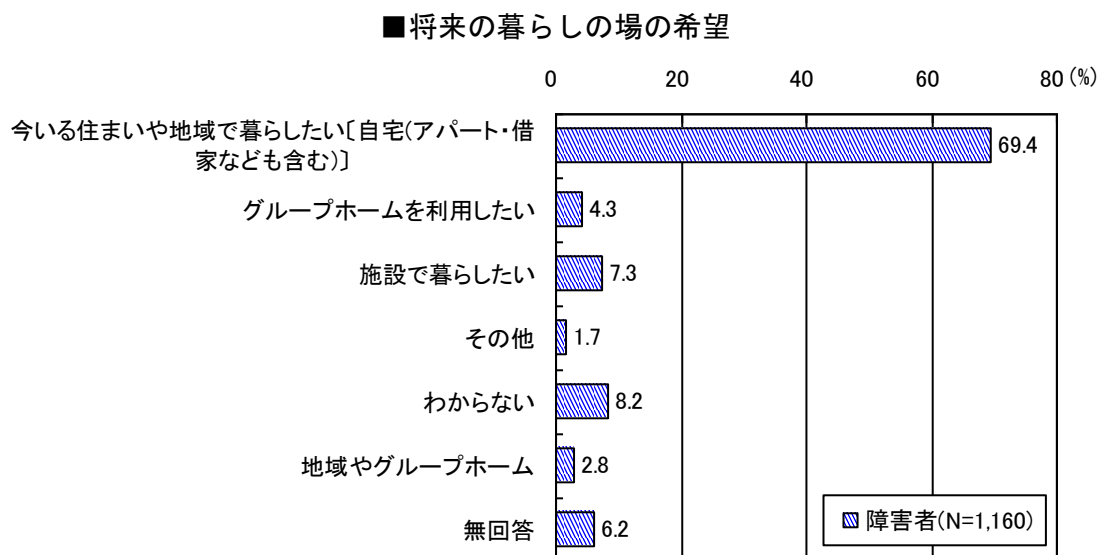
4 将来の暮らしについて

(1) 暮らしの場

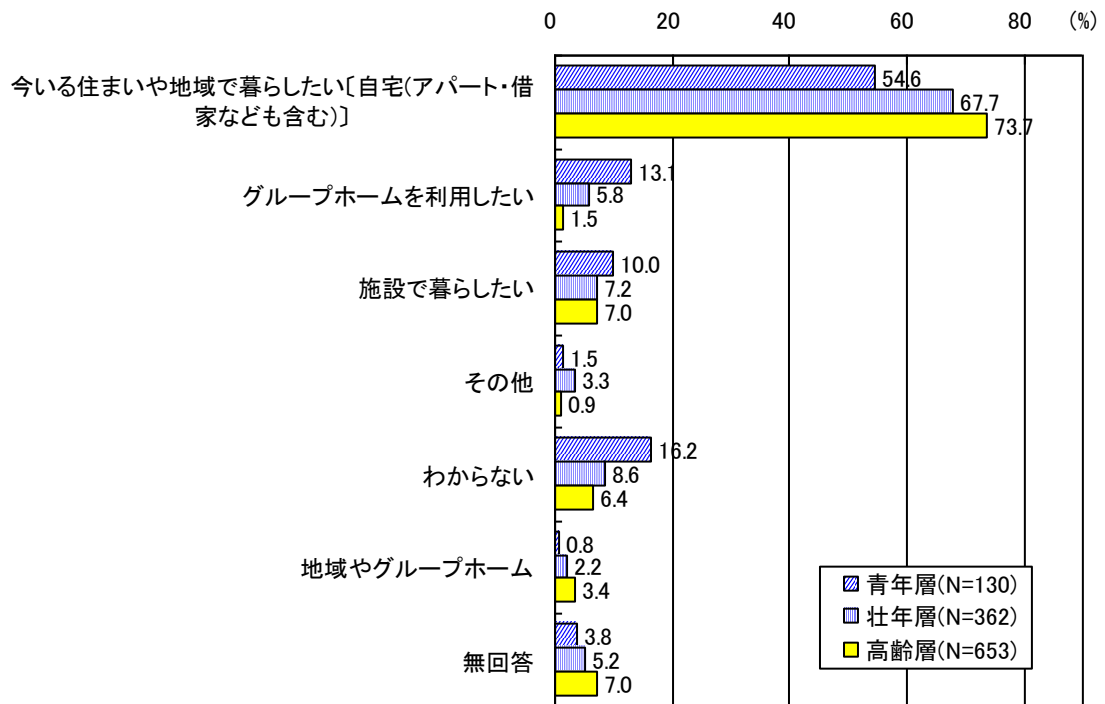
- 将来の暮らしの場の希望は、「今いる住まいや地域で暮らしたい〔自宅(アパート・借家なども含む)〕」が69.4%、「グループホームを利用したい」が4.3%、「地域やグループホーム」が2.8%で、【在宅】が合わせて76.5%、「施設で暮らしたい」が7.3%、「その他」が1.7%となっています。また、「わからない」が8.2%となっています。
- 「グループホームを利用したい」や「施設で暮らしたい」は、青年層が他の年齢層より高く、それぞれ13.1%、10.0%となっています。
- 在宅を希望する場合の支援としては、「経済的な負担の軽減」が54.4%で最も高く、次いで「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること」が42.6%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が41.8%などとなっています。
- 「経済的な負担の軽減」については、「公共料金(電気・ガス・水道など)」(62.1%)と「医療費」(58.4%)が高く、次いで「各種税金」が48.7%、「タクシー代等交通費」が44.5%などと続きます。

① 将来の暮らしの場の希望

問26 アンケートの宛名のあなたは、将来どのように暮らしたいと思いますか。
(1つに○印)



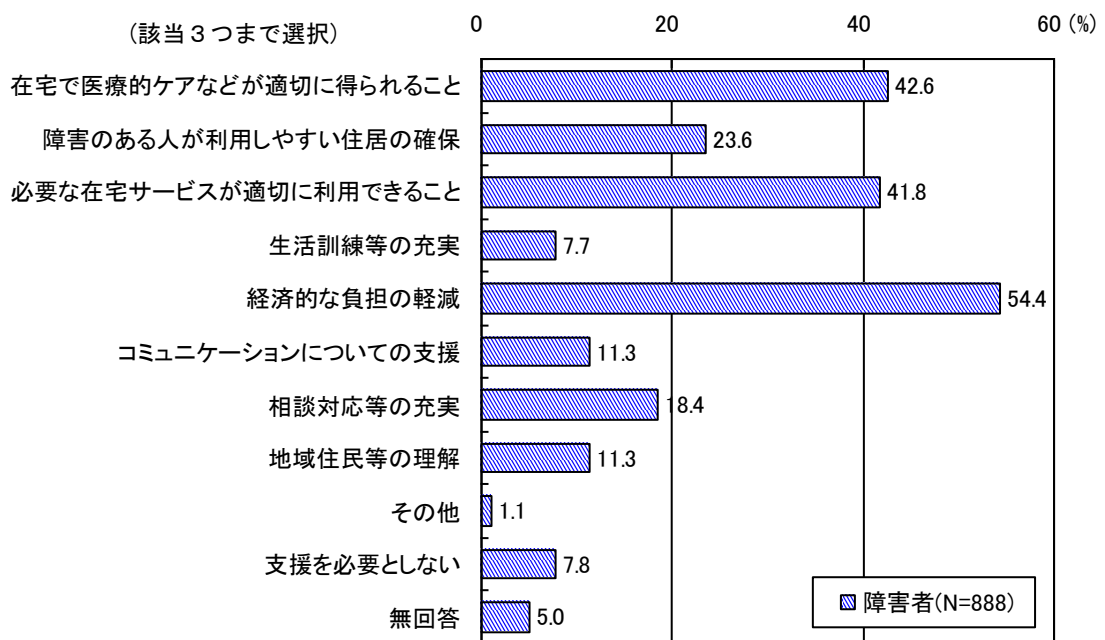
■年齢3区分別 将来の暮らしの場の希望



② 在宅で暮らす場合に必要な支援

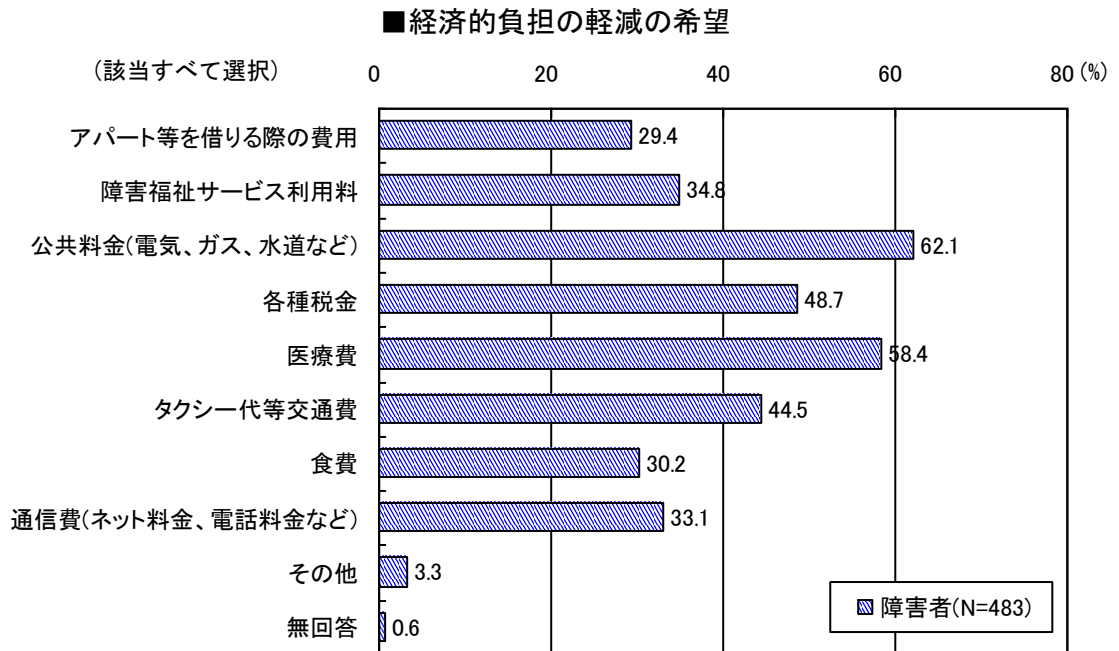
問27 問26で「1. 今いる住まいや地域で暮らしたい〔自宅(アパート・借家なども含む)〕または「2. グループホームを利用したい」とお答えの方におたずねします。在宅で暮らす場合、どのような支援があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

■在宅で暮らす場合に必要な支援



③ 経済的負担の軽減の希望

問28 問27で「5. 経済的な負担の軽減」とお答えの方におたずねします。あなたは、どのような経済的負担の軽減があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○印)



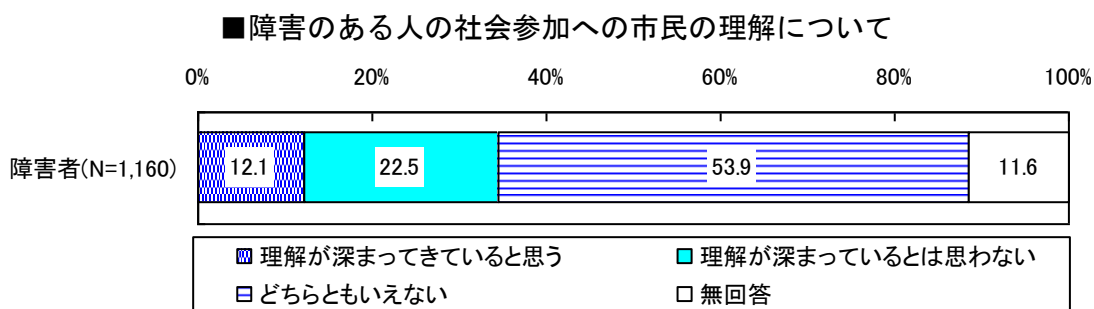
5 地域での生活について

(1) 差別や偏見について

- 障害のある人の社会参加への市民の理解について、「理解が深まってきていると思う」が12.1%、一方、「理解が深まってきているとは思わない」が22.5%で、児童に比べて「理解が深まってきているとは思わない」が半分程度となっています。また、「どちらともいえない」が53.9%となっています。
- 障害があるために差別や嫌な思いをする（した）ことについて、「ある」は20.3%、「少しある」は20.9%、また、この質問には無回答で次の嫌な思いや差別を受けた場面に回答した人は1.5%で、合わせて【ある】は42.7%となっていて、障害児調査より30ポイント程度低くなっています。一方、「ない」は49.2%となっていて、「ない」が若干高くなっています。
- 差別や嫌な思いをする場面は、障害児調査と同様に、「人間関係」（44.2%）と「街なかでの人の視線」（36.7%）が高く、他には「仕事を探す時や収入」が25.0%、「病院や歯科医院での診療時」が20.8%、「店などでの応対・態度」が19.6%などとなっています。

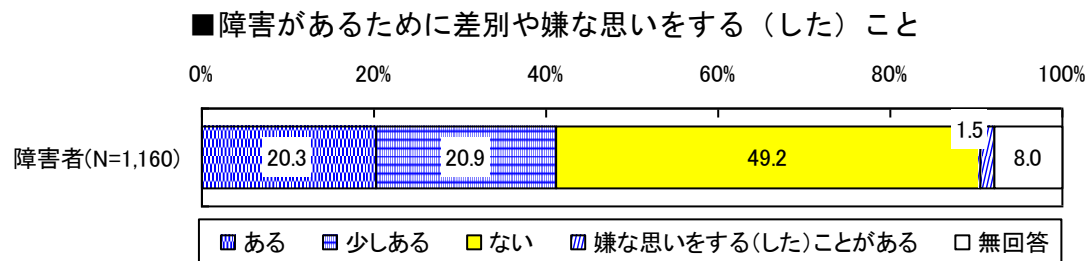
① 障害のある人の社会参加への市民の理解について

問29 アンケートの宛名のあなたは、障害のある人の地域活動や就職などの社会参加について、市民の理解が深まってきていると思いますか。（1つだけ○）



② 障害があるために差別や嫌な思いをする（した）こと

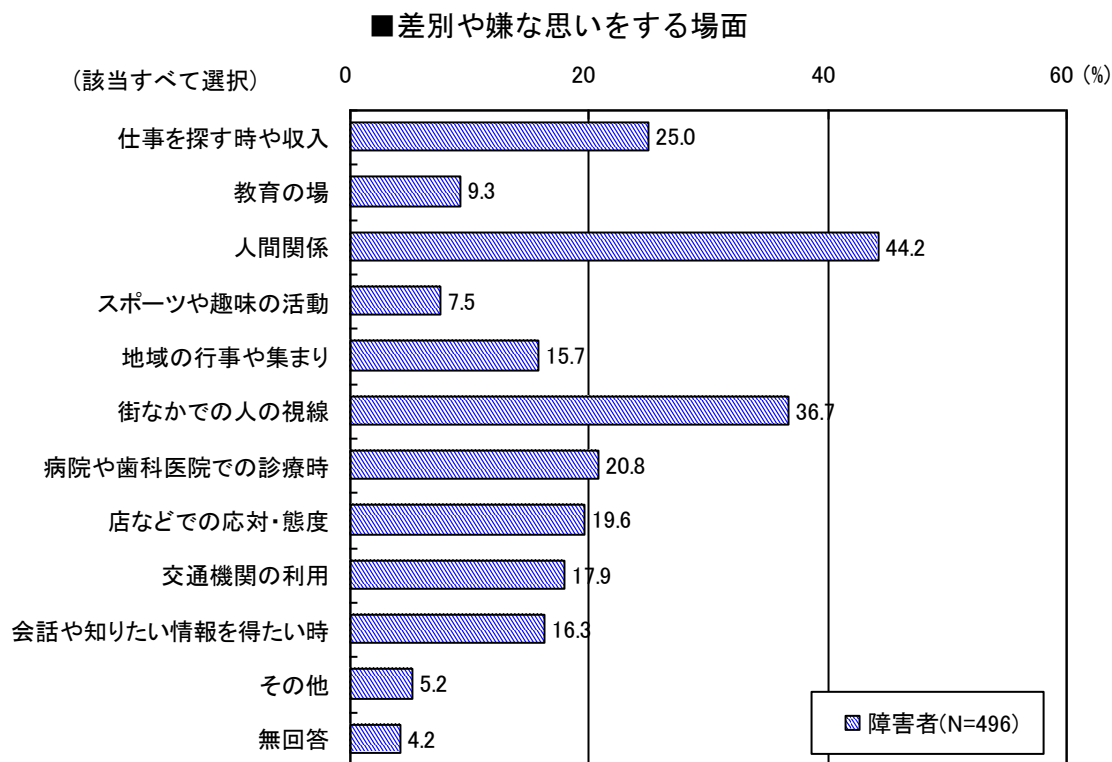
問30 アンケートの宛名のあなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（1つだけ○）



注)「嫌な思いをする(した)ことがある」は、問30に無回答で問31に回答した人のために集計上設定。

③ 差別や嫌な思いをする場面

問31 問30で「1. ある」または「2. 少しある」とお答えの方におたずねします。
どのような場面で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)



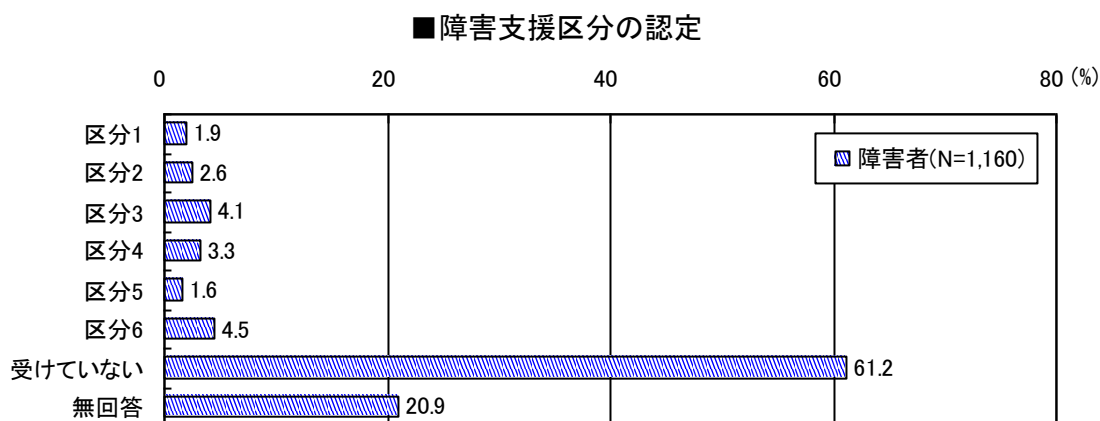
6 障害福祉サービス等の利用について

(1) 障害福祉サービス等の利用状況

- 障害支援区分の認定を受けている人は、「受けていない」の61.2%と無回答の20.9%を除いた17.9%で、必要とされる支援度合いが最も高い「区分6」が4.5%、「区分3」が4.1%、「区分4」が3.3%、「区分2」が2.6%、「区分1」が1.9%、「区分5」が1.6%となっています。
- 介護保険制度によるサービスを「利用している」は23.6%で、一方、「利用していない」が60.6%、「わからない」が9.3%となっています。
- 高齢層の利用率は33.1%となっています。
- 障害福祉の制度やサービスを「利用している」は44.5%で、一方、【利用していない】は、「現在利用していない（以前利用したことがある）」（8.7%）、「知っているが、利用したことがない」（16.3%）、「知らなくて利用したことがない」（18.4%）、「利用していない」（0.8%）を合わせて44.2%で、「利用している」と同程度となっています。
- 利用率は、青年層が68.5%で最も高く、壮年層が52.5%、高齢層が35.5%となっています。
- 利用者の利用している制度・サービスは、「各種減免（割引）制度」が37.4%で最も高く、次いで「自立支援医療（更生医療、精神通院）」（19.0%）、「ホームヘルプサービス（居宅介護）」（18.2%）、「移動支援事業」（16.3%）などとなっています。
- 利用者で制度やサービスに対して不満に思う人は、「特にない」の41.5%と無回答の19.0%を除いた39.5%で、内容は「利用回数や時間などに制限がある」が11.0%で最も高く、次いで「利用したい日や時間に利用できない」（10.1%）、「サービス内容に関する情報が少ない」（9.9%）、「相談や手続きに時間がかかる」（9.1%）などとなっています。
- 制度やサービスの未利用の理由は、「サービスを利用する必要がない」が36.2%で最も高く、次いで「サービスに関する情報がない」が20.2%、「利用するまでの手続きがわからない」が15.4%などで、これ以外は10%を割っています。

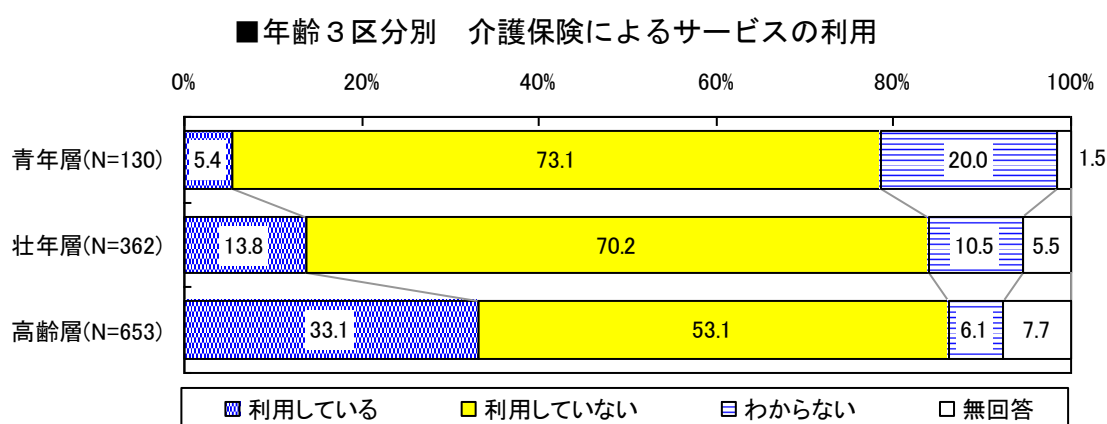
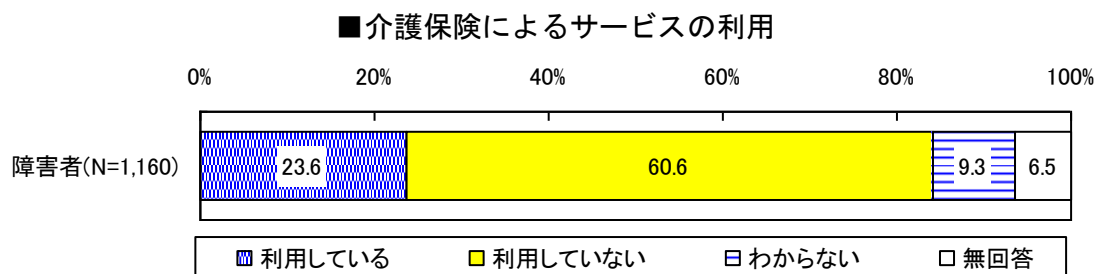
① 障害支援区分の認定

問32 アンケートの宛名のあなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。
(1つだけ○)



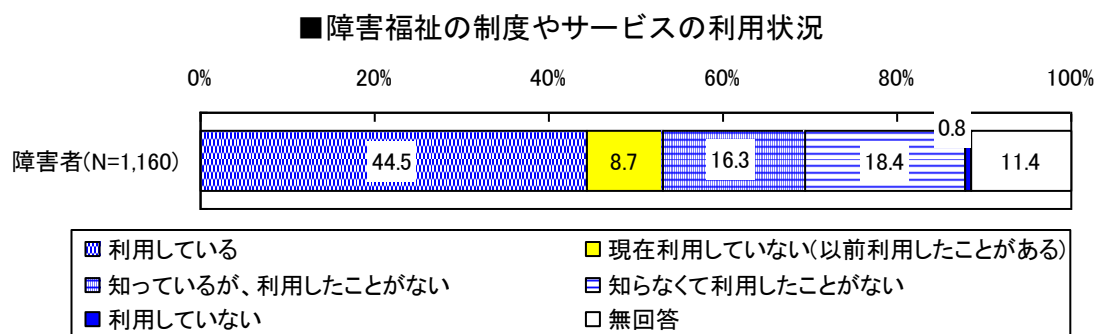
② 介護保険制度によるサービスの利用

問33 アンケートの宛名のあなたは、介護保険制度によるサービスを利用していますか。（1つだけ○）



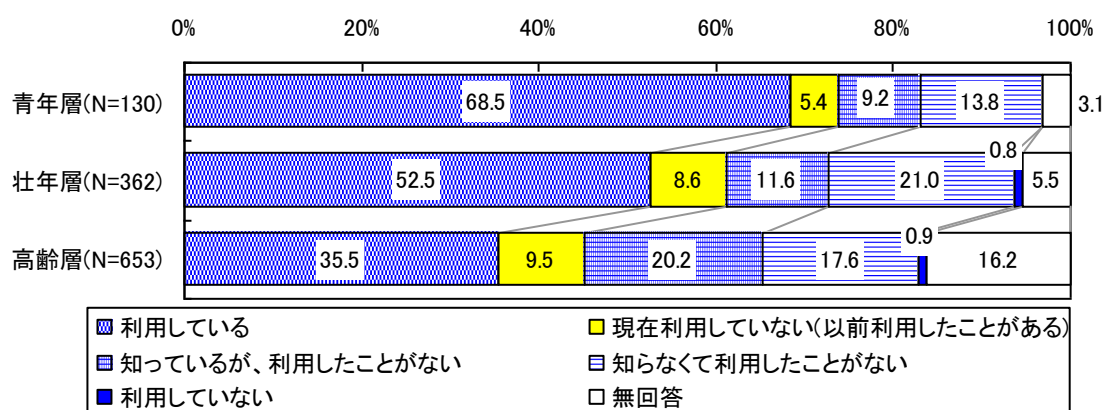
③ 障害福祉の制度やサービスの利用状況

問34 アンケートの宛名のあなたは、障害福祉の制度やサービスを利用していますか。（1つだけ○）



注)「利用していない」は、問34に無回答で問37に回答した人のため集計上設定。

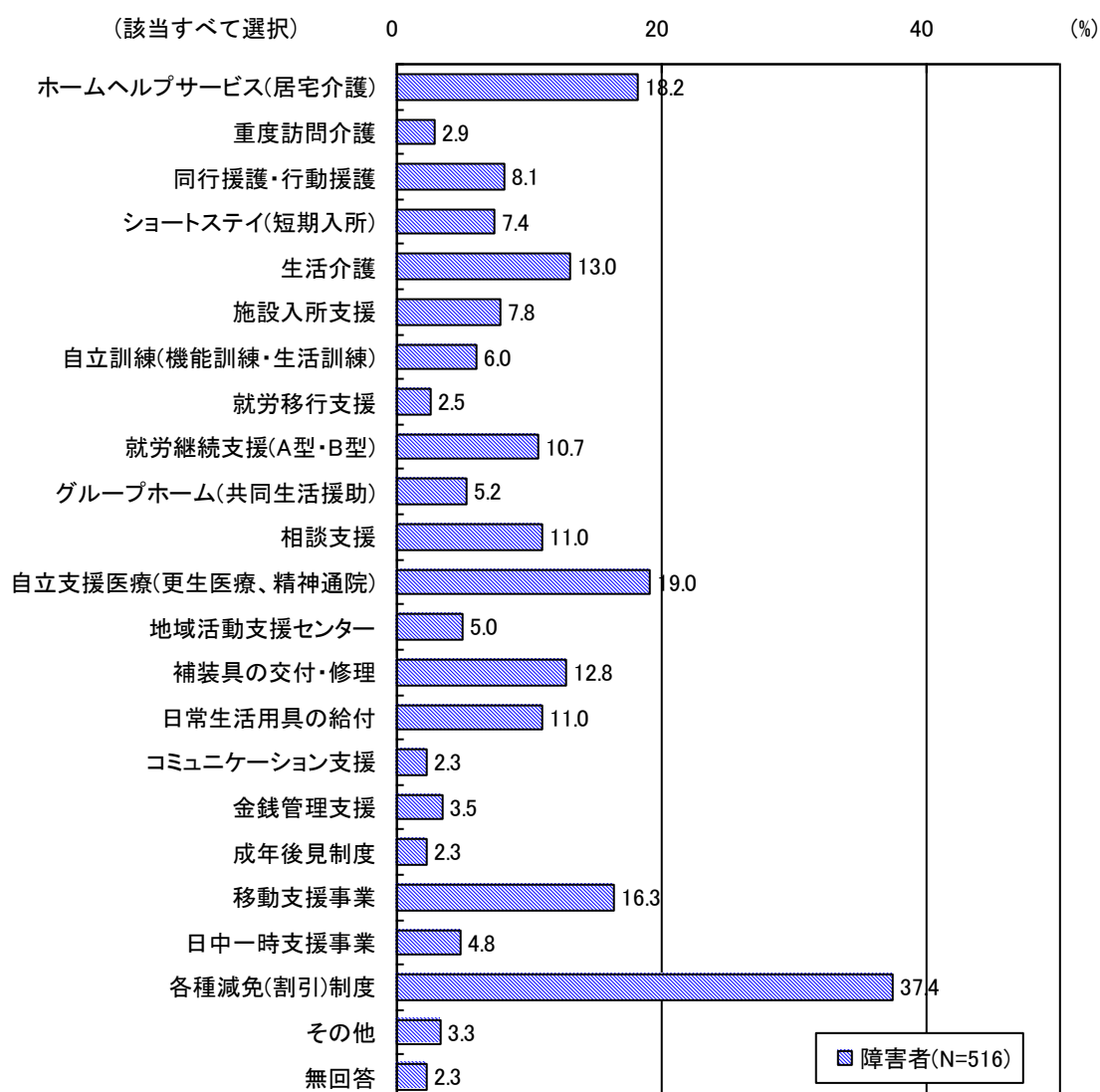
■年齢3区分別 障害福祉の制度やサービスの利用状況



④ 利用している制度やサービス

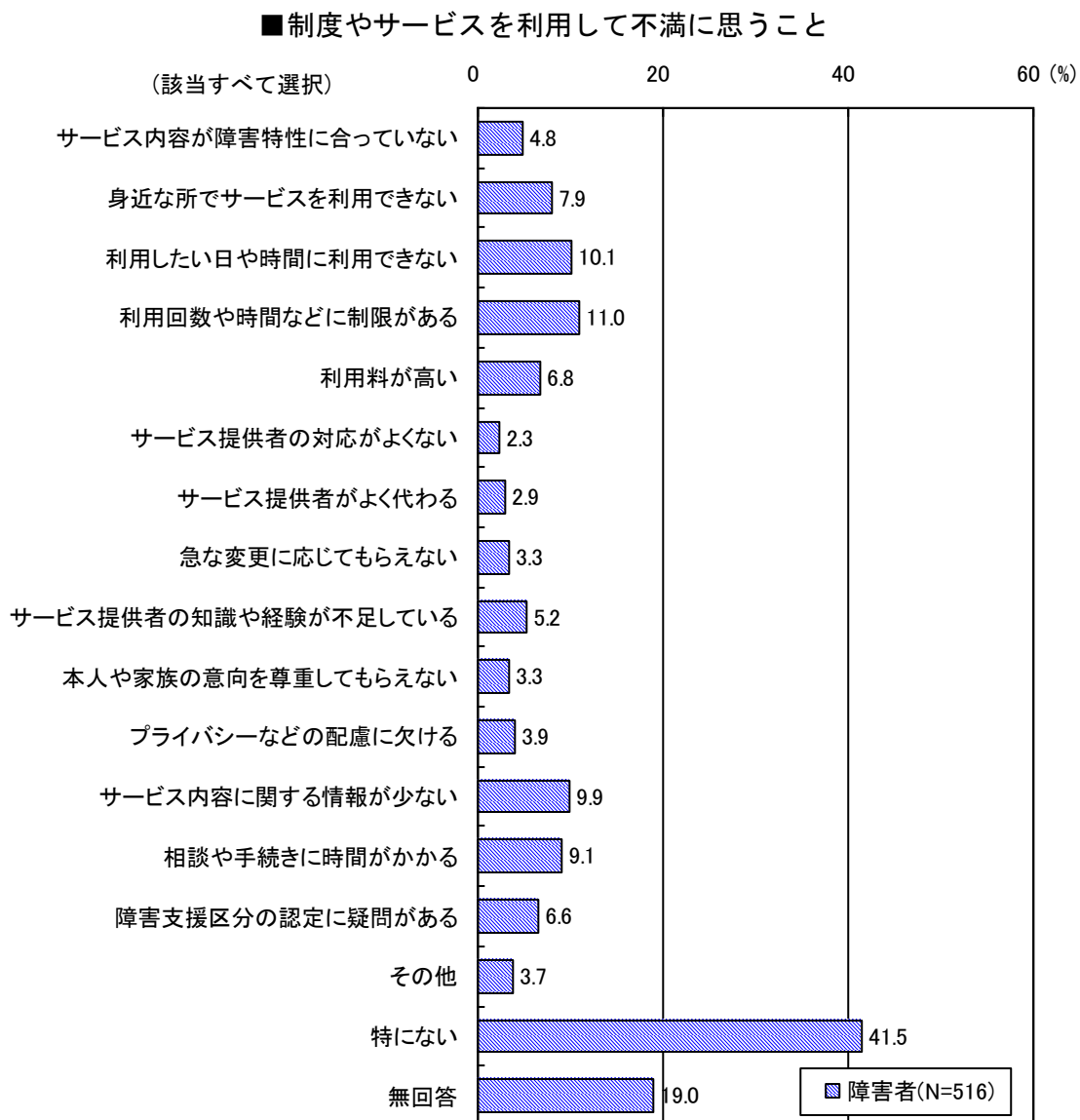
問35 問34で「1. 利用している」とお答えの方におたずねします。利用している制度やサービスは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

■利用している制度やサービス



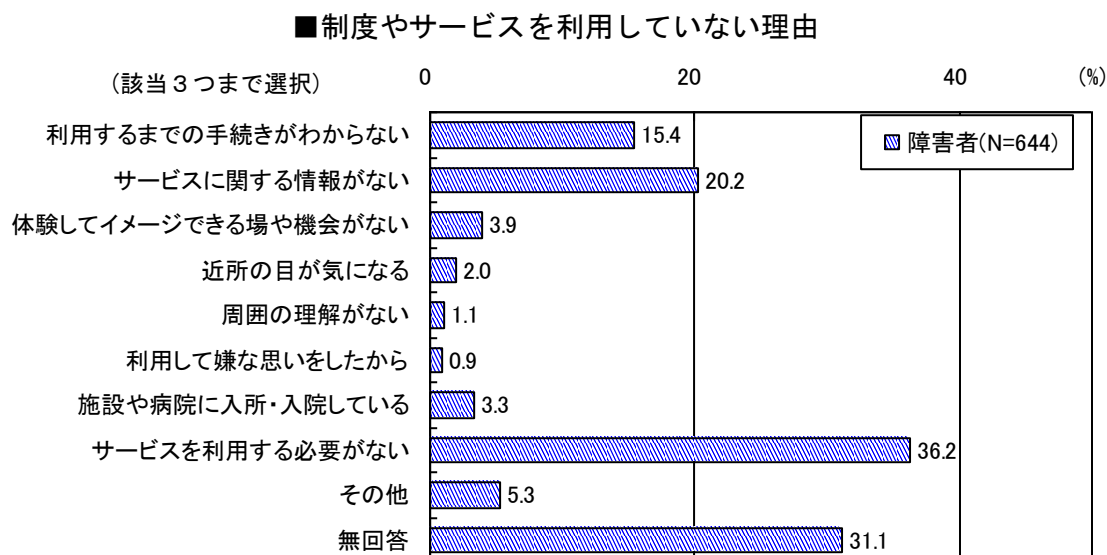
⑤ 制度やサービスを利用して不満に思うこと

問36 問34で「1. 利用したことがある」とお答えの方におたずねします。制度やサービスを利用して不満に思うことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)



⑥ 制度やサービスを利用していない理由

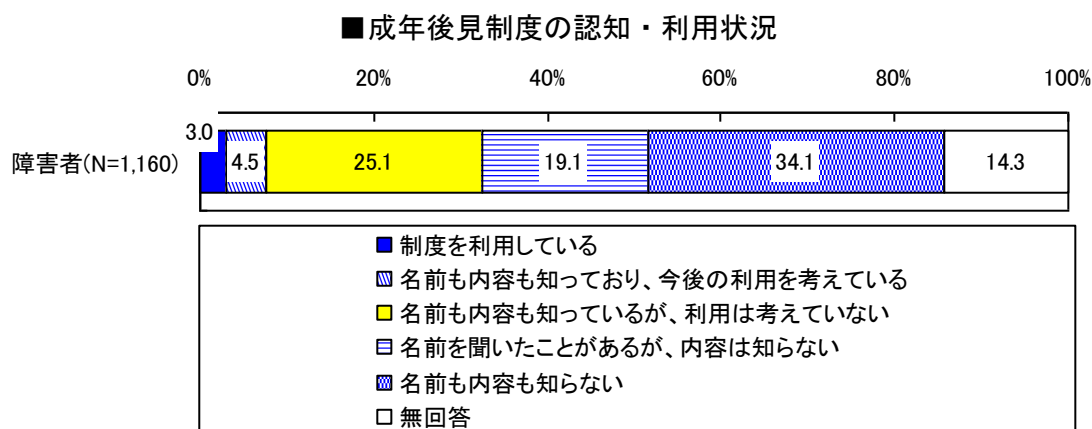
問37 問34で「2. 現在利用していない（以前利用したことがある）」「3. 知っているが、利用したことがない」「4. 知らなくて、利用したことがない」とお答えの方におたずねします。制度やサービスを利用していない理由は何ですか。（主なもの3つまでに○）



(2) 成年後見制度の認知・利用状況

- 成年後見制度について、「制度を利用している」は3.0%、「名前も内容も知っており、今後の利用を考えている」が4.5%、「名前も内容も知っているが、利用は考えていない」が25.1%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が19.1%で、【名前を知っている】は合わせて51.7%、【内容を知っている】は合わせて32.6%となっています。一方、「名前も内容も知らない」は34.1%でおよそ1/3となっています。

問38 アンケートの宛名のあなたは、成年後見制度をご存じですか。（1つだけ○）



(3) 今後の相談支援体制についての希望

- 今後の相談支援体制についての希望は、「特にない」の33.9%と無回答の17.0%を除いた49.1%があげていて、「障害にかかわる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が28.9%で最も高く、次いで「福祉の専門職を配置した相談窓口」が18.5%、「家族の悩みを受け止める家族相談員」が14.5%などとなっています。

問39 アンケートの宛名のあなたは、今後の相談支援体制について、どのようなことを希望されますか。(あてはまるものすべてに○)

■ 今後の相談支援体制についての希望

